

裕イサオブログ 「筆トーク」



パリで蠢くフリージャズ
ピアニストのフリーブログ

プロローグ

本書は、私の第一ブログ「筆トーク」全編です。9月12日---10月10日2012年。

本来の思惑は、このブログでブログ執筆は完結すると考えていました。

ところが、なんと、本書の後、「脳内シンコペーション」「ピアノは私だ」「ピアノは私だ2」と500近い記事が書かれました。追って、ブログごとに書籍化する予定です。後続ブログと比較すると、ブログのコンセプトが一番鮮明に出ていると思います。ただ、残念ながら、添付されていた私の動画は本書の中にはありませんので、もし、ご興味ある方、私のユーチューブチャンネルをご覧くださいますと幸甚です。

フリージャズピアニストという職業のせいなのか、私のピアノ演奏と同じく錯乱文体を駆使して書かれた記事です。ジャズメンの脳内は、こんな感じなのです(笑)。なんとなく、お酒のつまみのように読み飛ばして頂けると、と、考えて居ります。

裕イサオ 5月22日2014年。

皆さん、今日は。裕イサオです。

ブログを開設(というのかしら)致しました。二分前まで、ブログというのがなんなのか知らなかったのですが。一応、ご説明致します。ユーチューブへ26本(現在、63本)の動画を投稿したのですが、いつもコメント欄が足らず、「この続きを書きたいのだが」と思い、コンピューター音痴なので、例によってインターネットで検索。ユーチューブに連動云々とやっていたら、Blogger(昨年12月fc2へ引越)が出て来ました。これは、丁度いいとなり、開設。で、要は、ユーチューブの動画を御覧頂いた方への追伸のような感じを想定しています。動画ともども、よろしくお願い致します。

「コンピューター音痴」

私の世代には大変に多いです。長々書くと、若者たちの眉間がしわしわ状態になるので割愛。良くあるオジサン談義になってしまうので。とはいえ、二分前までブログは風呂具としか聞こえなかったし、二ヶ月前まで、ユーチューブ、動画、投稿、これもなんのことも分からなかったとだけ書いておきます。一挙に投稿狂と化した「笑いと涙のオジサン物語」は、割愛。音痴、高血圧とか、これが始まるとオジサン自慢が止まらなくなります。こないだも、高血圧の話になったら、先輩に叱責。えっ、裕君、まだまだ、あんた、200超えないとおーーなんて(音痴はまだしも、高血圧は怖いですよ)。

「動画作成狂」

映画狂、コメント狂、ピアノ狂。このみつつが合体。動画作成狂と化し、コンピューター音痴なんぞなんのその、はまると止まらないジャズ屋体質。まあ、アップロードってなんですかあー？ 泣き寝入り(サムネイル)? なんて言いながら、よくぞやりました26本。ジャズメンというのは、ハイになって突き抜けるととんでもない馬鹿力が出る種族。時々、自分の演奏を後で聴いて、自分で仰け反る時がある。すっすげえーなんて、びっくりしたりして。

なぜに突然という疑問が湧いて来るのですが、要はコンピューター絡みは一切駄目ですなえー状態だった訳です。しかし、負け惜しみで、ははは、ピアノはコンピューターより、もっと複雑。いや、ピアノはコンピューターですなんて言いふらしていたのですが、では、逆も出来るだろうという発想。で、やったら出来た。

いい年こいて、いきなりユーチューブヘアホのように投稿、そして、ブログ作成。この突然の自己顕示欲やいかに？ しかも、コンピューター化、インターネット化へ豹変。で、自己顕示欲が盛り上がった訳ではなく、なんか、いつまでもアナログもなあー(縁側で団扇をはたはたやり、夕焼けを見ながら)っていう程度の話で、オジサンの自己啓発が動画とブログになりました。

ただ、自己顕示だ名声欲とは違うと言いつつ、「無名の芸術家」、「無名のミュージシャン」これは矛盾している。他人が介在しない芸術芸能なんてものは矛盾している。炭焼き小屋の脇で、わたくしは一人静かに、ピアノを奏でている。サハラ砂漠の真ん中で、グランドピアノを弾いています。わたくし、それで満足でございます。こういう素晴らしい悟りの方もいらっしゃるが、私は、単なる三流ピアニスト。悟りの境地なんぞ程遠い。やはり、人に聴いて頂かないと「存在の意味」がなくなってしまう。そうになると、恥ずかしがり屋の内気なピアニスト(戦略としてはいい。栗原類君だけど、イケメンでないといかんなあー、駄目だこりゃ)なんてものも矛盾しているので、そうになると、露出するしかないとなる。

急に、ひとりでクスクス笑いをしてしまった。炭焼き小屋の脇のお笑い芸人とか、サハラ砂漠で漫才やってます。これは、悟りの境地ではなく、狂人だっ。

2012.09.12 Wed

ラストシーン

この動画が、そんなに大袈裟な話ではないけれど、私の動画第一作になりました。なぜか、アップロードは二番目(なぜなのか思い出せない)。コンピューター音痴の第一作としては、まずまずの出来。

映画のシーンを文章化しても仕方がないのですが、デッド・オア・アライブ1のラストは、素晴らしい。三池崇史監督のお名前は、クローズゼロで初めて知りました。はまりにはまり、十回ぐらいDVDで見ました。そして2も、むさぼり見ました。三ヶ月ぐらい、心はゲンジになっていた。

いつものように、いつものスーパーに買出し。DVD特売コーナー。テレビで三十回は見ただろうコメディ映画だの、ウエスタン、アメリカのB級アクションもの。で、この中に、なぜか時々、日本映画が混ざっている。デッド・オア・アライブ2 三池崇史というのが、一番手前にあった。当然、うぁちゃーと購入。むさぼり見る。当然、2なんだから1があるはずと、そこいら中を探すも、見付からず。そうこうしている内に、またまた、スーパーの特売コーナーで3を見付けた。むさぼり見た。DVDの予告編を見ていると、どうも1のラストシーンが凄まじいらしいという感じ。とうとう、インターネットで注文、購入。なんかの手違いで、DVDが二枚到着。むさぼり見た。ラストシーンで、気絶した。

哀川翔さん、竹内力さん、この映画(シリーズ)で初めて知りました。で、このラスト。もちろん、文章化しませんが、哀川翔の千切れかけた左腕。左のわき腹に刺さったドス。ピストルを握った右手で、低くちょえーと言いながらドスを抜く(この声が音として、私の脳髄に刺さります)。千切れかけた左腕を自分で耄り取ると、投げ捨てる。低くちょえーと言いながら、残った右手のピストルを相手にかざす。もう目がうるうるしてくる。男たるもの、これぐらいの気迫がいるなぁーと思いながら涙してしまう。ほとんど、お笑いアクション映画しか見ないのですが、このシーンは脳髄に焼き付きました。動画のコメントにも書きましたが、このシーンを思い出すと、元気になる。逆癒しになるのです、私にとっては。変かなぁー？

ところで、この曲は、私のオリジナルですが、実に単純な構成。ほとんど、左手は繰り返し。右手に感情を乗せて弾くというパターン。技術がないからこうなっているのか、意図的にやっているのか、一応、謎にしておきます。そんなにもったいぶる必要もないか？ はい、意図的にペダルというやつをやっています。右のコードが変わっても、左の低音を変えないという技法。ひとつには、音がおしゃれになることと、なにせ、左手の動きがシンプルなので右手に感情移入がしやすいのです。後、隠し味と同じ、隠し音を入れました。気が付いた方もいらっしゃるかもしれません。かごめかごめの「かぁーごのなーかのとおりいは、いついつでえやぁーる」のメロディーを一音上に移調して、ラの音をカット。ここに、私のエモーションを封じ込めました。こうやって書くと、すごい高等技術のようですが、譜面に書いて、それを見ながら弾かれると、なん

だよおー、単純単純となるはずです。

2012.09.18 Tue

ピアノの録音

何度も同じことを書くようですが、老いの繰言？ コンピューター音痴の私の最初の原始人のような疑問は、「ピアノの音を録音してコンピューターに保存する」方法は？ コンピューターに詳しい方からすれば、はぁーというぐらい初歩的な疑問なのでしょうけれど、私には簡単に理解出来ませんでした。

で、詳しい人に聞いたり、インターネットで調べても、結局、これだぁーという解決が見付からなかった。これは、私にもちょっと意外でした。もっと簡単にご教示頂けると思っていたので。私の「笑いと涙のオジサン物語」は、多少、ピアノ狂の録音に役に立ちそうなので、以下、まとめて見ます。大体、ちょっと前まで、「カセットに録音」して居ったのです。その後、ミニディスクへ。ここで、私のキャリアはストップ。ここまでは、コンピューターが現れていないのです。「裕さん、資料として何曲か送って」と言われて、「はい、じゃ、近日中にカセット持って来ます」と返事をしたら、ぽかーんとされたのだ。近所のスーパーに「カセットテープを買いに行ったら」、ないと言われて、その時の店員さんの表情も、笑い泣きしながら怒っているような感じだった。

大別すると、

1) 特殊な録音機材を使う

かなりお金が掛かりそうなのと、これまた難しそう

2) 電子ピアノに限定されるが、シーケンサという機材を接続する

3) ボイスレコーダーで直取りする

インターネットの質問回答欄で見付けましたが、コードを電子ピアノに接続し、録音する方法 この考えは、後々、大変に役立った

アコースティックピアノのケースは、1+3しか不可能。ただし、ボイスレコーダーの録音のクオリティーが大いに疑問。で、「コンピューターに接続出来る音楽専用の録音機」はないのかということになり、調べる。ありました。ここまでたどり着くのに一ヶ月。この間に、割愛しますが、笑いと涙の諸々の格闘がありました。電子ピアノに、直接、コンピューターを繋いで見たりとか.....。

そして、とうとう悟りの境地が訪れる。「コンピューターに接続出来る音楽専用のビデオカメラ」はないのかと。インターネットで調べまくったら、あったのです、これが。Zoom HDQ3という「音楽専用のデジカメ」というのが。200ユーロちょっとで。これは、コンピューター音痴のオジサンへは神の啓示に近い発見でした。ビデオも撮れる。録音のクオリティーは十分。直接コード接続による録音も出来るし、ライブ録音も出来る。突然、ユーチューブが、地球の反対側から我が家の隣に近付いたのでした。詳しい方にすれば、なぁーにをしとるんだぁー。となるでしょうが、半ベそかきながら一ヶ月以上を費やしたのでした。お役に立てれば幸甚です。

こないだも、パリのジャズクラブに、二三曲送ってと言われ、私の動画を三つ、ちゃちゃとメールしました。やれば出来るのだ。カセットよ、さようなら。どうしよう家に何百本もカセットテープあんだけど？

追伸

あんまり、こういうお宅系のエッセイのようなもの、部外者には面白くないと思うのですが、すみません、ピアノ中毒仲間には、多少は役に立つと思うので、今回、まとめて見ました。因みに、私の動画は、イギリス製のヤマハの中級サイレントピアノおよびローランドRD-700GXからの直取りです。以前の私のようにお困りのピアノ中毒仲間がいらしたら、どうぞ、ご遠慮なく。詳しくご説明致します。お宅系のブログは、一応、これだけにします。面白いブログ、一応、元物書きの端くれですので、ご期待の程。

2012.09.20 Thu

今年の5月にパソコンを取り替えた。以前はもらいものの鉄の塊のようなパソコンを使っていた。バッテリーはまったく役に立たないし、第一、重くてポータブルという形をしているが、持って歩けなかった。片手では持てないくらい重かった。ユーチューブの存在は知っていたが、このパソコンではユーチューブの視聴が出来なかった。原因は分からないのだけれど、画面はモザイクみたいだし、音がかさついて途切れ途切れ。元々、電化製品は一番安いものしか買わない主義。というとなんか高尚な主義主張があるように聞こえるが、はっきり、お金がないからそうなのだけ。衣類とかも安物しか買わない。経済的理由および、高級品は落ち着かない。で、動画のトークにも入れてしまいましたが、「ぼろ車に乗るカーキチ」という大変な矛盾が生じている。余談ですが(すべてそうだけど)、私の愛車はホンダシビックハッチバック1997年。 あっちこっち路上駐車であつつけられてべこべこ。左のバックミラーも駐車中に折られたし、左のドアも、乗ろうとしたらべっこりやられていた。フランスは、こと車に関しては、無法地帯。その前の愛車はトヨタカローラDX1985年。運転席の窓が開かなくなってしまったのと(正確には、開けると元に戻らない。ペンチで引っ張って、ガムテープで屋根に留める)、時速100kmを超えると会話も出来ない、ラジオも聞こえないという有様なので、現在の車に取り替えました。快調快調。

いつものように近所のスーパー。正確にはハイパーマーケットへ。スーパーの買出しは、私の心のオアシス。なんか食物物品が溢れているのが、なんとも落ち着くという変な体質。戦中派みたい。ほとんど、スーパー内をお散歩している感じ。で、入り口付近に、東芝のポータブルコンピューター、299euro。これは安い。たぶん型遅れ在庫放出なのだろうが、やはり、安い。一応型番を控えて、帰宅後、実は良く分からないのにインターネットでキャパシティーを調べる。結局、良く分からないので、詳しいやつに聞いた。「裕さん、メールとユーチューブ(視聴)だけなんですよ?」「そう、それと、インターネットで調べものするだけ」「裕さんには十分十分」。即購入。ただし、この時点ではユーチューブへの動画作成は念頭になかった。後日、動画作成用のソフトを購入するも、私のパソコンの容量では、きちんと機能しないことが判明。安物買いのなんとかです。

突然、ユーチューブの膨大な動画が視聴出来るようになってしまった。ほとんど、人生観まで変わってしまった気がする。日本の現況から何十年も離れた生活が一転。一等最初は黒木メイサを見まくった。クローズゼロの影響。いじくっているうちに、懐かしいドリフターズ。見まくった。加藤茶、志村けんと見まくり、ひとみ婆さんにはまってしまった。それからお笑いビック3を見まくり、なつかしや、タモリさんの「努力の要らない白鍵だけのチック・コリア」が出てきた。なんか俺のピアノに、やはり、似ているなあーなんて見てしまった。それから、立川談志師匠を初めて視聴した。あまりに凄いので仰け反った。結局、お笑いばかり毎晩見ている。なぜか、突然、三島由紀夫のドキュメントを見たり、マルセル・デュシャンのインタビューなんか、合間に見てしまったりとユーチューブにはまっている。デュシャンマニアの私ですが、

今更、あれっ、デュシャンって英語ぺらぺらだったのかぁー、なんて気が付いたりしている。

自分の嗜好思考指向が分かってきた。昔とやはり違う。

いい感じがする女優さん、タレント。優香さん、仲里依紗さん、ローラ。

美形だけど、なんとなく、三枚目でほっとするのと、明るい感じがする。

でも、沢尻エリカさんも素敵だ。フランスの女優さんに多いタイプ。アジャーニ、ソフィー・マル

ソーとか。沢尻さんみたいな女優さんが、いよいよ日本にも出てきたのかぁー、成熟してきた
なぁー、日本の現代文化もという感じ。そして、三十年以上大ファンの桃井かおりさん。健在
ぶりが見れて嬉しかったです。

男優さんは、同世代なので哀川翔さん。やはり、ハンサムなのに、なんとなく三枚目。男臭い感
じとお笑っぽい感じ、可愛い感じとほっとする。元々好きな男優さんは、松田勇作、原田芳雄
、緒方拳、山崎努。渋い役者さんたち。後、クローズゼロの若い役者さんたちは素晴らしい。皆
、背が高く格好いいです。突然、こちらの男優さん、ダニエル・クレイグ。全然、
ジェームズ・ボンドに見えないという方もいるけれど、ラグビーマンみたいな感じで、はにかん
だ笑いとか、なんとも粋な俳優さん。安っぽい感じにならなくて、ジェームズ・ボンドシリーズ
の雰囲気も重厚になりました。

お笑いは、断然、志村けんさんが素敵だ。談志師匠は、別格です。

こうやって見ていくと、やはり癒し系に心が傾いている。年のせいなのか、良く分からない。

では、肝心の音楽は何を聴いて居るのだかというと、突然、唐突に大好きな作家の町田康さんの動
画見たり、町田さんも同世代だ。パンク歌手というの、フリージャズメンと一緒になんとなく
怪しげで素敵だ。後は、プッシー・キャット・ドールズ。昨日、なんとなく、そういえばスーパ
ーのテレビ売り場で映っていた超美形の東洋の女性五人のグループはなんだったのだと思い付
いた。

音声がなかったので何語で歌っているのか分からず。ガールズグループと検索してみたら、どう
も韓国のグループらしい。いくつか見てみる。テレビ売り場で見たのは、記憶と照らし合わせて
みると、karaというグループだった模様。格好いいので痺れています。時々、ハービー・ハン
コックとマイルスの動画見たりするけれど、よく考えるとジャズはほとんど聴かなくなって
しまった。大体、一日三冊ぐらい難しい本を読んでいたのに、今は、料理の本だの庭の手入れだ
の剪定の仕方の本だのしか読まない。もうついでなので書いてしましましょう。詩人で好きな
のは、吉岡実さん。小説家は富岡多恵子さん。町田康さん。

普遍の部分と、随分かわってしもうたなぁーという部分が混在していることが分かった。

永遠の私の師匠、親分はマルセル・デュシャン。皆さん、ご存知の方は良く知っているフレーズ
。「解決などない。そもそも問題がないから」「芸術家といると息苦しい。多くの人々の中の一
人であることを忘れてはならない」「評価は後世がするので、自分で判断なんか出来ません」「

芸術の定義をしようとしたのではなくて、疑問を投げかけただけ」「私は公の場にいたわけではないし、芸術でお金を稼いだわけでもないし、なるべく作らないように、繰り返さないように努めただけです。商売にならないように」とか、凡人には耳が痛い。

2012.09.20 Thu

ブログというより、エッセイの方が、私には、なんとなくピンと来ます。

ブログ全体のタイトル、「裕イサオ 筆トーク」。これは、突然、思い付きました。

諸々の選択肢が浮かびましたが、たとえば、単純に、「裕イサオ フランス日記」とか。大体、私にとってはフランスは、ほとんど母国に近いので、それをタイトルにするのは、読まれる方へ失礼。スーパーとか、いくらで買ったなんていう日常しかない。それはそれで、フランスの日常という意味では面白いかも知れませんが、タイトルに冠するほどの話ではない。永井荷風とか金子光春ではない。「筆トーク」、これは、気に入りました。文章でぺちゃぺちゃ。フランス語のチャチェという感じで、とてもいい感じ(ローラの口調で)。なんでも音化するので、私の場合は、音に、なんだか、やはり、敏感です。

で、この動画、「東京ディスコ」。私が東京に住んでいたのは、記憶を辿ると1978から1981の一月まで。下落合の風呂なしのアパートで、ロラン・バルトとか、ガストン・バシュラールとか、レイモン・ルッセルなんていうのを読みながら、アルバート・アイラーを聴く。当時は、結構、私のような暗い若者が、沢山居りました。たぶん、今でも、読んでいる本と聴いている曲は違って、絶対に同じような連中が沢山いるはず。暗い若者。全然、悪くないし、大体、若者が明るい方が変だと、今でも思っています。

ジョン・コルトレーン。後、ジャズの渋い方々を浴びるように聴きました。

後で気が付いたのですが、阿部薫が、まだ、生きていた。阿部さんのことを知るのは、ずっと、後でした。残念。でも、二十歳の私が、聴きに行ったかどうかは疑問。阿部薫は、世界のジャズの歴史。即興音楽。現代音楽も含めて、たぶん、もっとも重要な音楽家だと思っています。諸々の要素が複合し過ぎていて、本人が壊滅した。こういう天才が、時々、現れる。日本は、あまり天才が育たない国(と、私自身は考えています)。彗星というやつでしょう。

下落合から高田の馬場の高校の親友のアパートへ通いました(お風呂に入りに)。婦人用の自転車で。なんかいい感じです。ジャズしている。で、その親友と、暗い若者なのに、ディスコが好きで、ちゃかちゃか通いました。渋谷だったと思う。アース・ウインド・アンド・ファイヤーの宇宙のファンタジーが「新曲として」掛かっていた。

下落合の暗い若者が、目黒通りの古レコード屋で見付けた、ハービー・ハンコック「プリズナー」。ジャズフュージョンの先駆け。すべて、アコースティック。深夜のニューヨークのイメージを、下落合のアパートで、ひとり、思っ居りました。暗い若者へ、ちょっと、おしゃれな世界を垣間見せてくれました。いい感じ(ローラの音域で)。

突然、追記しますが、阿部薫。インサイダーには超有名ですが、知らない人の方が多いと思います。聴くのに相当体力が要りますが、一度、是非、聴いてみて下さい。随分前に高名な日本のジャズ評論家がパリにいらした時、パリの小さなジャズクラブで、日本のフリージャズの歴史という貴重な講演をしてくださいました。有名無名のミュージシャンが多数集まりました。その中で阿部さんのサクスが講演の真ん中辺りで掛かりましたが、その時の会場のざわめきを良く覚えています。フランス人のミュージシャン仲間から、「阿部？ だれ？ この音？」。日本にこんなすげーのいるんだあと。皆、圧倒された。世界最高峰のジャズサクス奏者のひとりであることは間違いありません。

2012.09.20 Thu

螺旋

この動画が、第三作目。今、久しぶりに見てみたら、冒頭のタイトルがやたら下の方だし、動画の前後もそのまま、なんだか動画素人もろだし。でも、面倒だし、それはそれで、なんとなくいい感じなので、そのままにします。

「ラストシーン」が比較的メロウで、メロディック。

この辺りは、ビル・エバンスとかキース・ジャレットから来ている。少し、ハービー・ハンコックが混ざっている。もちろん、彼らのような高度な技術がないから、こんな感じになる。

「東京ディスコ」は、ハービー・ハンコックのシンセ音楽、ウェザーリポート、マイルスの晩年のバンド。この辺りから来ている。

「螺旋」は、フリージャズから来ているけれども、当初の私のド下手がちゃがちゃピアノからは、相当洗練されて来てはいる。とにかく世界一早く弾く。以上おしまい、というコンセプトでジャズピアノを始めたので、音楽性は無視。とにかくやかましいピアノでした。でも、昔の演奏を今聴くと、なんか熱い感じは悪くない。この曲、一応、デタラメに弾いていることにはなっているのですが、もちろん、その筋の人がお聴かれになると、多少のテクニックが入っていることはばれる(いや、だれが聴いても分かる)。大したテクニックではないのですが、冒頭の辺りは、Four Note Rootless Voicingsの7th codeをAbからSecondary Dominant Motionsをしていて、真ん中辺りはModal Fourth RowsのTensionsだ。と書くとプロっぽい。でも、これではなんのことか部外者には分からないので、Four Note Rootless Voicingsだけご説明致します。日本語に訳すと、根音なしの四和音です。1=根音がなくて、上の音を四つ積み重ねた和音。たとえば、13.3.9.7音で構成とか。

「メリット」

ビル・エバンスが、たぶん、発明したのだと思うのですが、

- 1) 指の位置がコンパクト=手の小さい人がとても楽に押さえられる
- 2) ソロピアノに向いている=歌の伴奏とかには向いていない。ルートが分かり難い
ルートなし? と良く聞かれますが、セッションの時はベースがやっている
- 3) テンション(上の方の音を入れるので、インパクトがある)

まあ、こんな感じですが、デタラメピアニストにはトナーリティー(調性)なんてどうでも良いので、押さえ易いというのが一番の理由です。フリージャズは、コード進行、トナーリティー無視で全然構いません。はっきり、まったくのデタラメで構わない。

さて、本題。山下洋輔さんのエッセイと少しダブりますが、基礎から始めて、破壊してデタラメへ向かうケースと、デタラメから少しずつ技術を付け加えて行く方法がありますが、たとえば、前者はセシル・テイラー。で、音楽教育をまともに受けてな

い人は、私も含めて後者しか選択肢がない。では、ずっとデタラメでいいではないか、となりますが、まず、長続きしない。自分がしんどくなってくる。多少の技術がないまま長時間、公の場で弾き続けるのは、逆に天才的なデタラメ人間でないとでけん。やはり、人間の特性で、なんとなくまとめよう、秩序を作ろうとし始める。不思議ですが、デタラメが出来ないようにプログラムされているようです。我々は。

「前者の弊害」

破壊する前に基礎に押し潰され、自分のスタイルが出来ない

凡庸のまま萎んでしまう

破壊した後の凄い演奏の、「その後がない」etcetc

「後者の弊害」

多少の技術が付いても、元々がデタラメなので、ちょっと気を抜くと、すぐ、「それ」が出る

良く言えば、ずっと進歩し続けるが、結局、頂点を極めることはない

やはり、三流の域をでない。で、それを指摘されたくないの、つっぱる。必要以上に大物ぶる

有名人を装う(とりわけ女の子の前で)。嫉妬深い。同業者に冷たい。足を引っ張る。味わいとか、

自分のスタイルが大切などと逃げる。妙に俺が一番と思い込もうとする

他のミュージシャンへの批評は手厳しい。当然、自分には甘いetcetc

なんだ、弊害だけだよお——

はい、以上です。

と、ここまで読み返して、たぶん、非常に基本的な疑問が湧いてくる。

「なんで、この裕というやつは、人前でデタラメピアノを弾き始めたのだ？」

これは事情があって、ピアノを二十三年ぶりに再開した時、私は現代美術家という肩書きだった

。作品の中にピアノを持ち込み、作品の一部として「ピアノを使ったパフォーマンス」を始めた

のです。ピアニストということにはなっていなかった。中略。それから、はっきり「デタラメピ

アニスト」と自称。究極のデタラメピアノということになり、この辺りから「ピアニスト」とい

う名称がちらほら。いい気になって弾きまくる。はっきり、馬鹿なのだ。その内、「フリージャ

ズのピアニスト」と「呼ばれるようになった」。「いや、俺はド素人のド下手でピアノでパフォー

ーマンスをしているだけ」ですと言っていたら、共演者からクレーム殺到。「なんか謙虚ぶって

っけどよー、なんか嫌味だぜ」とか、「イサオが趣味ですなんて言うよ、こっちまでそう思われ

るから困る」とか、先輩からは「謙虚なのはいいが金もらってんだから、そういう言動は、お

客様に逆に失礼」とか。熟考し反省しました。それから、フリージャズピアニストと名乗るよ

うに。で、やはり、デタラメにも限界が来る。段々疲れてきて、やはり、一からジャズ理論を学

ぼうとなり、諸々買い込み分析。一応は、多少、努力と猛練習はしたというより、ずっとしてな

いと、すぐ、元に戻ろうとする。で、結局、絶対に頂点を極めたりすることはないので、ずっと

、進歩はする。要は、後者の典型なのだ。オジサンなのに、まだ、進歩するんですかぁー？ とフ

ァンの女の子に言われたけど、するんですよー、俺みたいなのは、ジーさんになっても、と答えた。

2012.09.22 Sat

大きな栗の木の下で

この曲は、もちろん、皆さん、ご存知の通りです。余計なコメントの必要はないと思うのですが、ジャズエッセイなので、どういうアレンジをしたのか、あまり、専門的にならないように書いてみます。私のブログは、ジャズピアノ教則ブログではなく、ジャズを始めたばかりの人。五十過ぎてピアノ始めましたとか、なんかジャズピアノ始めたけど良く分からんとか、こんな感じの方々に読んで頂いて、へえー、こんなおっさんもいるんだあー。あいつにできんだから俺も、みたいな感じになって、元気でたー、とか、やってみっかーとか、こういう気持ちがむらむら込み上げました。と、こうなって頂ければ幸いです。この程度で、人前で入場料取ってんのか、こいつ。俺の方が、ずっとうまいぞっ。と、こういう方も、沢山いらっしゃるはずですよ。いや、本当に沢山いらっしゃいます。地方(とは限りませんが)の、たとえば、お医者さんのお宅にお邪魔すると、スタンウェイがデンと置いてあって、僕もちょっとかじってます、なんて言って、め ちゃくちゃうまい人が。「裕さん、明日のコンサート、楽しみにしてますよ」なんて言われて、当日は、こっちは必死です。マッハ3ぐらいで弾いて、「わちゃー、さすがあー、指が早くて見えなかったあー」とかいう方向で凌いでいます。なんか、俺はスポーツピアノというジャンルなのか？ とも自問したりして。

で、昨日の軽いぎっくり腰。軽症だな、ちょっと、タバコ屋までお散歩ついでに、電気屋で食洗機みたり、靴屋へ行ったり、びっこ引きながらうろついていたバチが当たり、今朝から寝たきり状態。二階の寝室のベッドの上で、これを書いているので、ピアノの資料は、すべて階下。で、降りていけない。という状態なので、きちんとした説明ができないかもしれません。しみじみ洋式トイレの有難味が分かりました。和式だったら、わちゃー、救急車来てた！ それ以前に私自身が、水洗トイレに流されていた。はず。

今回は日本語で書きますが、冒頭およびベースになっているのは、左手のラのサス4とソの7thサス4。ハ長調の曲なので、おしゃれにするためにイオニアン(あれっ、アイオニアンだったかも)音階というのに変えてあります。時々、単調にならないように、ジャズをかじった方はご存知の、2-5-1の動きを基本に、各コードをさらに細分化し、サブコードとか代理コードとかパッシングコードとかを付け加え、なんかこう書くと、相当高度なことをやっている感じになってしまいますが、大したテクニックではありません。で、右手はメロディーをキープしつつ、ジャズ屋が良くやる装飾音で、ちょっと格好を付けつつ、なあかあーよおーくのメロディーに、私の全エモーションを封じ込める。こういう感じです。

相変わらず前置きが長いのですが、昨日、根音なしの四和音、コンパクトで押さえやすいですよと書きましたが、今日の要点は、基本のコード進行の各コードをさらに細分化し、細分化したコードをさらに細分化。こういうことを現代ジャズはやってきて、ほとんどミラールームの世界で、細分化の行き着くところ。はい、結局、ピアノの鍵盤全部使うことになります。えっ？ ハ長

調なのに？

はい、論理的にはそうなるので、答えは、「間違っただけ」になります。要は、なにやってもよろしいのだとなる。ただし、社会人として認めてもらえるのか。入場料頂いていいのか。君にはモラルはないのか。なんぼ、僕はジャズメン、はい、禁治産者ですと言い張って、世間様が許してくれるのかは疑問。すれすれのラインを愚考していますが、ラインがどこにあるのか、だれも分からないのです。

突き詰めて行くと、音楽は、人生とか世界観とか文学とか、途方もない世界に繋がって行って、もう、とてつもなく難解で、とても普通の神経ではできない芸術で、なんちゅうのも、本当といえば本当ですが、酔った勢いで、ボンゴたたきまくったり、家で、遊びに来たやつ全員が酔った勢いでデタラメピアノ弾いたり(性格が良く表れて面白いですよ)、はっきり、この馬鹿騒ぎが音楽の根源でもある。メビウスの輪だ。勉強し過ぎて、馬鹿になってしまったり、一周遅れのやつが先頭を走っていたり、もう、絶対におかしいのは、若い頃読んだビイドゲンシュタイン。現代哲学の祖。結論として「すべては無意味である」。二十世紀の大哲学者が勉強と思考の果てに出た結論なんだから信用できる。でも、こちとら、最初からその境地なんだけど。たかが、フリージャズだ。また、ファンから叱られそうだけど。

2012.09.23 Sun

昨晚、映画「エンドレスワルツ」を見た。ユーチューブを、いつものように検索していたら、若松監督の作品群が出てきた。たぶん、「阿部薫」「町田康」とか弄っていたら、今風に言うリンクしたようだ。ついでに、町田さんの履歴を調べてみたら、「所謂純文学の賞を(総なめ)している」ことが分かりました。芥川賞から始まり、谷崎潤一郎賞とか、日本にある重々しい文学賞は、たぶん、すべて受賞しているのだと思う。で、これは、大ファンの一人として素晴らしいことだと思う。急に俺になってしまうのですが、まあ、フリージャズ屋だから人稱が毎回違って構わない、町田さんの履歴自体が、大変に胡散臭くて粹。この粹な人が重々しい賞を受賞している。彼の才を思えば、当然だと、大ファンのひとは思うのですが、なんとなく、ちょっと、危険な感じが臭う。この人は、天才的な人で、賞なんか無縁の方が似合っている。筒井康隆さんがそうであったように。ややこしい言い方ですが、俺の大好きな富岡多恵子さんがデビューの頃、いろんな賞を冠された。これは、流れからして、いいと思ったけれど、町田さんのケースは行き過ぎの感じがする。ただ、彼は天才だから、ものともせず、凄い作品群を作っていくことは確実なので、一大ファンの危惧かもしれん。でも、稲垣タル穂とか阿部薫が、なんとか文学賞とか、レコード大賞とか受賞。なんか、俺には、大変に不自然。マルセル・デュシャンが、何とか賞受賞作家とかになってしまっていたら、マルセル・デュシャン賞という現在の賞は、存在していない。天才が、あんまり認められると、デュシャンの言う「後世が評価します」のリンクから外れる。余計なお世話なんだけど。ひとつ、俺が知らなかったこと。町田さんの歌手時代のファンに、富岡さんがいたこと。インターネットは怖いけど、知りませんでした、こんなこと。さすが、富岡さん、見破っていたのですね、後日の文豪を。町田さん、もう、歴史に残る人物になったし、五十歳。ばしばし、いい作品書いて下さい。しかし、確かに阿部薫に似ています。

ところで、俺の方は、二日前から二日酔いではなくて、風邪。「お鼻ずるずる」、これは俺の周りではフランス語化した。回復の途上で、今朝、歯を磨く。急に咳。で、ぎっくり腰。元キャッチーの腰への信頼が、毎回崩れる。十年ぶりぐらいだろう、ぎっくり腰。年とかオジサンという単語が、直接、体に入ってくるからピアノが弾けなくなる。ピア中には、きつい。

で、そんなことではなくて、阿部薫。生きていたら今年で六十三歳。俺より丁度十歳上。日本フリージャズの一期から勘定すると、阿部さんが二期生辺りで、本来、この後はいないけど、俺が三期生の年だ。

今更ながら、しみじみしても仕方がないのだけれど、糞生意気な阿部っていうやつを、新宿のライブハウスに連れてきたのが、なんの因果か、俺の師匠、沖至だ。
(師匠のことは、追って、ちゃんと書きます)。

2012.09.23 Sun

ブログのいいところ

とうとう動けなくなりました。軽いぎっくり腰のはずが、相当、重症。

体調は寝てばかりいるので上々。ぎっくり腰へその遠因となった風邪=咳も治まり、なんと、持病の背骨神経痛まで、ぴたっと止まった。なかなか体は良くできていて、同時攻撃は避けている模様。なんらかの自衛システムが作動している。ぎっくり腰に背骨神経痛のダブルパンチは、空恐ろしい。ただし、そのお返しに、当然、ピアノの練習もできない。毎日、背骨神経痛と戦いながら練習している根性あるピアニストなのに、止まったらできない状態。これは、自分の自分へのいじめとしか思えない。で、今回はブログのいいところについて。

はい、その一。この寝たきりフリーズジャズピアニストが唯一できることのひとつである。

それもそうだけど、他にも沢山ある。

その二。有名人の本とか著名な作家の本とか読むのが億劫になってしまった。現代日本語らしい上から目線で、こちらがご拝聴。ご拝読。こっちもおっさんになってしまったので、あまり、人の教訓だのいらなくなりました。有名人のサクセスストーリーなんてどうでもいいし、若僧作家の人生論だの人間とはなんてのも、面白くない。だから、私も含めたそうではない人の書いたものが読める。そして、皆で書きまくって、だれも読まない(大半は)(私のブログなんて仲間さえ読んでいない)。これは素晴らしい。皆、自分の話だけして、相手の話なんてまったく聞いていない。こうなると、有名人も作家もいっしょくたになって、ボーダレスで楽しい。で、皆が勝手に俺が俺が、これこそフリーズジャズの原点。フランスのテレビ討論会なんて、「全員が同時に意見していて」、もう、フリーズジャズを越えている。一応、こっちは意見しながら、相手の話も聞いているのだ。

その三。私は二十代後半から四十前半まで、小説を書いていた時期があるのですが、全部で九作書いた。で、八回新人賞に応募して落選七回。一度だけ某文学賞の候補になり、別の出版社から一冊だけ単行本が上梓された。千部刷られて絶版になった。この自伝的詩小説は三十五歳の時に書いて、上梓されたのが、三十六歳。芥川賞作家お二人から丁寧な励ましのお手紙を頂いた。「次回作に期待する」。(注 この小説は本名で書かれたもので、裕イサオ名義ではありません)。で、私がピアノを再開したのがこの小説の脱稿後。で、期待された次回作の執筆に取り掛かったら、なんと、脳がジャズ菌に冒されお笑いパロディードシャメシャ小説しか書けなくなっていた。出版社から見放されてしまった。筒井康隆大先生の二番煎じはいらん、大体、筒井先生を超えることは、君にはできんっと。実際その通りなので、おーし、もうこれでどうだと、すべての名詞を広辞苑の説明文に置き換えたラブロマンスを書いた。

エロティックシーンはすべて医学用語で書いた。編集者が泣き笑いしながら、ちょっとおー、面白いのだけど、むむむむむとブラックな笑いが込み上げてきて止まらんのだけど、わぁわりいー、出版はでけん。ちょっと、行き過ぎだぁー、と言われた。レイモン・ルッセ

ル大先輩がいるのにどうしてじゃと思ったが、要は「商品にならん」ということ。結論、渾身の作なんてものを何千枚も書いたのに、読まれたのは唯一上梓された一作だけ、しかも千部だ。もともとミュージシャン体質。砂漠のど真ん中でひとり練習しているようで、これには参った。めげたし、やる気がなくなった。で、止めてピアノに専念することにした訳です。こんな、ひとり籠って暗い小説なんぞ書いていると病気になってしまうわい、俺にはステージが似合ってるぜえーなんて言って十年前に止めてしまった。結論。で、このブログはいい。よってたかって皆で書いて、仮に、だれも読んでいなくても、籠った感じにならない。オープンで明るい。読者がいなくても一般公開されている感じは、ミュージシャンとすれば納得し易い。大体、「練習するために」ピアノ弾いてる訳ではないのだ。人様にお聴かせするために、練習しておるのだとなるので、オープンなブログはとてもいいです。

ただ、不特定多数。すべての人々へ公開されている。皆さんも、ふと、ちょっと、空恐ろしい気がするところがあると思います。実は、大変に怖いことをしている。とはいえ、ピアノ芸人とすれば閉じ籠りなんて訳にはいかない。職業自体が不特定多数を相手にしているから、これは、やるしかなしとなる。

ところで、一挙に自動翻訳の話になります。こないだ、私のグループの詩人、ジャンリュックの詩を自動翻訳してみた。なんと、レイモン・ルッセル大先輩が狂喜するだろう日本語が出てきた。で、私の九作目の小説にも、大変似ていた。全文掲載したい誘惑に駆られるが、ぎっくり腰なので、腰に力が入らないので止める。たとえばですが、思い出して書いてみると、

私の停留所がしじまで彼女のバスだった

そのガソリンのかもめ 目的のタクシーは路線がない

違いのバスだっ

なんて感じ。これは現代詩に良く似ているし、ありゃ、俺の即興演奏を言語化するとこうなるのだろうという感じ。皆さん、ご存知かと思います。ジャズ屋の伝統に、はっばふみふみからはなもげら、ジャズ屋の会話はすべて日本語の転回形。だから我々には違和感がない。私は、ミュージシャン用語は、ちょっと業界ぽいので、日本語およびフランス語で言うと拙い内容をミュージシャン仲間に伝える時のみ使用。

ところで、いろんな方のブログ(ブログがウェブ ログの略なんてさっきまで知りませんでした)、拝読させて頂きました。いくつか気に入ったので追ってコメント入れます。で、気が付いたのですが、

字が小さい=シニアにはしんどい

画面の色が蛍光色=シニア(の目)にはしんどい

広告とか予定表とかカレンダーとか、本文がどこにあるのか分からない

広告収入で暮らしているブロガーという人たちがいることも知りませんでした

もちろん、お金になるならそれに越したことはありません

文章の内容以前に、おっさんの目にしんどいレイアウトが物凄く多かった。全然、悪いとかではなく、ただ、読み難い。でも、好みだし、流行なのでしょう。広告は、私の動画には入っていません(注 著作権に引っ掛かるものには入っていません)。で、昨日、私のブログのレイアウトを変えました。広告は、もともと私の動画のプロモートブログなので入れないことにしました。後、字を大きくしてシニアが読み易い色調に変更。とにかく、シンプルな構成にしてみました。まあ、若い人のブログには格好わりいーとなっちゃうし、ミュージシャンのブログは普通、コンサート情報とかがメイン(私は、日本で演奏活動してないので必要なしです)だから、私のジーちゃんスタイルは無理でしょう。レトロになってしまいました。昭和初期のブログになってしまったかも(注 Blogger時代のテンプレート)。

2012.09.24 Mon

突然、アナログおっさんから、YouTube動画作成狂への変身経緯は、すでに書いた。勢い付いてブログ狂へと変身を試みていた矢先のぎっくり腰。寝たきり。読書、ブログの拝読ないし自分で書く。それ以外にやる事が(できる事が)なくなってしまった。スーパーへの買出し。スーパー内のお散歩。料理、庭弄り、ピアノの練習。生活の基本がひとつもできない。いやでもブログ狂への変身が加速する。十年間の断筆。もちろん、筒井康隆ではないので、なんら社会的影響のない個人的断筆の箍が外れた。何百枚も原稿を書いていたことがあるので、いったん外れるとぺらぺらトーク体質。大ブロガー養成ギブスを外したのだ(嘘)。ブログマシーンと化しつつある。ピアノ中(ピカチュウではなく、ピアノ中毒)がピアノを弾けない。まもなく、手の振るえが始まるだろう。拙かった。俺は両手と右足があれば、這ってでもピアノを弾くと豪語して居ったのだ。腰の存在を失念していた。おしりもいるし、第一、頭だっている(えっ? いらない?)。両手と右足。これは最初に座るという形態を前提とした発言だった。謹んで訂正する。罰が当たったのだ。すいません、体の他の部位の方々。俺が悪かった。ないがしろにしていた。日頃からのご努力、謹んで御礼申し上げます。ごめんなさい、許してくれっ。痛くて動けん。参りました(注 インターネットで調べたら、なんとよくあるケースのひとつが、朝の洗顔時の突然の咳だった。皆さんも、歯磨きは腰を入れてやりましょう。全身が気抜け状態時によく起こることのこと。ラグビーのオールブラックスみたいな感じで、気を引き締めて仁王立ちしながら歯磨きをしましょう。傍から見ると、ちょっと怖いけど。腰腹にはかえられん。裕イサオ新グループ結成。YO2。くだらん)。

とはいえ、いろんな楽器があるけれど、ピアノはそれほど体に加重が掛からない。たとえば、二日酔いでも、一応、脳の一部と両手、足、そして御腰様がしっかりしていればなんとかなる。ボーカル、管楽器系はしんどい。大体、立ってるし。とはいえ、各楽器ごとの持病がある。これからジャズを始める方の楽器選定に多少役立つかもしれないので(役に立つはずないか?)、楽器別持病リストと独断モテモテ度(10点満点)、よくいるタイプを、以下、列記する。やばいなあー、結局、ジャズは止めたあーとなったらなあー。楽器、持病、モテモテ度、タイプ、コメント順に(男性のケースのみです。女性のミュージシャンには当てはまりません)。

「ピアノ」

腱鞘炎、背骨神経痛、強度の肩こり、腰痛、痔、洗顔時のぎっくり腰。採点6。

小柄で眼鏡、学級委員長、勉強できましたあータイプ多し。典型、チック・コリア、キース・ジャレット、山下洋輔さん。あんまりもてない。顔がよく見えないし、特にリズムセクションにいるケースは、なんか下請けさんという感じ。花形楽器ではない。ソロの場合は、ルックス次第ではもてるケースもあるが、ルックス系はロックに行ってしまうので、ジャズピアノにはあまりいない。ビル・エバンスは、たぶん、モテモテだったはず。マッコイ・タイナーはもてんかったと思うけど、ハービー・ハンコックは芸能人なみと推測。

「ドラムス」

腰痛、痔、手足の痺れ。採点8。

男臭くてごつい感じの人が多。でも、気さくで優しくて繊細。典型、エルビン・ジョーンズ、ピーター・アースキン、佐藤真師匠。もてる。やはり、格好いい。楽器自体がピアノのように女々しくない。オープンだし、また、コックピットみたいで格好いい。真師匠も、俺、モテモテと自らおっしゃっている。

「トランペット」

歯痛、顎の筋肉痛、唇裂傷。採点10。

タイプは二分。顔が小さくて筋肉質のハンサム。典型、マイルス・デイビス、チェット・ベイカー、沖至師匠、日野皓正さん、近藤等則さん。もうひとつのタイプは、丸顔、ずんぐり。典型、フレディー・ハバード。ウィントン・マルサリス。これは、花形楽器。男性的な楽器で、切ない音なんか出すから、これは女心に直撃。ステージの真ん中にいるし、また、楽器の形状がうつくしい。実際、沖師匠は、大変にもてる。ただし、ディジー・ガレスビーとルイ・アームストロングがもてたとは思えない。チェット・ベイカーなんて、アイドル歌手なみ。たまには、ジャズ屋にも、こういうことが起きる。

「サクソ全般」

腱鞘炎、口腔裂傷。採点9。

恰幅がよくて面長な人が多い。典型、ソニー・ロリンズ、ジョン・コルトレーン、ウェイン・シーター。ただし、二人の天才、エリック・ドルフィーと阿部薫は見た目も例外。もうひとりの天才、坂田明さんも例外。やはり、ジャズの花形楽器。ただ、形状および音域のせいなのか、格好よさはトランペットにやや負ける。アート・ペッパー。こちらもチェットと同じく、アイドル歌手なみのモテモテだった。ハンサムだもんな。

「ベース」

これは、俺の周りにあまりいないので不明。ベースとの共演の予定もないので分からない。俺のがちゃがちゃピアノとベースは合わないのだ。ネアンデルタール人(俺)にドイツ語で話し掛けている状態になる。長身の紳士が多い。たぶん、相当、モテモテなのだと思う。なんか知的な感じがするし、なんたって、その音楽、バンドのベースを支えるから人格者も多い。典型、ロン・カーター、パリのジャズジャイアント、アラン・シルバもそうだし、いかりや長介さんもいる。ゲイリー・ピーコックなんてもてんだらうな。頭良さそうだし、温厚な人格者であることが、DVD

見ただけでも分かる。キース・ジャレットが、なんだか悪ガキに見える。

一応、ジャズのメイン楽器は、こんなんだ。ギターは、もう、諸々で分からない。結局、ピアノが一番もてないし、持病も多いことが分かった。男っ気のあるドラムス、でも気さくで優しくて繊細。無口で哀愁の漂うペット。また、ペット自体も美しいオブジェだ。小柄でメガネ掛けた理屈っぽいへらへら男のピアノ。俺は中背だけど、この構図は二人の師匠と俺がいる時の構図だ。これじゃ、もてんわな。多少、美貌でも？

追記 現在は、俺のグループにベースのヨラム・ロシリオがいる。やはり、もてる。憂いの横顔のせいもあるんだろうな。

2012.09.25 Tue

この曲。もう、ほとんどの方がご存知の通りです。

ジャズの世界でも、スタンダードとして定着。当然、名演も数多いです。これもご存知の通り。なぜに、フリージャズピアニストの私が、へたくそな演奏をし、しかも、動画で公開している。フリージャズピアニストなので、大仰な理由はまったくなしです。パート1のメロディーがなんとなく好きなことと、がちゃがちゃ弾き捲くった後に、突然、これをしんみりやると、お客さんが少し飛び上がるのと、次のがちゃがちゃへの「一時の憩い」というサービスの意味も多少あり。それと、もう、皆知っている曲ということと、もう一つは、マトモな曲は、一切、こいつは弾けんのだろうと思われても、ちょっと癪だということもある。でも、へたくそな演奏の方が、もっと、拙いのではともいえる。あ——、やっぱり——、野蛮人ピアニストだっ。という結論になってしまう。あんなのクロマニオンかネアンデルタールピアニストだっ、と、絶対、だれか知っているはずだ。

ところで、右手は例によって、メロディーラインを残しつつ、過剰な装飾音と早弾きで煙に巻く、裕先生お得意の下手隠し技法。巧そうに見えるし、そう聴こえる。その筋の人にはばれるけど。左手は、7thサス4 -サス4(EEDD-F#----)と行ってEmスケールをパーカッシブに一音ずつ這い上がり、ドミナントの代理コードF7からドミナントモーションでE7サス4に戻る。この這い上がりの時に、通常、左手でやるペダルを右手でやる。ずっとE音だけ。とこういうことですが、なんで、こういう名曲を、憂いの曲を、しんみりピアノバーで彼女と、なんていう曲を、打楽器みたいに、あんたはするのだとスタンダードジャズの先輩、ファンからは非難轟々となる。第一、色気がまるでない。だから、裕先生はピアノバーとかディナーショーとかホテルのラウンジでの演奏なんていうお仕事はこない。一度、パリのコンコルドラファイエットの大ホールでソロピアノ弾いたことがあるけど、後述。で、時々、練習で、右と左のパートを逆さにして弾くのですが、枯葉も左手でメロディーラインを弾いて、なんてやっていたら、逆ペダルというアホな技法ができてしまった。こういうのは、真面目なピアニストの世界では起きない。なんか、良く言えば自由な発想。はっきり、単なる馬鹿だ。

それで、なんでこうなったのか。はい。私のパートナーなんてオコガマシイ師匠のひとり、ドラムスの佐藤真師匠とのデュオのためにアレンジしたからです。パリ在住のインサイダーで真師匠をしらんやつはいない。パリ屈指のフリージャズドラマー。ジャズジャイアンツ、アラン・シルバのユニットのドラマーおよびグループ、マッター・ルージュのパーマネントメンバー。料理のプロでもある凄いお人です。先日も、ニュージーランド屈指の若手テナーサクソ。リュシアン・ジョンソンとのセッションを客席から聴かせてもらった。仰け反った。わちゃー、俺はこんな巧い人と共演しとるのかあー、え？ ステージで共演している時は、こっちもハイだし、遠慮なんて一切しないのがフリージャズ屋の掟なので、同じようには聴こえないのだ。こんちきしょー、シンバルできやがったあー、バスドラかよお——、この野郎お——、おっ、急に

優しくなったな、こりゃ、罨に違いない、絶対、俺の方がもてる、おっ、疲れをついて、ここにかまして、フォールに持ち込んで、なんて応酬して居るのです。文字化すると馬鹿だ、こりゃ。

この動画の演奏は、真師匠との一騎打ちのほんのさわりです。前後はこんなでしょうけど、真ん中の炸裂アドリブパートはライブにて。三十分一本勝負かな。しかし、こういう名曲を、こういう勝負曲にするのはどんなもんかしらね？ でも、皆知ってる曲は、その違いがもろだしで、やはり、面白いのです。

真師匠とのセッションは実に楽しい。まず、その技術。ドラムスで、もう、歌っている。これは尋常ではない。で、ドラミングが実に繊細(そういう風に全然見えないのだ。すいません)。突っ込むタイミングとかが絶妙(漫才と一緒に)。と、音楽的な要素も山ほどあるが、大体、話すことは、女と酒と料理。これが素晴らしい。興味の対象がまったく同じ。で、真師匠と俺のレベルは雲泥の差があるが、ひとつだけ共通点があって、そう、拡散してはちきれようとするこの音楽のベクトル。明るいのだ音が。暗いフリージャズと明るいフリージャズがありましてですね、我々は後者なのだ。我々なんていいのかしらねえー、師匠に。師匠は踏み台？ おっ、やばい発言。大体、俺でさえ、師匠なんて呼ばれる時がある。はっきり、馬鹿にしてんだ、若僧ども。師匠、ぎっくり腰、そりゃー大変どすな、ちょっと、背えー、借りますわ。なんて、弱肉強食だ。

2012.09.25 Tue

この動画がアップロードの順番では、第七作目。久しぶりに見てみた。

もし、この動画だけ見た方がいらっしやったとする。俺のイメージは、薄いサングラスをした気難しい孤高のピアニスト。しかも超絶技巧付き(これは疑問だけど)。こんな感じになるはずだ。拙かった。その他の動画をすべて削除し、このおちゃらけブログも、まったく別の文体にしないといけない。ぎっくり腰の話なんぞは、もってのほか。イメージダウンはなはだしい。では、孤高のピアニストとして、ブログもやり直す。

裕イサオ「不可視の音世界」「無音階について」

所謂、音の世界は、無限の不可視の音の羅列と私は捉える。不可視とは適切な単語ではないが、敢えて私は可視的な音世界の素粒子があると信じ込もうとしているのだ。ピアノは芸術形態の極北であると。私の演奏の根幹をなしているものは、ロラン・バルトの言う非整列的構造世界だ。ビイドゲンシュタインの論説でもあるかもしれぬ。人間の営為のベクトルは、否応がなく世界の構築へと向かうが、私は構造主義的な構築を信じぬのだ。破壊的な創造がない限り、所謂、原風景的な何かと申せようか、破壊の繰り返しこそが世界観の再構築へと通底するのだ。世界を構成する諸元素は、ヘンリ・ミラーの言うところの逆説的なアンビバレンツでしかない。

どうかしらねえー？ イメージ変わると思うんだけど？ 駄目かしら？

二枚目に徹する。元々、二枚目だから、それも、その気になればできなくはない。ただ、自分の動画の自分の映像見て、なんかあー、顔浮腫んでんだけど。おっかしいーなあー、良く寝てんのかなあー、なんて言って、とうとう気が付いた。むくみちゃんではなく、たるみちゃんだった。年で、顔の輪郭が崩れてんだよ、まったく。昔の美少年の面影、どこいったあー、となった。しかも、お金がないから、貫禄も渋みもまるでない。シニアプータローの顔だ。

で、この演奏が一番ライブ時に近い。はっきり言って指の訓練だけすれば、だれでも弾ける。フリージャズって、フランスではあまり言われないので、インプロ(ビゼーション)と呼びます。確かに、ジャズという名称は必要ないでしょう。クラシック畑出身も多いから、ジャズジャズって無理して付けなくてもいいし、クラシック畑でもジャズ畑でもどちらでもないインプロバイザー(即興演奏家)も多い。私のスタイルは、タモリの「ご家庭でできるフリージャズ」というパロディーネタの再パロディーから来ている。で、なんのコンセプトもなく、とりあえず、弾き始める。その内、なんらかのイメージというのか音の感じができてきて、で、なんとなく続けて、段々、ハイになってきて、こんにゃろーなんて言いながら弾くと、こんな曲ができる。で、良く聞かれるのは、と言うことは、同じ曲は二度と弾けないのですよね(デタラメじゃん)? はい、と言ってしまうと、デタラメなのがばれるので、もちろん、何度でも弾けますよ、と答える。嘘つきって言われる前に、これは、本当なのです。即興時の音の羅列が頭にインプットされているのです。

なんか独断を承知で、インプロバイザー。クラシック畑出身とジャズ畑出身は、やや違う。前者。無機的な感じがすることが多い。ないし、ドゥビッシーの土壤なのか、無機的無音階系以外に、もの凄く、綺麗な和音を使う奴も多い。後、弦だけ使うとか。ジョン・ケージの土壤もかなりある。ジャズ系は、どうしてもセシル・テイラー(セシルについては後述)、山下洋輔さんの土壤が尾を引いていて、破壊的、暴力的系が多い。エモーショナルなのだ。俺は、段々、年と共に、真ん中辺りになってきた。プロボクセ(挑発、これみよがし、はったり)の元気がないと、暴力系はいかさない。で、やはり、いい年こいたチャンジー(じーちゃん)が杖ついてやっても なあーと、またまた、小津安二郎方面へ気持ちが行ってしまう。そうすると、お笑い系インプロバイザーという新しいジャンルが出現する。

五年前だったか、リール市が持っている前衛芸術のアーティストレジデンス兼ライブハウス、マルトリー(昔のビールの貯蔵庫)でのコンサート。「お前のピアノを隠せっ！11人の先鋭ピアニスト」というのに招待された。俺の出番は、二部の二番目ぐらいだったと思う。ずっと、他の若い連中を聴いていた。ピアノの掃除をした奴。調律した奴。ずっと、「ピアノの中で」演奏していた奴。ピアノに、頭突き、おしり、肘打ち、エルボードロップして消えた奴。ジョン・ケージのプリペアドピアノ(グランドピアノの中に、いろんなオブジェを入れて=音程を狂わせて弾く)をやった奴。こんだけやられて、おっさんピアニストが出て行って、ピアノにコブラツイストしたって様にならん訳で、ずっと考えて、結局、フランス語版東北弁のスピーチやって、あんたがたどこさをマッハ3で弾いて、なんだか、馬鹿受け。お笑いピアニストの誕生！最近は、トークショウなのかピアノのコンサートなのか、段々、境目が分からなくなってきた。まっ、いいか。年相応で。

で、最後に、だれでも弾けると、さっき書いた。これは、本当。俺んちで、前にも書いたが、デタラメピアノコンテストやるんだけど、おおおおおーという奴がいるのだ。俺よりずっと巧い。お前、ピアノやってたの？全然。こういう奴が。取り分け、俺のグループのエリック・ミモザは天才的で、ギター弾きなんだけど、ハーモニカ、テナーサックス、スケートボード(楽器じゃねえよな)、なんでも巧い。俺の家でピアノ弾かしたら、巧いのなんの。もう、俺と入れ替え ちゃう。デタラメトランペットとデタラメ横衝えりコーダーを習得しているから、俺は安泰だ。ミモザ、そうだと言ってくれっ！俺を見捨てないでっ！お払い箱にしないでえ！えーい、バンマス(バンドマスター)は俺だっ！

寝たきりから座りきりにステップアップした。サロンのテーブルの前に一人掛けのソファを置き、ソファの中に更にクッションを敷き詰め、腰を固定する。俺の家は、パリの郊外というより、ほとんど隣町にある。イル・ド・フランスの境界線のぎりぎり内側。東京でいうとどの辺りなのか？

都心まで三十分という感じです。東京都何とか市となるのだろう。言い換えるとパリ都何とか市。パリはパリ市のことなので、それ以外はパリとは言わないけれど、一般的にイル・ド・フランス地方が日本で言う東京都に当たります。地方の人は、パリ地方とか呼んでいます。普通、あまりいい意味ではなく。運転が荒っぽい。車間距離を置かない。後ろからあおる。都会から来てんだぞっという態度。ストレスの塊でイライラしている。そっけない、いじわる等々、評判がよろしくない。今はどうかしらんが、俺の郷里の海岸辺りの品川ナンバーのソアラに乗ってる若僧どもも、そんな感じだったなあー。でも、大体、本来の東京の人ではなかったのだと思う。逆コンプレックスだ。まあ、以前に書いた三文ミュージシャンが大物ぶるのと同じ原理。

急に思い付いたが、「パリ症候群」のお姉さんたち。説明します。一番多いケース。二十代、日本でOL。貯金。三十歳ぐらいの時にあこがれのパリへ。滞在許可証の取得のため語学学校に登録。アパート難のパリ。エレベーターなしの最上階(たとえば、七階とか)の屋根裏部屋。友達がまったくできない。少しずつ貯金が底をついてくる。想像していたおしゃれなパリと現実があまりに違う。で、たまに日本に帰国すると、パリに住んでいるのおーー、おしゃれえーー、すてきいーーなんて皆に言われるので、実は暗あーーい生活をしているなんて言えないし、やはり、ちやほやされるから内心得意でもある。で、また、パリへ。このギャップの狭間でノイロゼ。この症状です。お姉さんに限定されている訳ではないですが、男の子たちは簡単に脱サラしてパリなんていう訳にもいかんから、ほとんどこのケースはない。パリにいるお姉さんが皆そうだという意味ではないので、誤解のないように。そういう精神病があるということです。やばいよなあー、俺のコンサートのお客さんの中にいたら、ひっぱたかれる。

ばらすんじゃねえーって。あんただってっ！

どきっ、これを俺に当てはめると、裕イサオ先生、「パリで大活躍している今をときめくジャズピアニスト」。おしゃれなパリを満喫。ファンのパリジェンヌたちに囲まれてご満悦の裕先生。なんていうイメージで日本へパリ帰りの外タレとして凱旋帰国。皆さん、昔からこの類に騙されてきたのです。大体、俺はパリ市に住んでいない。家賃だ不動産だと高過ぎて住めないの。ブログの紹介に「在パリ」なんて入れてる。嘘つきだ。すいませえーん。読者獲得のために。もじもじ。パリの隣町ではちょっとおーー、すいません。お気を付けください。昔のパリ帰りの絵描きさんなんて全員とは言わないけれど、大半がこのパターン。裕先生の現実。パリのインサイダーで多少知られている。スポーツピアニストとか暴力的な演奏をすとか、パリのヨースケヤマシタとか(光栄です、比較されて。全然、山下さんのレベルではないのに)。高々、この程度。

CDだって自家版みたいのしか出ていない。オフィシャルなのは、唯一、沖至師匠のCDに、ちこっと入っているだけ。で、パリの隣町の古い家に住んで、中華食材店で練り物を買ってきて、おでんもどきを作って食べている。趣味は草むしり。大活躍もなければ、どこもときめいていないし、おしゃれなんていう要素もまるでない。この程度の奴。それでも、たまに日本に行く(になっちゃった)と、「先生」なんて呼ばれるから困ります。もう、おっさんだから化けの皮は剥がれているし、内心得意なんて感じもまるでなく。あるがままの俺しかいない。でも外タレを装わないと、商売にならん側面も大いにあるから、あんまりばらすとやはりまずいなあー、自分で営業妨害している。でも、正直な方が、好感度は高い。好感度一位の外タレピアニストで売り込むからいいや。

で、俺の家だけど、あんまり詳しく書くと、ファンのお姉さんが大型バスで乗り付けに来たりするから書かないけど、こういうのを杞憂というのだ。サングラス掛けて歩いている売れない芸能人と一緒だっ。だれも、気にしていない。ずっと前に、ドゥゴール空港で、おばさんがスーツケースを重そうに運んでいるので、マダームって言ってカウンターまで運んでやった。振り返ってメルシーって言われて、うあちゃー、物凄い美女。カトリーヌ・ドゥヌーブだった。周りのフランス人も別にじろじろ見たりとかなあーんもなくて、へえー、フランスって芸能人も普通なんだあーと思いました。だから、俺も普通に。無名の奴は、普通でいいんだっ、馬鹿っ！

で、話が進まない。俺の家だ。ド田舎まではいかないけれどパリの喧騒とは裏腹に、小鳥の声しか聞こえないし、丘の上に建っているので、見晴らしは素晴らしい。なんかぎっくり腰の治療に保養地に来ている感じで、こういう時は、郊外暮らしの方が、なんとなく似つかわしい。また、ぎっくり腰の話だ。

あれっ、俺の好きなピアニストっていうのを書こうとしてたんだよな。まあ、トーク、おしゃべりの文字化だから、あっちこち思い付いた方へでまったくかめえへんかめえへん。大体、本もそうだけど、ブログも含めて、読まなければいいので(読まれなければいいので)、気が楽です。次回にしましょう。「ぎっくり腰と私」「ぎっくり君の人生相談」「ぎっくり腰になって世界観が変わった私」「ぎっくり腰の哲学的分析」「童話ギックリとコッシー」いい加減にしろっ？

2012.09.26 Wed

バードランド

ウェザーリポートが1980年に来日した際に、東京公演に行った。アルバム「08h30」のプロモートだったはず。ジョー・ザビヌル、ウェイン・ショーター、ジャコ・パストリアス、ピーター・アースキン。当時の俺(二十歳)からすれば、おっさんが、なんとなくダァラァーンと出てきた。そんなにハイになっている感じもなく、温厚なおじさんっていう感じ。特にウェイン・ショーターが。で、そんなに緊迫した感じもなく、はい、せえええのっでは言わなかったけど、そんな感じで、突然、本当に突然という感じで演奏が始まった。まず、ピーター・アースキンのタイトなドラムスに仰け反り、少ししてジャコのハイパーテクニクベースソロに仰け反り、なんとなく穏やかにウェインがソプラノサクソッドだったかな、吹き始め、その音色、音程の確かさに仰け反り、その間、ジョー・ザビヌルは山盛りのキーボードをコンピューター技師のように「操作」していた。衝撃だった。その登場の仕方が。逆に気負った若僧には衝撃だった。おじさんの余裕を見せ付けられた。

「突然」

小津安二郎の映画、縁側で、浴衣着たおじいちゃん。団扇、キンチョー蚊取り線香、豚形の蚊取り線香入れ(今でもあるのかしら？ 顔がかわいかった)。麦茶。ついでに(行き過ぎだけど)、蠅取り紙。「嫁」が奥で夕飯の支度。コロッケと明太子とほうれん草のお浸しと、なすの漬物とアサリの味噌汁と、おわあー、止めてくれ！ 日本食難民の前では。うおえ(郷里のレストラン)のうな重。駅の右側方面の養老の滝のはまの塩焼き。イカの姿焼き。焼き鳥、おでん、回転寿司、止めろ止めろ、ここはパリなのだ。パリ、あんたはフランスにいるのだ、るっせー、そんなことはないっ、セブンイレブンでとんかつ弁当と、明太子のおにぎりでもいいから。裕先生、お気を確かに。先生は、1981年から日本には住んでいらっしやいません。いらっしやらない？ ジャーいい、塩鮭となめこの味噌汁。たくあんと納豆でいい、米はゆめ錦ね。それもないのか？ なにがあるのじゃ、舌平目のムニユエル。なにそれっ？ 食べたくないよおー、ピラピラムニユムニユなんて。

亭主が「ただいまー」。嫁が玄関へ。孫が、おじいちゃん、一曲やってえー。目を細めて、うんうん、なんて言って、立ち上がり、床の間の横へ。被せた風呂敷を取る。床の間には、掛け軸。「たらちねの そなちねは どたまだった」と毛筆で書いてある。Roland RD-700GX。いきなりシンセサイザー。これは、仰け反る。そんな感じの登場だった。

閑話休題

ブログランキングに登録して、エッセイのカテゴリーを見ていたら、気に入ったブログをご近所(俺の順位の近辺)で見付けた。それで、ファンコメントを送ろうとしたら、画像の平仮名数字を数字で入れてくださいとか出た。画像の開き方が分からず諦め、さっき、おっ、画像が開いた(開き方が分かった)。で、送信したら、コメントが重複してますと出た。ということは、同じコメント

を十回ぐらい送っていたのかも。すいません。しつこいオヤジだと絶対に思われている。失礼しました。でも、応援してます。

で、なんだっけ？

2012.09.26 Wed

セシル

セシル。ちょっと、女の子みたいな名前ですが、フリージャズファンは、もちろん、ご存知の通り、セシル・テイラーのことです。この動画の私の演奏については、セシル・テイラーの物まねもどきといった程度なので、特にコメントはしません。

どうしてジャズなのか。しかも、フリージャズなのか。ちょっと、重苦しい内容になってしまうかもしれませんが、むしろ、ジャズは分からんとか、フリージャズなんて難しくて、といった方々にお読み頂けると幸いです。

日本は、世界でもっともジャズのCDが売れている国。

私の世代から、その上の世代にジャズファンが非常に多いので、そのようになったようですが、その下の世代は、あまり聴かなくなったと思います。とりわけ若い世代には皆無なのでは。フランスも、ジャズを聴く連中、私の周りには多少いるといった程度で、それ以外には、あまりいません。特にフリージャズを聴いている人、日本でもフランスでも、ほとんどいないと思われませんが、意外や意外、フランスの一部の若い連中が、結構聴いていたりする。

インプロビゼーションに興味のある層が聴いていて、たぶん、何やってもいい、制約ゼロ、特に音楽教育を受けていなくても、音は出せるとか、ある意味、とっつき易いせいなのでしょう。これは、まったく悪いことではなくて、長続きするのとは別として、はまってしまう若者が増えるのは、望むところ。

「セシル・テイラー」

ジャズの世界で、ピアノでフリージャズを最初に始めた人です。で、このフリージャズとはなんなのですか？ となりますが、ジャズのコード進行とか、取り決め事項を、すべて無視して演奏する。では、なんで無視するのですか？ なんのためにとか、なんか意味があるのですかとか、諸々の根源的な疑問が湧いて来る。私も含めて、自由に音出していいのかあ——、 やってみっか——という、大した問題意識がなく始める。これが今日のインプロビゼーションの根底ですが、セシルの場合は、まったく違います。

セシル・テイラー。幼少期からクラシックピアノを始めています。いわゆる基礎がないので、デタラメをやっている。このケースではない。実際、「普通のジャズピアニストとして」、若い時分から頭角を現しています。少しずつ彼の中で、クラシック音楽、ジャズといったものが溶解瓦解して行った。どうしてなのかは、私には分かりません。

クラシック音楽。西洋(特にヨーロッパ)の伝統音楽。白人と呼ばれる人種が築き上げて来た高度

な音楽体系。クラシック音楽史は、私は良く知りませんが、バロック音楽とか、もう少し身近ですと、ベートーベンとかモーツァルトとか、それから現代音楽まで。ジャズは、皆さんご存知の通り、ルーツはアフリカ。アメリカの黒人が始めた音楽。詳しい歴史は割愛しますが、分かり易く書くと、アメリカという国に限定してみます。アメリカの白人、奴隷として連れて来られた黒人。奴隷解放。当然、白人も黒人もアメリカ人。

ビル・エバンスが、マイルスのバンドにいる頃、黒人から逆差別、いじめにあっていたことを知りました。ビルも参たらしく、マイルスバンドを脱退している。バンドマスターのマイルスにもクレームが殺到していたことも、最近知りました。なんで、白人なんて雇うのだと。マイルス、「俺は、いい音出す奴は、緑色の奴だって雇うぜ」とコメントしている。

現在のアメリカで、こういうことはなくなっていると祈りたいですが。

これでお分りの通り、このクラシック音楽=白人対ジャズ=黒人の構図が根底にあります。セシル・テイラーは黒人。確実に彼の演奏の中に、アンチクラシック、アンチ白人が潜んでいる。で、なぜ、フリージャズなのか。普通にジャズしていればいいではないかとなる。ここが本題ですが、ピアノという楽器、ピアノという形に凝縮されたもの、これこそ西洋文明、白人世界の象徴。ピアノという楽器自体が、そもそも、その最大の象徴。もう、記念碑的な楽器です。

セシル・テイラーの演奏をお聴かれになると、ずばり、感じる毒気。あくの強さ。ピアノという楽器自体を、彼は、あざけている。馬鹿に仕切っているし、破壊しようとしている。先に書いたアンチの怒りと凄まじいあざけりが剥き出し。お前ら、俺たちに何してきたか、忘れんじゃねえー、絶対に許さんし、つけは返してもらおう。何がピアノだっ。

最終、クラシック音楽のルールも、ジャズのルールも、ピアノ演奏の基本も、彼は破壊するしかなかった。ただ、ピアニストだから、弾きながら破壊するという矛盾かも知れないが、それしか選択肢がなかったはずだ。

もちろん、私のピアノ演奏の中に、そういう重たいものは何もない。だから、音も軽い。だから、もどきなのだ。はったりおちゃらけピアノ。唯一、クラシックでもジャズでもない、何にも所属していない自由な気持ち。これだけです、多少、重たいのは。

2012.09.27 Thu

三人のピアニスト

わたくしが、影響を受けたピアニスト。影響なんて受ける程の才はないから、好きなでいいか。正確には、二十三年間のピアノの空白の後、ピアノ再開の原動力になったピアニスト。

「ビル・エバンス」

これは動画との兼ね合いがあるので、後述。

こないだインターネットで調べたら、麻薬でボロボロだったことが分かった。

多少は知っていましたが、想像以上に酷かった。

「キース・ジャレット」

と言うと、頻繁に、えっ？ 裕さん、好きなの？ と聞かれる。

そんなに意外ではないと自分では思っただけけれど。

あんまりブルーノート使わないし、＃が多い奏法だし、不協和音もあまり使わない。

音が、ハーモニーが綺麗。そのせいで、女性への人気も抜群。

ということもあるにはあるが、俺は実際にロンドン、バービカンセンターで、確か、1981年か82年にソロコンサートを聴いている。白いスポーツウェア、首にタオル、テニスシューズ。まず、この格好がいかしてた。俺も黒いスポーツウェアと赤いレーシングシューズと銀色のマニユキア。真似したつもりはないけれど、この頃のキースの格好に近い。マニユキアは、なんか格好いいのでやっている。おかまじゃないよ。でも、女友達に「俺が化粧したら、おめえーより、俺の方が綺麗だぜ」なんて、いじめトークしてるのはなんなんだ。ごめんなさいねえー(まつこデラックスの声で)。

で、演奏中の動きが、ピアニストの通常の姿勢、90度のやつではなく、腕は鍵盤と水平に、体は真っ直ぐなんていうのではなくて、下向いて猫背で弾くわ、立ち上がって弾くわ、ピアノの下に潜り込んで腕だけ鍵盤上とか、ヨガの体操そのままだった。その間、ずーーとド音痴の例の歌のような唸り声。この格好もいかしていた。俺もこういう動きはよくやる。真似した訳ではなくて、どうしても演奏上、こうなる。時々、唸りながら弾くのも同じだ。

で、最大の理由。スピード、ノリ、自己陶醉の極地。これがなんとも好きなのです。最近のスタンダード集でも、スタンダード曲なのに、凄まじいスピードとノリ。いかしている。ゲイリー・ピーコックとジャック・ディジョネット。このハイテクなのに温厚なふたりの紳士に両腕を支えられていなければ、このピアノ悪ガキは、どっかに飛んで行ってしまう。

キースのベストアルバムは、俺にとっては、すいません、タイトル違うかも。ゲイリー・ピーコックの「アナザー テイル」。俺が東京でさんざん聴いたから、七十年代後半のアルバムのはず

。この中のキースの演奏。インパクトと緊張感は素晴らしい。ジャズピアノの極北です。もう凄まじい一言。脱帽。シャフルしてスイングして、しかもハイテク。もう、これはかなわん。モーツァルトご本人が、ジャズピアノしているみたいだ。

ロンドンにいる時は、まだ、ピアノを再開していなかった。アートスクールの学生だった。アートスクール出身に、なぜかミュージシャンが多い。デビッド・ボウイ、シャーデーとか。日本でもユーミンとか。なんでかね。で、キースのコンサートを聴いて、格好ええー、俺も、あんな風にピアノ弾ければなあーというのが、ずっと後のピアノ再開の布石になったはず。

坊主刈りの田舎の学生服着た中学生(イサオ君)が、夕日を見ながら、「俺も、東京さ、いぐぞおー」なんて、心に誓った。その時、イサオは、まだ見ぬ、東京の喧騒を確かに聞いた。行き交う人々、煌々と灯された高層ビルの窓、窓。車のヘッドライトの海。タイトスカートで闊歩するOLの素敵なお姉さんたち(のお尻)。先輩たちは、あんなところ行くなと言っていた。東京なんて、掃き溜めだと。でも、僕は確かめたい。本当にそうなのかを。そして、僕は立派なジャズピアニストになって、先輩たちを見返してやりたい。僕には、ピアノがあった。なに小説書いてんの？

「山下洋輔」

直接のピアノ再開の原動力になったのは山下さん。

山下さん、お元気ですか？ 95年だったと思うのですが、俺が散文詩形の自伝小説の出版記念で郷里に帰っている時に、山下さんのソロコンサートが丁度あった。主催者から電話があって、山下さんの熱狂的なファンと聞いた、コンサートプログラムになんか書いてくれ。で、書いた。ガーシュイン曲集のコンサートでした。終了間際に、プログラムを書いたマルマルさん、ちょっと、お立ち下さいと言われて、あっ、俺じゃねえーかと立ち上がって挨拶しました。山下さん、「ありゃ、なんだあー、若い人かあー。あっ、ありがとうね」。で、打ち上げで飲みに行って、「山下さん、俺、パリで現代美術やっとするのですが、作品の中にピアノがあるんですよ、是非、弾いて下さい」などと、しゃーしゃーと詰め寄り、山下さん、ちょっと眉間に皺。「あっ、い、いつかね」とおっしゃった。当然だ。忙しくて、若僧の戯言に付き合っている時間はないわな。丁度、今の俺ぐらいの年だった。物凄く物静かな印象で、演奏とかドシャメシャエッセイの印象と随分違ってた。近況は、沖至師匠から聞いています。「ヨースケ、パリに来ててなあー」と。結局、この作品の中のピアノを自分で弾いたのが、再開の狼煙になりました。ヨースケヤマシタトリオのイメージでピアノを弾き出しました。時々、鍵盤血だらけになっているような演奏でした。

この三人が、ピアニスト、裕イサオの三元素でした。

2012.09.27 Thu

難しい会話

この動画、演奏。YouTubeの俺の動画の中で、一番再生率が悪い。当然、予想はしていた。即興ピアノ方面が、一番、再生されんだろうと。その中でも、特に悪い。今、久しぶりに動画を見てみた。映像が、やたら、格好いい。孤高のピアニストってな雰囲気、良く出ている。で、なんだか知らんが、ここ一週間、YouTubeの映像が切れ切れになる。町田康の小説のタイトルと同じだ。あまりに切れ切れなので、途中で、視聴を止めて、これを書き出した。ピアノも弾けない、料理もスーパーの買出しも草むしりもできない。YouTubeも切れ切れで見れない。あのねえー、あんなあー、なめとんかい？ えっ、いや、御腰様への発言では、ございません。

「前号までのあらすじ」

フリージャズピアニスト、裕イサオ(53歳)。今週の日曜日、洗顔中に、ぎっくり腰となり、寝たきりないし座りきり状態となる。裕イサオ(53歳)は、それ以後、すべてのライブをキャンセルし、パリ近郊の保養地にて再活動を目視し、今は療養している。窓越しに、小鳥と口ベースにてセッションしている(有様である)。裕イサオ(53歳)の一日の重要な要素は、ピアノ、スーパー、料理、庭弄りと、ととととと、YouTubeの視聴というシニアプータローさえ愕然とする普通の生活を営んでいたが、この普通の状態に.....

えっ？

なんだっけ？

あっ、この曲ねっ。実は、週間実話、俺自身は気に入っているのだよ。俺の師匠、沖至にも、「イサオ、うーん、悪くないよおー、もう、ちょっと、パッサージュ、長いのやってみよおー」と、励ましのメールまで頂いて居るのだ。でも、理解されん。世間は冷たいのおー。しくしく。

「前号までのあらすじの詳細、追記」

裕イサオ氏は、今、ドイツのバーデンバーデンの運河の辺で、ソーセージを食べている。金髪一名。栗色一名。東洋系一名の、巷で呼ばれるイサオガールズと一緒に。絶対に、高級ホテルに泊まり、表向きは、ぎっくり腰とマスコミを欺き、保養とはなっちはいるが.....

「キャサリン、タバコ買ってきて」「わりー、500euro札しかねえーよ、いいよ、つりは。みんなの分もな」「はあーい」キャサリン、スエーデン人。172cm。金髪。スリーサイズ。(非公開)。因みに、裕氏は、流暢な英語で。

「いっさお」「なに？」「今晚どこでたべるうの」日本語だ。「イザベルの食べたいとこでいいよ」「でも、たっかいよ」「そんなに高いの？」「ひとりいー、にひやくゆうろぐらいか

なあー」「あっ、そ、予約しといて」イザベル、フランス人。167cm。栗色。スリーサイズ。(非公開)。

「ねえー、イサオおー、ここ退屈うーーー」「なんだよ、お前?」「なおちゃん、退屈うー」「だから、直子はなにしたいの?」「ご飯食べたらあー、ディスコ、行きたいのおーーー」「あっ、そ、いいよ、いっぱいあんだろ、この辺は」直子、日本人。165cm。スリーサイズ。(非公開)。

裕イサオ。四十二歳。元ラグビーマン。182cm。鋼のような肉体。性格は温厚だ。日本人なのに顔が小さく、男臭いデビッド・ボウイといった容姿。三歳の時からクラシックピアノを始め、十五歳の時には、すでに、次代のマウリッツィオ・ポルリーニと噂されていたが、突然、ラグビーへ。日本人初のオールブラックスのメンバーとなり、年収は十一億。三十五歳にて引退。突然、ジャズピアニストとしてデビュー。世界のベストドレッサー。もっともセクシー。男性部門にて、七年間首位の記録を作る。

今回は、四人なんで、目立たない、シトローエンのCXにした。マスコミを欺くには、丁度いい。はっはっはっあー。はっはっはっ。

台所で、吹き零れる出前一丁。立ち上がれない。うあちゃー。

2012.09.28 Fri

ギックリとコッシー

冗談半分で、童話ギックリとコッシーなんてブログに書いたけど.....

日曜日の朝に、ぎくっとやって、月曜日、火曜日、寝たきり。で、火曜日、深夜近くに寝返りを打とうとして、もっと酷い、ちょっと、電氣的、一瞬、息ができない、二度目のぎくっ。

水曜日、寝たきり。木曜日、本日と座りきりブログ文豪状態。

ピアノの練習は、日曜日にヒイヒイいいながらやったきり、まったく、できない状態。

やはり、相当な重症らしく、明日、救急病院へ行くことにしました。

物書きでもないのに、一日中ブログ書いているピアニストなんて、やはり様にならんし、飽きてきた。でも、前に書いたように、黙々と原稿書いて、だれにも読まれずに、ダンボール箱へ、よりは気分はいい。インターネットも満更ではないなあーと思う。第一、編集者だの出版社が介在していないのも、すっきりしている(向こうの見地で篩いに掛けられてしまう)。産地直送。新鮮そのものだ(俺のブログみたいにできの悪いのも混ざるけど、そこが直送のいいところ?)。ブログランキングのご近所で気に入ったブログも見つかったし、コメントも送ったし、目を細めて、うんうんなんてひとりでやって居る。

音楽ブログ。特に初心者奮闘記が気に入っている。こちらにも身に詰まされるし、やはり、日常に音楽がある。ミュージシャンなのにしみじみ、いいなあーと思うし、応援したくなってくる。ヘボピアニストだから上から目線なんかにはならない。奮闘する仲間っていう感じで愛おしいです。それから腰の据わったエッセイ。毎日をきちんと生きて、見詰めて書かれたエッセイ郡。拝読させて頂いて居ります。まとめて出版されないかなーと思っています。私は、元々は詩を書いていたので、散文詩形のエッセイ。きちんと書かれた骨のあるエッセイ大好きです。拝読致します。お送りしたコメントにも明記しましたが、商売柄、私のブログは、おちゃらけ文体でないと成立し難いので、この筆トークはこんな感じになってます。その内、詩魂が戻ってきたら、別のブログ作ります。それから、ちょっと、面白いエッセイ。ちょっと、なんていい方は失礼だけど、内容も文体もとても素敵。私より遙か彼方ぐらい若い方だけど、将来の大作家の気配を感じています。応援してます。冷や冷やしながらか読んでます。俺も鬱病で苦労したから、他人事とは思えない。(再掲追記 ブログランキング、現在は不参加)。

前回、といってもさっきなのだ。ちょっと、分かり易い文体でマジな文章を書いてみた。

で、俺のピアノはなんなのだと、当然、考える。俺はクラシック音楽の信奉者ではないし、どちらかというともあまり好きではない。たまに聴くのはグレン・ゴールドとマウリッツィオ・ポルリーニだけ。前者は、弾いている姿が粋だし、まず、本人がなんか面白い。で、後者のストラビンスキー「春の祭典」なんて、この人、ピアノのターミネーターか? ってな感じ。なんだか凄過ぎて素敵だ。えっ、はい、私も、ピアノを少し、なんてこの人の前では言えない。ピアノで指のマッサージしてます。効くんですよおー、とか言うしかねえーよ、つつたく。

日本人が、お習い事、教養とか花嫁修業みたいな感じで、クラシックピアノをやる。これがどうも好かん。アメリカの植民地か、日本は、とかなんか引っ掛かる。この引っ掛かりがどうしても取れない。すいません、クラシック音楽に、なんの他意もございません。俺がガキの頃、ピアノ教室に通っていたのだけど、炭鉱の町で、男の子がバイエル抱えて歩いている自分の姿がなんだか変(態)に思った。銭湯、ゴム長履いた魚屋のお姉さん、生協。炭鉱従業員の木造の長屋と、共同便所。この空気の中のバイエルというのが、ハレーション。もういいや、俺は野球。と言って止めてしまった。

で、ジャズの信奉者なのかというと、これも、なんか違和感がある。日本人が、アフリカの帽子被ったり、チョッキ着たりと、第一、似合わない。ジャズジャイアンツのレコードのコピーしたり、黒人のリズム感を一生懸命、習得したり、これもやはりピンとこない。唯一、日本の夏祭りの太鼓とか横笛とか、民謡のはあ——、はい——はい。なんて、これは俺のソウルに直撃する。じゃ、浴衣着て、草履履いて、パリのジャズクラブでやればいいとなる。やってもいいけど、やり方が分からない。

そうなる、なんにも属さないエスペラントミュージックしかない。

で、俺がやってる音楽がそうなのかどうか分からないけど、そうなのかも知れない。ちょっと、ジャズっぽい感じの音楽。なんにも信奉してないから、こんな風になってしまう。よく言えば、俺自身の脳みそが比較的、オヤジのわりには自由なのだろう。本当は、プッシー・キャット・

ドールズみたいに、踊りながら歌いたいんだけどなあー。整形するか、顔のたるみ。とはいえ、なんぼ整形しても顔の大きさは変わらないのだ。六頭身は整形できません。むむ。

2012.09.28 Fri

ライブ

俺は、基本的に、ライブ演奏しか信じていない。

絵描き、物書きとミュージシャンとの大きな違いは、ミュージシャンのゴトシ(仕事)は、ライブ、直接の観衆(お客さん)を前に成立することだ。絵描きさんでも、ライブで絵を描く人はいるけれど、基本的になんか違う。「あんちゃーん、死ぬまで、弾きまくれえー」とか、ライブ中に、励ましのようなヤジが飛んで来る。で、俺は、「この野郎っ、人事だと思いやがってっ。弾きまくったるうー」とか頭の中で、ひとり呟いていたりする。そして、お客さんの裕イサオを聴きに來ている熱気と期待が伝わってくる。この感じはとてもいい。人生の一瞬の時間を、見知らぬ人と共有し、しかも、熱くなっている。みんな、俺ら、生きとるぞおーという感触が伝わってくる。音楽、いや、ジャズ屋冥利です。創作の時間を「共有できる」のは音楽(一部の)しかない。

田村隆一さんの詩に、「時が過ぎるのではない 人が過ぎるのだ」という一節がある。吉増剛造さんの散文詩に、正確な記述は忘れてしまったけど、「死は至る所にある。君の前の線路。君の手首。ほんの一メートルもない所に。そして、それが難儀で、その勇気がないのなら、君の血管のひとつひとつが生きている証なのだ」。

水色の秋空の下、川の辺で、金子みすずさんの「美しい町」の絵描きのように、水面を見つめていたら、上のフレーズが音楽のように頭の中を通り過ぎていった。

今更、自分が笑い出すぐらい自明のことが、頭に浮かんで来た。死、亡くなった方。それは生きている我々の脳髓の中にしかない。死という観念自体が、生きている証だ。めげて疲れている時、時折、それが甘美なものに思える時がある。目を覚ましたくない欲求が込み上げて来る時もある。

動物、生物の死は、その形が物体になることだ。そして、土に返る。その形が生きて動いていた、共有していた時間、思い出が、映像が、生きている我々の脳髓の中で息衝く。

弾き手のなくなった楽器。それも、魂のなくなった物体に過ぎない。

だから、自分の死は自分の問題じゃない。生きて、その生きていた形を内包して、その後に生きていく人たちの問題。だから、生きている内に、きちんと生きないと。生きていた時間と、共有した時間は穏やかにこしたことはない。墓参りの時に、思わず、不謹慎にも、くくくって、思出し笑いが出る。そんな形が、一番いい。だから、自殺は、生者への冒涇だ。そんなことをするなら、音楽がある。文学がある。美術がある。芸術は、そんなもやもやに決着を付けるために

ある。と俺は信じている。

と、水面を見てて、俺は思った。昔は、死に急ぐジャズミュージシャンが多過ぎた。俺は嫌だね。三流でいい。穏やかに生きる。そういうことだ。

再掲追記

本記事は鬱で苦しんでいた友人へ向けて書かれたものです。この記事のせいではないけれど、今は、とても元気になった。どうも私は鬱過敏症らしく、この音を聞いただけでビクッとなる。日頃、でろおーーんと安眠を貪る詩神様が、この音を聞くと、ガバッと起き上がる。

2012.09.30 Sun

そうだな、俺の家に、日本の某大手電子機器の会社の、広報部の若いお姉さんから電話が来たのは、2013年の初頭だった。声が緊張で震えていた。

「あっ、あの、裕先生でいらっしゃいますか？」

「へえー、あたすです。イーちゃんと呼んでおくんまし」

「ooo広報部のoooと申しますが」

「へっ、なんぞ御用で？ すっかす、すま(暇)どすなあー、ゴトシ(仕事)がねえーだべ。おするは、うどんにすっぺがな」

「えっ？ あの、当社社長のoooが先生の動画、ラストシーンを拝見させて頂いて、大変に素晴らしかったと。是非、当社のCMに使わせて頂きたいと、突然の失礼なお電話、何卒、ご容赦を」

「へっ、あんた今なにこいたべな。おするはひやむぎに、すっぺかな。鳥うどんもなあー。うんうん。はだけでよおー、こす、いだめじまってよおー、ヤノピが弾けんでのおー、えっ、スーエム？ お宅の、あたすの曲を、スーエム。につかいただいってことなんだべか？」

「はい、是非是非」

「うあちゃあー、あんだ、OOO社。ほんどうに？」

「はい」と、いった会話がなされた。

中略。俺に異論はない。とんとん拍子で話が進み、CMがリリース。OOO社の新製品、馬鹿売れ。CM音楽への問い合わせが殺到。とうとう、OOO社の業務に支障をきたすほどの嬉しい悲鳴。そうこうしていたら、某大手レコード会社から、CDにしたいとの申し出。異論はない。メローな癒し系のジャズとの謳い文句で、ジャズでは異例のヒットチャート入り。今度は、リズムックスシリーズが若者の間で爆発的なヒット。アメリカのレコード会社からリリースの申し出。とうとう、プッシーキャットドールズを抜き去り、全米ヒットチャートで一位。ついでにグラミー賞(ジャズ部門)。洋酒会社から、即興演奏をCMに使いたい、先生自らご出演。異論はない。大人の洋酒、大人のジャズ、洋酒は馬鹿売れ。フリージャズでは前代未聞。メジャーレーベルからリリース。ヒットチャートで七位を記録(フリージャズの演奏が、ヒットチャートにノミネート、当然、世界初)。その間、ハリウッド映画の音楽担当。グラミー賞。日本のCM音楽、映画、ドラマと仕事が殺到。この頃、俺の年収は十一億円を突破。当然、フランスのディスコは俺のリズムックスばかり流れ、フランスでもデイビッド・ゲイタを追い抜き一位。ゴールドディスク。ゴールドディスクの授与式のレセプション。ランボルギーニから降り立った俺は、たちまち、報道陣、ファンのお姉さん方にもみくちゃ。ひーひー言っただけでレセプションまで辿り着く。レセプションにいた別嬪のコンパニオン三人(派遣モデル)に、職務を忘れてしまったらしく、きゃあああああーと飛び付かれた。これが、後のイサオガールズの三人。キャサリンとイザベルと直子。もう面倒なので、三人纏めて秘書で雇ってしまった。キャサリンはスウェーデン語、英語、ドイツ語。イザベルはフランス語とイタリア語とスペイン語と日本語。直子は日本語、フランス語、中国語と韓

国語。各国の言語をほとんどカバーしている。秘書に丁度いい。悲しいかな半世紀の貧乏暮らしが直らない、金の使い道がないので、パリ近郊の木立の中に土地を買い、日本の高名な建築家に設計を依頼。下心丸出しだったが、この三人を同居させることにした。

屋外25Mと屋内プール25Mとジム。俺の練習場、ヤマハのGXLが、どんと置いてある。と書斎兼YouTubeを見るためのホームシアターと寝室。三人の秘書各自へ150M2のアパートを建物内に作った。スマートを一台ずつ買った。色は各自に決めさせた。左右の扉に小さくIsao YUと入っている。ゲストルームがふたつ。各250M2。まっ、ラスベガスのスイートルームをシックにした感じかしらね。サロンは、吹き抜けの600M2。仕事柄、ジェットセットのパーティーを開かなければいけないのだ。ほとんど、お城のようなサイズになってしまったが、木立に隠れて、外部からは見えないし、石塀で取り囲んでもらったから、十分静かである。巨大な容積にもかかわらず、さすが、高名な建築家の設計である。お洒落だし威圧感はない。自然と溶け込んでいて、俺は、大変に気に入っている。三十八億円、安いものだ。敷地内に、住み込みのメイド三人と庭師三人(この三組は夫婦。当然、子供部屋も併設)の住居も建てた。あまり、俺の家と違い過ぎるのも、子供たちが卑屈になるので、フランスの中流家庭ぐらゐの家を三軒建てた。ただ、俺は料理狂なので、調理人は雇わなかった。建物内に、三ツ星レストランも真っ青の厨房を作ってもらった。とはいえ、おでんだの、メンチカツだの、イカの塩焼きなんてもんしか作らんが。この頃には、俺の年収は二十八億円。プラス、次から次へと、印税(CDも印税って言うの?)だ広告料だが入って来るので、面倒なのでスイスの銀行に管理させることにした。実際の収入は自分でも分からない。新築の家のローンも、結局、二回に分けて完済してしまった。音楽活動だけでも十分過ぎるのに、日本の大手出版社からこぞって、この筆トークを是非、出版させてくれと依頼が殺到。面倒なので、出版社の選定なんだかんだは、すべて、直子に任せてしまった(直子は、一瞬馬鹿ぽいが、なんのなんの優秀な秘書なのだ。皆、ちょっと娼婦ぽいのと、舌足らずな馬鹿っぽい話し方に騙され、油断するのだ)。イザベルがフランス語に翻訳するらしい。俺は、銀行利子と印税だけでも、まったく生活に困らないので、少しずつ仕事をお断りしている。

ひとつだけ重大な誤算があった。下心丸出しで三人の別嬪を同居させた。ここまではいい。住ませた当初。この三人のライバル意識が凄まじく、おいそれと、ひとりに手を出した日には、残りのふたりから何をされるか分からない。結局、だれにも手を出せないという矛盾が生じてしまった。俺が矛盾に引き裂かれている内に、三人は大の仲良しになってしまい、おいそれと浮気さえできない。三人の女秘書に見張られているのだ。失敗だった。金もいらん、もう、俺はなにもしらん、えーんえーん、自由が欲しい。大体、趣味の草むしりをしていると、庭師が血相変えて飛んで来るし、スーパーに行けば、ファンにもみくちゃになるので、宅配で届けてもらうしか手がない。離れのガレージに、ランボルギーニとブガッティーとフェラーリのテスタロッサとアストンマーチンとマクラーレンとベンツのクーペとシトロエンCXと日産GT-Rと、後、忘れちゃったよ。

貧乏な頃が、懐かしいよおー、買出しに行きたいよおー。
なんでも買えちゃうから、ツマンナイよおー。

ふと、カレンダーが目に留まった。あれっ？ あれあれ？ 2012年？
おかしいじゃん、時系列的に。

2012.10.01 Mon

月よりの使者

昨日、一週間ぶりに、びっこを引きながら、散歩に出た。散歩と言っても、本当に、三步で、まともに歩けないので、川の辺りのベンチに腰掛けて、水面のキラキラだの、停泊中のペニッシュの空っぽの積載船の微妙な上下の揺れだの、遠くの教会の尖塔だのを見ていた。たぶん、太宰治の顔真似を知らぬ間にしていたはずだ。で、突然、むらむらと欲情したのではなく、映画エンドレスワルツの映像が頭の中を駆け巡り始め、なんだか、妙にイライラして来た。水色の秋空の下、穏やかな深緑色の水面。イライラする要素なんて、どこにもない。けれど、なんか怒りが込み上げてきた。そして、帰宅後、前回のブログを書いた。たまに、こういう詩神に憑かれる。

この動画。また、また、久しぶりに見てみた。タイトルの意味は、クナトンナ(なんとなく)で、最後の方に、ルートなしの四和音のマイナーコードで、Ebから半音ずつ下がるフレーズが、なんとなく、ドゥビッシュー風。そして、なんとなく月とか星とか宇宙。毎晩、志村けんさんのコントをYouTubeで見ている、加藤茶との月光仮面コントに嵌っていたので、このタイトルになった。なんだか、実に安易な命名なのだ。茶「お住まいは？」けん「月よりの使者だから、月ですかねえー」茶「あんた、ここの制限速度知ってるよね？」けん「えっ？」茶「こんなところで30kmなんて、危ないじゃないか。ここは90kmだよ」けん「久しぶりの仕事で、安全運転で行こうと」茶「大体、そのバイク。改造車だな。いい年こいて、はでな格好して、大体、ヘルメットは？」けん、ターバンを見せて、「一応、これ巻いてるんですけど」茶「年は？」けん「放映されたのが、昭和三十年ぐらいだから七十ぐらいですかねえー」茶「大体、この下のもっこりは止めなさい」けん「えっ、こういう衣装なんで」茶「ちょっと、署まで来てもらう」けん「えっ、もっこりで逮捕ですか？」。

馬鹿馬鹿しいと言え、とんでもなくそうだけど、年老いた月光仮面。志村さん、おじいちゃん、おばあちゃんやると、世界一の芸人さんだ。笑いながら、どこかに引っ掛かる。どこかが暖かい、志村さんのコントは。

で、俺の、こういった即興ピアノ。熱狂的にいいと言ってくれる人と、なんだか分からんなあーという人に二分する。どちらも正解なんだろう。大体、これをウォークマンとかで電車の中で聴いている人、なんか不気味だ。俺でさえ聴かない。演奏者本人が、リズムックスシリーズ(リズムボックスを使ったシンセサイザーソロ)ばかり聴いている。フリージャズ、即興演奏、なんだか、自分でもしんどくなる。無責任だよな、まったく。弾きっ放しだ、これじゃ。でも、廃屋になったレンガ造りの工場後なんかのど真ん中に、ヤマハのコンサート用のすげえグランドピアノ。確か、GXLとか、そんな名前。F1の車みたいで、ピア中が見ると、よだれ。もう、むらむら。隣に、裸の女の子いても、押し退けて、ピアノに飛び付く。で、そのシュチエーションの中で、なんか弾こうとすると、こういう音楽になる。どう見たって、孤高のピアニストだ。だって、隣で、突き飛ばされた裸のお姉さんが倒れて居るのだから。ピア中も重症になるとこま

で来るのだ。

ところで、加藤茶さんは、俺と同郷。訛ったそおーずんご(標準語)が懐かしい。高校出て、東京の美術大学進学予備校に行って、最初の日挨拶。本人は、そおーずんごで話したつもりだったが、教室中、しーーんとしたのを覚えている。デザイン科に別嬪の姉ちゃんが沢山いたが、このしーーんの後、お声を掛ける気にはならなかった。まだ、俺は十九歳だったんだもんなあー。はっきり言って、確かに俺だったのだろうけれど、今の俺とは関係のない別人だ。三十年以上も経っちゃうと、そんなシャイなとこなんてまったくなくなる。「今晚、どや？」なんて平気で声掛けたり、そんな馬鹿な、する訳ないよ。女性は、口説くプロセスが楽しいのだよ。結果なんてどうでもええ。口説くというこの営為が文学的だし、大人(オジサン)の楽しみなのだね。だから、結果が分かったらポイ。うわあー、こんなことばかりやってっと、おーー、怖あーー。

そうだ、なんだかこの動画、難解な曲なのに妙に再生率がいいと思ってインターネットで調べてたら、なあーーんだあー、同名の映画と歌があった。自分が知らぬ間に、ヒットしていた。すいません、間違って俺の見ちゃった人も多いみたいです。すつれいいたすました。因みに、朝日新聞。あさすすんぶん。この音の違い、なんかクラシック音楽とジャズの関係みたい。元々から、俺はジャズメンだったのだ！

2012.10.01 Mon

リール仲間 ビール瓶

クリスチャン・バッサール。リールで最も著名なクラシックギタリスト。非常にリリカルな演奏を得意とする。彼のYouTubeチャンネル、是非、ご覧下さい。素晴らしいソロ演奏が聴けますよ。

俺は、2007-2010と三年間、リールに住んでいた。リールという町については、特別な思いがあるので、別途書く。

地上階が現代美術の画廊で、地下がライブハウスというミニ文化センターのようなものをやっていた。前衛美術家、前衛ミュージシャンの溜り場だった。「すいません、パトロンに会いたいのですが」「えっ、俺だけだ」。ギター背負った若い兄貴。「えーと、ギターやってんですけど」「はいはい、でも、俺んところは尖がった音楽、即興、現代音楽、クラシック、古典音楽とかしかやらないけど」「あっ、はい、自分で作曲したギターとコンピューター使ったやつですけど」「ギターは？ 音大かなんかで習ったの？」「まったくの独学です」「いいよ。来月になっちゃうけど」「いいよ？ いいんですか、デモテープとか聞かなくて」「うん、いいよ」「えっ、クール、クール」とか、ある意味、いい加減な経営者だったけど、なんか雰囲気音は分かる。いつしか、オリジナルな音楽を聴ける場所として定着。とはいえ、当然かしらね、経営破綻で、また、パリに戻り。

ある日、常連のギタリストがぶらっと入ってきた。「イサオ、凄いギタリスト知ってんだけど。たまに俺とデュオでやってくれる」「えっ、俺んところなんて出てくれないよ、そんな人」「全然、気さくですげえーいい奴だよ。年もイサオと同じぐらいだ。俺が話し付けるよ」「異議なし。よろしく」

と、とんとんとんと話が進み、紹介してくれたギタリスト、フィルとのデュオで、見事な即興演奏を披露してくれた。この演奏は、俺のライブハウスのベストパフォーマンスのひとつとなった。フィルが、ベース、音響効果役に徹していて、ギター叩いたり、綿の付いたドラムスティックで弦を叩いたり、その横のクリスチャンの超リリカルなギター、賛美歌みたいなボーカル。見事の一言。

年は俺とまったく同じ。著名なクラシックのギタリストなのに、まるで音楽への偏見がない超オープンなやつだった。クラシック、オリエンタル音楽、即興演奏、ロック、お笑い、馬鹿俳句。そして、ボーカリストでもある。本当にマルチだ、彼は。俺は、丸痴。打ち上げで、日仏はなもげら合戦。訳の分からん空手の披露。さむらいの物まね。犬の物まね。おかまだの、自分の物まねとか、しまいには歩道で、ブルース・リー(俺)とチャック・ノリス(クリスチャン)の「ドラゴンへの道」の物まねまで二人でやってしまった。盛り上がり親友になった。中村誠一さんと

タモリの出会い、ヨギメン友達。まったく同じのり。後日、オフィシャルなコンサート中に、二人で、これをやってしまった。さむらい、やくざ、ブルース・リー。コンサート中に、「ちよえええええー」 「むむむむむうー」とか英語で、「ファOOOうー」。座頭市。ごめだこりゃ。

久しぶりに動画を見てみた。コメントに書いた通り、俺のピアノはお邪魔虫。正直、いらん。怪しげな東洋人の、怪しげなピアノ調律師という趣。やはり、クラシック系の即興演奏は、リール音大ピアノ科の大学院に行っているお姉さんとかの方が、俺より格段上手い。ジャズコードを使わずにやっているの、無理が見え見えだ。クリスチャンは、きちんとクラシックの和声を身に付けているので、大変だった。なるべく、邪魔せんようにとやってみたのですが.....。けれど、音大の学生さんたちに俺のファンが多いのもよく分からん。別件だけど。野蛮でセクシーなのかしら？

当のクリスチャンの方は、「いやあー、楽しかったあー」なんて喜んでいる。大体、俺が押しかけて行って、「ねえ、クリスチャン、YouTubeの動画撮りたいんだけど」「うん、いいよ」。撮り終わって、ビール飲みながら、奥さんのナタリーと三人で動画見て、げらげら。アル中のギタリストと謎の調律師、きゃはははあー。なんて言って、動画1はこれにしようとなった。

前に書いた通り、クラシック系とジャズ系の即興演奏は、やはり違う。ハーモニーの使い方も随分違う。クリスチャンのリリカルなギターは、幸い中盤から後半に掛けて聴けるので、公開することにした。

後日談なんだけど、先日、インターネットをいじっていたら、俺の名前が出てきた。もちろん、自分でアップロードした動画が沢山あるから、当然なのだけれど、それ以外にも沢山名前が出てきた。「お笑い動画集」とかいうサイトに名前が出ていたのでクリック。この動画が、「お薦めお笑い動画として」選ばれていた。まったく別のレベルでお薦め動画に。いやあー、なんだか嬉しかった。

2012.10.02 Tue

えー、毎度、馬鹿馬鹿しいお笑いを、ひとつ。と言って、ニッと笑う。クダラナイ。
なんかのレクチャーに呼ばれて、「シニアの方は」と、パネリストが言って俺の顔を見た。けど、俺は後ろを振り返り、キョロキョロして、「あっ、俺っ？ いや、私ですか？」。こういう反応をいつまでもしている。53歳。これがどういう位置にいるのか、よく分からない。よくいう江戸時代なら隠居の年だ。

で、人生の先輩(年長の方)、後輩(年下の方および若僧、ガキども)がいる。後者の方が、まだ、多いはずだ。先日、パリの元某某大手日系企業の社長だった方にお会いした。

「裕さんって、いくつ？」「あっ、はい、五十三です」「ぎゃーはっはっはっ、子供じゃん」なんて言われてしまった。で、たまに日本に帰ると、「先生」なんて呼ばれたりする。これでは前に書いた、年齢パリ症候群だ。

で、この俺の年の相対的なご意見はさておき、実際は.....。

ふむ、書けない。ぎっくり腰はご愛嬌としても、それ以外の、詳細は、やはり、ハンサム系としては、やはり、書けん。自分でイメージダウン。そんなことは、芸能人の端くれとしては、でけん。

閑話休題

はい、ジャズおよびロックだと思うのですが、ミュージシャン用語および、ついでだ、東北弁のレッスンです。

ピアノ ヤノピ びあのと、元の言葉、ミュージシャン用語、東北弁へ。

女 なおん おめご

私 たわし おれげえー

森田和義 タモリ だもり

-nko こーまん べっa(b)

kuso そーく ふん

兄ちゃん チャンにー おにいじゃん

鉛筆の芯が丸くなったー ぴつえんんーしがるくまー ずんこになった

このように日本語内だけでも、すでに、諸々の転回形。

まだ、分からんかなあー、君たち。だから「間違っただ音」などないのだから、気楽に音楽してね。ということ。こじつけ、かしら。なんとなく、段々、アンチクラシックの化けの皮が剥がれ

てきたかも。ジャズは、土着音楽、元々は。段々、高度化して来たのは残念無念。日本の夏祭り。それこそがジャズなんだけどな。皆、教養(西洋化)が深まっちゃった。でも、世界の中心は、西洋でも、東洋でも、アフリカでもなくて、おわあー、また、急に詩神のお達し、だから、あなただ。

デタラメでいいんだ。アホみたいに酒飲んで、ボンゴを、叩き捲くる。当然、ボンゴ、ボンゴとなつて、梵語。日本人は、などと、言ってしまいますが、練習とかご教示とか好き過ぎ。俺は、そんなもん、どうでもいいけん、酒とボンゴ、持ってこい。これはこれで、すっきりしていて明るい。先輩、いや、俺の先輩のお話は、ちゃんと聞く。礼儀だけではなくて、年輪には勝てない。とはいえ、俺の下の若僧が、チャンジーに首絞められる筋合いはない。

好きにして、拙かったら、自分で直して頂戴ね。以上、虎の穴音楽教室でした。
校長、裕イサオ。

再掲追記

マイルス・デイビス

若僧「ヘイ、マイルス、ここのよおー、フレーズ、どうすんの？」

「いえー」と言ってシンセサイザーのキーを押す。出鱈目のキー。

自分で考えろっ、ばあーたれっ、ということなのね。

こういうのを年輪と言うのである。

2012.10.02 Tue

マイ フーリッシュ ハート

とうとうブログも、この動画まで辿り着いた。

動画の延長コメント、その間に、なんだか訳の分からない小話、エッセイ。

このスタイルで書いて来た。

この曲。動画の冒頭に、トークの映像を入れた。その中のコメントと重複してしまうが、もう一度、文章化してみる。

俺は坊主刈りの学生服を着た中学二年生だった。野球部でキャッチャーをしていた。

吉田拓郎とかかぐや姫、井上揚水なんかを聴いていた。

どうして、突然、ジャズのレコードを買ったのか、思い出せない。

先輩かなんかに薦められたのだろう。

街中に結構大きなレコード店があった。

ジャズのセクションがかなりの面積を占めていた。

で、どうして、その一枚を選んだのかも記憶がない。

「ワルツ フォー デビー」ビル・エバンス

たぶん、ジャズピアノの最高峰の一枚であろうアルバム。このアルバムの一曲目だ。

ニューヨークのビレッジバンガードのライブレコーディング。人々のざわめきと、たぶん、ウィングラスと思われるグラスの触れ合う音。ステージの上には、ビル・エバンス(ピアノ)。ポール・モチアン(ドラムス)と、もうひとり伝説のベーシスト、スコット・ラファロ。たぶん、このピアノトリオはジャズ史の中の、最強トリオのひとつだろう。若くして世を去ったスコット・ラファロが、後年のベース奏者に残した影響は多大なものがある。エレクトリックベースのジャコ・パストリアス、ウッドベースとエレクトリック両刀使いスタンリー・クラーク。そして、直接の後継者は、たぶん、ゲイリー・ピーコック。ベースをソロ楽器、メロディー楽器へと変貌させた。

ビルが相当酷いジャンキーであったこと。マイルスのバンドで黒人から逆差別、いじめに合っていたこと。そして、スコットの交通事故死。すれすれのところにいたことを、最近、知った。スコットの事故は、このレコーディングから間もない。アル中、ニコチン中毒、なおん(女)、で、薬。楽器。これがジャズ屋の五大要素だ。三つはクリアー(と言うのかなあー)しないと「いい音が出ない」ということになっとる。一応、俺は、アル、ニコ、なおん、楽器と四つを制覇している。努力しているのだ。スリクまで行ってしまうと、禁治産者だから、五番目はパス。体が、もたんだらう。

そして、この三人の演奏。色っぽい一言だ。俺には、分かんないのだが、スリクの影響もあるのだろう。俺には、こんな色っぽい演奏はできない。いや、スリクのせいではなく、元々が体育会系というやつなんで、やっぱ、でけん。田村隆一と吉岡実。田村さん、全然、色っぽくない。吉岡さん、色っぽい。田村さん、アル中。吉岡さん、酒飲まない。あれっ、だったら、アルコールもスリクも関係ないのだね、これに関しては。そうかぁー、最初から、色っぽくないんだね。ほっといてくれっ。

でも、坊主刈りの十四歳の中二の俺の中に、はっきり、なにかが、刺さった。この時、ジャズのピアノ弾きになろうと思った。こういうことは、だれしも、ある。

プロ登録したのがシジュウの時だから、その時から二十六年経っている。屈折何年じゃなくて、中断していたのだ。でも、中断から再起して這い上がり、坊主刈りにして学生服着て、俺は、ピアノを再開した。時間が、どきどきと逆流して、初心に帰った。人生の初期化だ。

で、おっさんは、普通は、こういうことはしない。いや、してはいかんのだ。年輪、下腹、顔の弛み。温厚とか、おっさんらしい風態にならんといかんのだよ。でも、でけんかった。やはり、元々の美貌がブロックした。日本のデビッド・ボウイ。えっ、ひとみ婆さん？

で、この超へたくそスタンダード。絶対に、非難轟々は覚悟していたら、なんだか「今週のお薦め動画」というチャンネルに、ばっちり、載っていた。

すいません、全然、俺の思惑とは関係なく、動画がひとり歩きを始めた。

この曲は、中二の俺だったらしいガキとの決別のために、あえて、ド下手を承知で弾いて、動画化して、公開したのですよ。決着、付けんとね。一応は、人生に。次に行くためにね。おっさんだって、進歩すんだよ、高齢化社会だよ、若僧どもめっ。

2012.10.02 Tue

Vincent Van Miller。バンサン(英語だとビンセント)・バン・ミラー。俺のリールのパーマネントグループだ。バンサン・バン・ゴッホとヘンリ・ミラーをくっつけた。基本は、もう何をやっても構わない。以上。俺は、ただ、ステージの上で、ぼーとしていたい。これで構わんのだ。入場料頂くかは、本人の責任とする。

元々は、俺が、リヨン在住時(1998年に)立ち上げた、パフォーマンスグループの名前。VVMリヨンは大所帯だった。詩人、美術家、ミュージシャン、舞踏家。プロアマは無視。もうどちら様でも、何やってもいいから、参加したい方は、どうぞっ。と、やっていたら、ステージの上は満員御礼。来ているお客さんより、ステージの上の数の多いという状態。元々、美術のコンテキストの中で、パフォーマンスをやっていたから、こういうことが止められない。でも、このコンセプトは、今でも変わらない。昔の仲間からは、「イサオは、ちょっと、ピアノ上手くなり過ぎ。つまんなんよ。昔の方が良かった」とご批判まで出て居る。確かに、ちょこざいなテクが多少付いてしまって、昔のアホな熱気は、かなり、薄らいではしまったが、そうは言っても、基本的態度に変わりはないんだけどなあー。なんか面白いのは、ライブハウスの方もほくほく顔。お客さんが少ないのに、やたら参加者が多く、酒飲みばかりだから、向こうもいい儲けになったみたい。俺のやること、行くところ、良くこうゆう逆転が起きる。考えてみたら、ミュージシャンが大挙押し寄せてきて、演奏して、飲めや歌えややれば、ライブハウスとしては、お客さんいらん訳だ。と算数上はなるけれど、実は、我々はただ酒の名人ばかりだから、やはり、これは駄目。

VVMリールは、基本的に固定メンバーと、後はへめらもの飛び入りさん。前出のマルトリーのコンサートの時は、俺らの仲間の中で一番出世したブルースシンガーのレッドが、突然ステージに現れドラムス。ウイアーザロックを叩き出した。ジャンリュックとミモザが負けじと歌でハモって、俺のカカペットで応酬。女装した司会者が、だまらっしゃいだまらっしゃいと叫びながら、白鳥の湖を踊った。なんだったのだろう？ 会場も盛り上がり大騒ぎだ。やはり、どこかがお笑い系なのかもしれん。

通常は、俺のシンセ。カカ(うんち)ペットとリコーダーとパーカッション。ミモザ、ギター、テナーサクソ、ハーモニカ。ジャンリュックの朗読。こういう構成。ミモザのテナーサクソは、まったくのデタラメなので、カカホーンと自分で言っている。良く詩の朗読会に押し掛けて演奏してしまう。

今回は、俺が、ペットとリコーダー持ってパリから押し掛けたので、動画の中には、諸々の楽器は出てこない。まあ、俺のペットは、自分でカカペッターと言っているので、ド下手はご了解お願い申し上げる次第でございます。逆に言うと、VVMの基本コンセプトに近い。ピアノを弾

くと、ご批判通り、ちょっと、遠ざかるところもある。

ジャンリュックのビルナフダスク(リール近郊)のアパートに、YouTubeYouTubeと俺が押し掛け
た訳。ジャンリュックに会ったのは、すでに書いた「お前のピアノを隠せ」というコンサートの
打ち上げだった。丁度、俺の隣に座ったので、ぺちゃぺちゃやった。年も二つ下。同世代だ。物
静かで大変に穏やか。「ミュージシャン？」って聞いたら、違うよ、詩を書いてるって返事が
来た。興味あるから、原稿送ってよとなった。で、また、とんとんとんと共演することにした。

動画の中の詩は、かなりのフランス語力がないと分からない。タイトルは自転車野郎のブルース
。後半部分に俺の大好きなフレーズが出てくる。「ブルースでいっばいだ。そこいら中がブルース
だっ」。自転車野郎、他にもない、ジャンリュック自身だ。彼のアパート。俺たちの後ろに、
ちょっとCDが映っているけど、カメラの後ろには、大量の本とレコードとCDと、自転車のロード
レーサー。読書とレコード鑑賞と詩作と、フランスのインテリそのもの。そして、なぜか、自
転車狂。毎日、100km以上走るって言っていた。もちろん、詩では食えないから、高校の地理(だ
ったと思う)の先生をしている。動画の冒頭部分の自分の映像を見て、すぐメールが来た。「な
んか、アホに見えない？」「大丈夫、優しい感じで、女の子にモテモテだよ」「そうか
なあー、そうならいいんだけど」と、リリースしてしまった。ミモザもそうだけど、二人とも生
粋のリール野郎。ご両親は、ポーランドからの移民。炭鉱関係の仕事で来たそう。確か、ジャン
リュックのお父さんが警察官で、ミモザは学校の先生かなんかだった。リール炭鉱移民の二世た
ちだ。ミモザのことは、別途書くが、このリール野郎たち、二人とも大変物静かで穏やかで(騒が
しいのは、バンマスの俺だけだ)、大のビール党。これは、リールの連中の共通点。ベルギーから
上手いビールがばしばし入ってくるから、嫌でもこうなる。ベルギーの修道院で作られる地酒み
たいなビール。ジャンリュックとベルギー国境の山の中のカフェに行ったら「ビールだけの
メニュー」。何種類あるのか分からない。ジャンリュックに選んでもらうしかなかった。

ところで、ジャンリュック、ミモザ。二人とも185cmだ。二人だけだと、ロック系の格好いい
ミュージシャンに見える。けど、なぜか、俺が入るとチンドン屋に見える。なぜだ？

2012.10.03 Wed

ぼた山

自分でライブハウスを立ち上げようと計画し、パリで物件を探す。

こっちも年で、ジャズクラブにお百度踏むのも面倒になってきた。ジャーマネ(マネージャー)を雇う余裕なんかないし、第一、ピアノバーのゴトシなんかしたくないし、大体、俺のスタイルではでけん。援助交際なんてしているカップルの脇で、フリージャズなんてやられては、向こうだっ てたまらんだろう。なんとなく、おもしろいけど。「君、いくつ？ 十八。いいよなあー、いいよ なあー、うんうん。オジサンは、五十三。うんうん、お金はないよおー、貸してくれる？」 えっ、援交って逆なの？

で、三日後に諦めた。高過ぎ晋作だ。家賃、わあおー、3000euro！では、買ってしまう？ 五 千万(円)、あーあーあー(ターザン。中国語タモリ訳は、すーしいー ほおー)。論外乱闘。では、郊外。人が集まらん。肥溜め(小学生の時、藁を被せてあったこれに落 ちたことがある。下半身がずぶっとソークに包まれた)と炭焼き小屋の隣のライブハウス。「えっ 、おトイレ、外でお願いします」なんてな。で、炭焼き小屋の横で、しゃがんでると麦わら帽 子で、肥たご担いだおじいちゃんに、「精がでるねえー」なんて、声掛けられて。 ちょっと、無理じゃわい。

サハラ砂漠に土地買って……。これも、無理無理。「いやあー、僕はねえー、サハラ砂漠にね、広 大な土地を所有してるんだよ、君」。哀川翔さんの声音で、「あっ、そ」。

では、痴呆都市だあ、となった。そう言えば、昔、リールに住んでいた友達が、「リール、セン パ(シンパティックいい感じ)でいいどおー」と言っていたな。パリまでTGVで一時間。ふむ、ち ょこっと、行ってみっかあー、となった。

工業地帯、失業者の町、アル中が多いetcetc

まあ、ちょっと、小汚い感じだけど、庶民的で、活気はあるってなイメージ。で行った。

わあ、小振りのブリュッセル。なんだよおー、綺麗な町じゃなか。全然、イメージ違うなあーと 旧市街と中心街を歩き、ついでだ広場の向こうまで行ってみよう。

ありゃ、突然、10mおきにジキコ(乞食)、真昼間からディスカウントショップの前で缶ビール飲ん でいる失業者、タバコの箱を出すと、すぐたかられる(一本吸う度に、結果二本なくなる)。 缶ビール飲みながら乳母車押してる女性(失業中)。ジプシーの子供たち。

リール。パリから220km。TGVでさっき書いたけど1H。ブリュッセルまで30mm。ロンドン2H。 この立地。かつては商業の町として栄えた。その後、繊維産業、炭鉱で栄え、逆に言うと、今は 、何もないと言え言えなくもない。リール近郊のぼた山。閉山になった炭鉱跡。かつて炭鉱従

業員が住んでいた長屋。東欧からの移民。ずばり、俺の故郷の、俺が育った頃のイメージと重なる。懐かしかった。なんともこの風景は沁みた。旧市街の美しい町並み。中心街の活気。で、一挙に広場の向こうのコントラスト。そして、この郊外の風景。ジャズしている。

道で地図を出していると、必ず、向こうから、「何探してんですか？」と声を掛けられる。

「リール、いいとこですねえー」って言うのと「だろお」なんて返事が返って来る。道行く姉ちゃん。すっぴんが多い。時々、おわあー、「おいくらですか？」と聞かれても仕方ねえーだろっという感じの姉ちゃん。若僧、ヒッピースタイル、モヒカン、スキンヘッドなんか結構いる。昔住んでたリヨンには、こんないなかった。ギター抱えているやつが多い。朝の歩道のビール瓶、ビールの空き缶。リヨンではこんなことなかった。

で、俺は気に入った。早速、マーケティングを開始。予想通りだ。インプロバイザーの巣窟であることが分かった。で、決めた。おーし、ここだあーと。決めると素早いジャズ屋体質。すぐ、引越してしまった。

日本語のタイトルは知らない。映画「ビアンビニニューシェシティ」。ようこそ、シティの国へ。シティ。北フランスのこと。日本だと、俺の育った東北地方に当たる。リールは、地理的には仙台。雰囲気は全然違うけど。で、リールのもうひとつの大きな要素は、ベルギーとの国境の町であること。俺もよくタバコ買いにベルギーに行った。フランスより安いのです。国境と言っても、日本の県境と一緒に。ベルギーという標識があるだけ。標識の後ろから、ずらあーとタバコ屋が並んでいる。日本人には、やはり、奇異な印象。田舎道を車で走っていると、いつの間にか、道路標識がベルギーのものになっていて、ありゃ、いつからベルギーなの？ という感じになる。

話が進まない。それで、シティを日本語に訳すと、俺の意見では、かっぺ。だ。だから、「ようこそ、かっぺの国へ」とこうなる。この映画は、フランス映画の記録をすべて塗り替えた。俺も見に行った(リールで)。映画館の中。空き席がひとつもない。こんなの初めてだった。お客さんも、当然、地元の人。皆、かっぺ。で、かっぺのパロディーなのに、俺も含めて腹を抱えて笑いっぱなしだった。終わっても、まだ、皆で笑っていた。稀だ、こういうことは。ただし、監督のダニー・ブーン自体が地元(リールの隣町の出身)の人なので、角が立たないという分析があった。確かに、パリ出身の監督が作ったら、たぶん、非難轟々だったと思う。

かっぺの監督がかっぺのパロディー映画作って、かっぺのお客さんが、腹抱えて笑い転げる。なんかフランス全土を巻き込んだ村祭りに、この映画はなったのだろう。是非、ご欄あれ。北フランスのカリカチュアですが、その根源が良く出ています。で、俺もシティジャポネなのだ。

再掲追記

後日、南フランスのモンペリエへ行った。

パリまでの電車待ちの間、うな、ビールでも飲むべ、となった。

駅前のパン屋に入る。缶ビールを購入。おわあ、その缶ビールをおばさんは、薄茶色の紙袋に入れたのである。一瞬、なんのための営為なのか、脳が逆さになった。真昼間に仁王立ちして缶ビールと煙草。リアルでは普通の風景。

なぜ、紙袋？ 一分二十八秒後、理解。剥き出し缶ビール、真昼間=お下品。なあ———るほどお——。と、かっぺの俺は、ハンカチで目頭を押さえた。その世界観に、感動さえ覚えたのである。

2012.10.03 Wed

この動画、クリスチャンが、「イサオ、外は豪雨だったとコメント入れて」とメールで書いて来た。凄まじい雨。だから、豪雨なんだけど、映像は暗いし、外は、ザァー。で、だったら、雨ちゃんとセッションしようぜ、となった。フランス語講座。豪雨=牛のおしっこ。小雨=猫のおしっこ。と言います。

クリスチャンは、もちろん、日本人ではない。なのに、なんだか、雷様を思わせる演奏。プラス、明治時代の中学校の校長先生。シニアなんで、メガネ、どこに置いたか思い出せないので、予備の丸メガネなのだった。オジ駄洒落。老いると、老いたところが思い出せない。はい。

今見返して思った。非常に高価なリュートなのに、打ったたくは、竹串でぎいーこーぎいこーやるわ、大体、動画1では、ペトロフの高いピアノの上に、ビール瓶。で、かちゃかちゃ。当然、細かい傷。彼は、まったく気にしない。なぜか？ 聞いたりはしない。やぶ蛇だから。で、俺は知っている。「楽器はね自己表現の道具」「に、過ぎない」。当たり前だが、日本人には、結構、理解するのは難しい。たとえば「車」。備え餅状態。ピアノ、床の間の掛け軸。日本の絵描きの「キャンバスの裏側の綺麗なこと」。

結局、楽器、車、キャンバス。道具に「過ぎない」。この感覚は、日本人にはピンと来ないのは知っています。物作りの国だ。それは、大変に素晴らしい。ただ、この芸術というアホ世界には、ハリケーンアダになる。この細かいこだわりが、逆に、アホをブロックする。あっ、また、日仏文化論。ちょっとおー、このブログでは、止めてくれるっ。まず、芸名から変えないと、国木田長介とか。カタカタ名前は、駄目だって。

ありゃ、忘れたよ、書くこと。

そうそう、この映像の中の俺。また、俺だよ。

クリスチャンが雷様兼祈祷師。で、俺は、ピアノの出産に立ち会う産婦人科医。

二日前に、「フランスと日本」というタイトルで、ブログを書いた。

書いているうちに、非常にマジな内容、および文体になってきた。三文ジャズ屋がなんか、世界動向に言及しているようで、分不相応はなはだしく、読み返して削除してしまった。この話は、確実に一冊の本になってしまう。もちろん、比較、相違点、どちらがどうのこうのとなってしまうが、一方的にどちらの肩も持たない。ただ、日本が欧米化しよう、真似しようとしている限りは、本家はこちらになってしまう。まとめると、そう言うこと。いきなり、結論だけ。

で、今回は、いろいろな中毒について書いてみる。で、俺はピア中(ピアノ中毒)だ。最近、これにブロ中(ブログ)を併発しているが、後者は、動けるようになってくると(ギックリ腰が少しずつ回復してくると)、少しずつ薄らいできた。物書き、病気だ。健康に悪い。陰気だよ、本当。

もっとも有名なのが、アル中。ジャズ屋に多い。ジャンキー、これも、昔のジャズ屋は、ほとんどそうだったとも言える。それから「お宅」なんていうのも、一種の中毒だ。ニコ中(ニコチン)、カツ中(活字)とかいろいろあるけれど、俺が日本を出た頃(1981)、欧米諸国の日本評は、「兎小屋」「仕事中毒、会社中毒(ゴトシ中毒)」。これはよく耳に入った。兎小屋は、多少、改善した。で、俺がシニアなんて呼ばれる頃は、このゴト中はなくなり、皆、定時に退社。夏は、五週間のバカンス。「いやあー、仕事？ 金のためだけです。会社ですか？ 帰属意識なんて、まったくないね。自分の生活、家庭、趣味が第一ですよ」と、こちら、おフランス状態になっているだろうと予測していた。結果、逆様だった。もっと、酷くなってしまった。これは、理解に苦しむ。どこが、いったいどこが欧米化したのか分からない。

フランス人の一部の自営業とか、会社の重役にゴト中がいるにはいる。本当に一部の一部で、一般庶民にゴト中なんかいない。毎日、皆、カレンダーにバッテンして、夏のバカンスと、最終、定年まで、あと何日、出所まで、あと何日とやっている。諸々の理由がある。

年功序列がない。勤続年数による出世がない。上司は、他社からぽつとやってきたり、要は、管理職になる層が初めから決まっている。それ以外は、定年まで、万年平社員。モチベーションなんかある訳がない。で、当然、最小限度の仕事(密度を薄く)、勤務時間も最小、務所暮らしを、なるべく快適に、となる。

旦那、万年平。当然、食っていけないから、かみさんも仕事。こちらも、万年平。これで、なんとか生活する。ほとんどの家庭が共稼ぎ。食っていけないこともあるが、女性が「家庭に入る」「三食昼寝付き」といった発想が最初からない。結婚しない人も、どんどん増えている。そりゃそうだ。俺の周りで離婚していない人は皆無だ。最初からしない方が面倒が少ない。

で、旦那側から見ると、かみさんも仕事しているから、家事、家の中の諸々、子供の送り迎えなんてもの、すべて、旦那も半分は担っていることになる。これに、庭仕事、日曜大工、車の修理なんて入るから、旦那の方が忙しいかもしれん(フランスはサービス業という発想がそもそもないので、自分で出来る限りのことはやるのだ。俺も、車のバックミラー、ヘッドランプの取替えなんか自分でやってしまう)。

と、もうお分かりだと思う。旦那がゴト中になんかなる余裕はない。会社にどっぷり帰属している時間などない。かみさんに、「いや、仕事があるから」なんてのは、まったく、理由にならない。仕事をキャンセルするのが先という順序になる。

急に、富岡多恵子さんの一節を思い出した。

「人生はあまりに長過ぎる。男どもが、仕事と称しているものは、実は、暇潰しなのである」
どきっ。

突然、人生の五分の三をフランスで過ごしている俺なのだが、たまに、日本に帰る。喫茶店でビールを注文して颯。エレベーターに乗るときに、レディーファースト。皆が気味悪そうに俺を見る。女性の前を歩かない。体がこのようになってしまっているから、どうにもならん。素敵だわ、スマートな立ち居振る舞いって、だれも言ってくれない。「変な外人」「気味が悪い」「スケベ爺と誤解」、ろくなことないよ。もう、思い切っておかま(パリジャンヌ)になっちゃおうかしら。

ところで、俺はジャズ屋だけど、アイロン掛け以外の家の中のことはすべてやる。働き者なのだよ。仲間内から、尊敬されて居るのじゃ。イサオは偉い、主夫とピアノを両立している。裕先生自身の見解。「まっ、俺、ハンサムだし、優しいし、働き者だし、まっ、モテモテのグローバリゼーションだよ。おまけに、孤高のピアニスト。そりゃ、女は参るよ。参るよ デイビスって、名前、変えちゃおうかしら」。フランス人女性談。「うん、イサオって便利そうね」「ギックリ腰？ あら、故障しているのね」。なんだよ、洗濯機じゃねえーって。

注 フランス男、一瞬、優しそうで家事なんて「率先して」やっているような「ふり」をしているが、意外と亭主関白が多いし、「嫌々やっているやつ」も非常に多い。

注 フランス男の日本女性観は「やまとなでしこ」。俺は家事なんてせんでもいいのだ、日本娘と一緒になればあー。と本気で思っているやつが多い。馬鹿だ、本当。そんなものいねえーって、今時。で、一緒になってから、思い知るのであった。

2012.10.07 Sun

この動画、VVMの3セット目。当然、2を先にリリースしたが、2の最後に、俺のトークが入っていて、見返したら、なんか必要ないのでカット。カット版をリリース。で、2と3、アップロードの順番が入れ替わった。

「エリック・ミモザ」

リールのインプロバイザーで知らない奴はいない。ソロギター。リールの現代舞踏家ジャンリュック・カラメルの音楽担当。そして、俺のグループのパーマnentメンバーだ。忙しいのだ、彼は。

初めて会ったのは、前出のマルトリーでの俺のソロピアノコンサートの打ち上げでだ。終わって、お姉ちゃんたちと、いちゃついていた。別嬪のお姉さんが、「聴いてたら、なんか、悲しくなってきた。音が重くてとっても暗い」と、核心を突かれて、「へへへ」(根暗、鬱病、元自閉症の本質がばれた。本当に、暗い人間は、明るい道化になる。ヘンリ・ミラー。人間のパラドックス)なんて、やっていたら、もうひとりのVVMのメンバー、前回書いたジャンリュックが俺のところへ連れてきた。「イサオ、紹介するよ。ギターのミモザだ。お前とやりたがっている」。

長身で物静かな奴。俺より十歳若い。「あっ、初めまして。へえー、ギターやってんだ」って、聞いたら、穏やかな声で、「はい、まったくのメチャクチャのギターです」って返事をしたので、「ギター独学なんだ」「はい、まったくの自己流で、メチャクチャです」と笑った。ジャンリュックが、「イサオ、凄いギタリストなんだよ、彼は。リールで知らない奴はいない」。確かに、マルトリーのバーで、肩端から声を掛けられていた。「俺のライブハウスに出ない？」って聞いたら、「是非」。中略。ソロギターでってなった。

当日、仰け反った。まず、普段は穏やかなのに、ステージに上り、ほとんど、二秒後には、完全に自分の世界へ。俺もミュージシャンの端くれ。この集中力は半端ではない。俺は、没入するのに十分ぐらいは掛かる。ピアノ弾きながら、後で、なに食おうかな、なんて考えていたり、一曲目、どういう風にエンディングして、二曲目、なににしようか、なんて感じで、指が段々暖まって来て、段々、ガイキチ(キチガイ)指数が高まり、唸り声、立ったり座ったり、この辺から忘我および自己陶醉の世界へ。プロは、自己陶醉はまずいという意見もあるが、キース・ジャレットのファンだから、俺は関知しない。で、このミモザのそれは、凄いの一言。俺の仲間内でダントツ一位だ。このギタ中および忘我度。演奏は、もう、ご想像通り、見事の一言。ソロインプロバイザーの極地だ。ギターの阿部薫だ、本当。暗くはないけど。

この動画の中でも、彼のその一端が少しは出ている。でも、彼は、大変、真面目な奴なので、俺

の世界一へたくそなペットとジャンリュックの詩を良く聴いている。見れば分かる。耳と性格が、大変にいいのだね。まっ、こんなの音楽じゃないというご意見も多々ある。それも、俺は理解できる。たとえば、俺のことを大嫌いだという奴がいても、全然、構わない。こちらも、そいつを大嫌いになればオアイコだ。ねえ、ちょっと、付き合わない。あたし結婚してます。えっ、俺もだけど、オアイコじゃん。ちょっと、違うか、それとは。で、それでも、ミモザは俺にとっては天性のミュージシャンだ。

ところで、あんまり私生活をばらしたくはないのだが、このエリック・ミモザは、リールエレクトロニクス研究所の研究者なのだ。研究、郊外の一軒屋の大工仕事、家事、良き旦那であり、ふたりの娘さんの良きパパであり、ギタ中および……。まあ一、忙しいのなんのって。

おまけに、テナーサクソ。まったくの自己流。これが泣かせる。
ハーモニカ。これは、とてつもなく上手い。でも、自己流。
最近は、歌、自作の詩の朗読。

ジャンリュック・カラメルの舞踏をリールワゼム文化センターへ見に行った。
通常は、現代美術展をする巨大なスペース。カラメルと、もうひとりの女性ダンサー。突然、奥からミモザが野球帽を被り、スケートボードに乗って、凄まじいスピードで出てきた(プロ級)。会場内をぐるぐる回り、ハタと止まり、テナーサクソ。吹き終わると、現代舞踏についての講義を始め、終わるとギター。その間、ふたりのダンサーは、ぎくしゃくと踊っていた。いかした演出だった。

で、初めてミモザに会った時、「メチャクチャ？ そうは言っても、ドレミぐらいは知ってんだろう」と、俺は冗談で言ったつもりだった。彼は、真顔で「知らない」と言った。天才だ、彼は。俺は、密かにフラッシュゴードンと呼んでいる。似ているのだ。

2012.10.08 Mon

俺は、自宅の屋内プールの長椅子に寝そべって、ドライマティーニを飲んでた。俺の趣味で、プール全体をグレーのタイルにしてもらった。椰子の木も植えた。あと、なんだか良く分かんが、所謂、熱帯植物。いい加減な描写。も、植えてもらった。たぶん、写真に撮れば、どこかの熱帯植物園。室温は28℃に設定してある。で、俺の頭上2mに、これも良く分かん大きな葉っぱが、垂れ下がっていた。海パンだけだけど、ちょっと、汗ばむ感じかな。もう一度、書きませんが、俺の身長は182cm。顔、ちょっと、男臭いデビッド・ボウイ。鋼のような体。分かり難いから、はっきり描写すれば、ダニエル・クレイグ。腹筋なんか、ぼこぼこだよ。自分でも、ほれぼれする。(注 これだけ鍛えているのにぎっくり腰って？ じゃかぁーしい！)

俺の右側70cmぐらいのところに、秘書(ということになっている)の直子も寝そべっていた。

なんで、真昼間から秘書がプールの脇で寝そべっているのだ？ 一応、俺は社長なのだが(イサオ裕エンタープライズ)。そんなことはどうでもいい。直子は黒いビキニ姿だ。直子、そうだな、俺の好きな優香ちゃんを、ちょっと、舌足らずにして馬鹿っぽくした感じで、ボディーは、もう、そのなんだ、その、優香ボディーだ。見てくれ、話し方は、前にも書いたが、ちょっと、馬鹿ぼいが、実は、東京の有名女子大の仏文科を主席で卒業して居る。このアンバランスな感じが、なんともいかした女なのだよ。秘書としても、大変に優秀。で、キャサリンとイザベルは、なんかの打ち合わせで出掛けている。ということは、俺の広大な屋敷の中には、俺と直子しかいないのだ。当然、このシュチエーションで男が考えることは、ひとつしかない。俺の海パンの前が、心なしか盛り上がっていたとしても、哺乳類として当然な帰結なのであった。両目はベズリー目になっていたし、顔全体が、ルパン三世だったと思う。

「ねえー、イサオおー、なんか、最近つまんなそおー」

直子が、急にムクッと上半身を斜め四十五度に起き上がり、胸の谷間が眩しい。黒いビキニ越し。裸より、いやぁーらしい。本当。上半身から腹から尻の辺りへの微妙な振れ。贅肉がないから、本当にビッシッと振れている。

「えっ、あっ、まあな。金は有り余っちゃってるし、なんかピアノ弾くのも、なんだか億劫になったし、ブログ書くのも、片っ端からベストセラーだし、女はいねえーし」

その時、直子の目がキラッと光った。

「ナオちゃん、暖めてあげようかぁー？ チュウーしてあげようかぁー？」

直子が俺の方に、ひよっここ唇で、覆い被さってきた。「ちょおーと、待ったぁー！」

「あらっ、カットなの？」

「はい、アクション！」

「うぐぐぐ。お前、本当、可愛いやっちゃあー」と、直子に覆い被さろうか、七秒ぐらい躊躇していたら、遠くからヒールの音。俺の家のサロンは、体育館ぐらいの広さがあるから、横切るのに時間が掛かるのだ。首だけ回して、そっちを見ると、キャサリンだ。「むむ、やばいなあー」と、直子をプールに突き飛ばし、立ち上がり、笑顔。キャサリン。パメラ・アンダーソンを、もう少し可愛らしい感じにした感じ。「ハアーーーーイ、キャサリン」「ありゃ、直子、なにしてんの?」「はははははっ、さっき躓いてね」「なんでビキニなの?」「あっ、暑いから寝間着にしてんだって」。キャサリンの目が、ちょっと、点目だった。

再掲追記

しかし、くだらない記事ですねえー、しみじみ。
こういうのって、オジサン妄想族と名付けよう。ひゃ。

2012.10.08 Mon

シニアーマン

ちょっと、困ったことになった。ばらしてしまっていていいものか？ とはいえ、お読み頂いている方、統計を見ると七人ぐらい(ありがとうございます。深謝)だから、大事にはならないし、秘密を共有して頂くことにする。

三日前の朝。ぬくっと起き上がり、階下のサロンへ。いつも通り、無意識に高血圧のクスリを飲む。台所でコーヒーを入れる。カフェオレを作りサロンの肘掛け椅子へ。ベンソンアンドヘッジスの一本に火を付ける。カフェオレを飲みながら、ゆっくりとタバコを吸う。吸い終わり立ち上がる。二階の風呂場へ。歯を磨こうとして異変に気付く。俺の歯はがたがたのサクラダファミリア。のはずが、磨こうとしたら「芸能人の白い歯。しかも、楕円形に綺麗に並んでいるし、ないはずの奥歯二本があった」。はぁー？

で、なんだか、上半身の貧弱な体の「いつもの感触」、よたつとした、初老の体の感触がない。で、じっと、鏡に映る自分の顔。顔の輪郭が妙にはっきりしている。全体の弛みがなくなっている。顎の筋肉が引き締まっている。いつものルパン三世顔と違う。むむ？

なんか急に目が覚めた。パジャマを耄り取る。鏡に映った上半身。ダニエル・クレイグ。ちょおーーと、待ったあーー。なにが起きたのか分からない。なんとなく、もしや、と思い、寝室の重いベッドに左手を掛けてみた。片手で、重いベッドが、すっと、本当に、すっと、持ち上がった。むむむ、やはり、そうだった。なんか、この年で、今更、ちょっと、リズム崩れるし、ご近所に言えないし、仲間にはばれと拙いし、もう少し、若い時にして欲しかった。俺は、突然、スーパーマンになっていた。たぶん、スーパーの買出しが大好きだったので、そうってしまった。関係ないか。でも、五十三歳で、んなもんになってもなぁー、オイ。でも、なってしまったので、シニアーマンと自分で名付けた。

中略

試しに、ピアノを弾いてみた。困った。いつの間にか、マウリッツィオ・ポルリーニになっている。ストラビンスキーの春の祭典を口笛を吹くように弾いてしまった。これは拙い。味わいのある三流ピアニストを売りにしているのに、これは、拙い。念のため、いつもの曲を、いつものように弾いてみた。大丈夫だった。弾けた。仲間およびファンの方々にばれないように、超絶技巧は小出しにするしかない。少しずつ進歩しているということに。間違いなく、世界最高峰のピアニストになってしまった。これはこれで営業妨害だよって！

ところで、俺のサロンの窓から、フランスガス公社(EDF)のビルが遠くに見える。じっと、目を凝らすと、望遠レンズのように、資料室でいちゃつく男女が見えた。おっわぁー。耳を凝らすと、

息遣いが、間近に聞こえる。やっぱあー。いったん、この能力はカットする。

台所のレースのカーテンの掛かった窓越し(そっ、向こうからは、こっちは見えないの)に、いつも、通り掛るブロンドの別嬪のお姉さん。金色の長い髪。綺麗な足。同じ通りの、ちょっと、先にお住まいの様子。土鍋を拭きながら、じっと目を凝らしてみた。あっ！、衣服の中身(裸)が見えて、あらあーまあーとベズリー目のまま、もっと集中したらレントゲン写真のようになった。ゲッ。これも、衣服の中までという設定に変えた。ただ、あまりに嬉しいので、その設定のまま、通りを歩いてみた。失敗だった。見る対象ごとに設定変更が必要であった。お分かりですか、道行く人々が皆真っ裸。それ以上は書かない。

そして、その日の夜九時頃だった。筒井康隆さんの本(エンガッツィオ司令塔)を読んでいたら、十キロ先ぐらい(距離がなぜか分かる)で、若い女性の悲鳴が聞こえた。夜道で襲われ掛けている様子。俺は、ちょっと迷った。シニアマンとして、世直しを始めてしまうと、なんか、その後の收拾が付かなくなるし、平穏な年金生活が台無しだし、参っちゃったなあーなどと考えていたが、どんどん悲鳴が大きくなってきた。もう駄目だ。正義感と良心が込み上げてきた。筒井さんのご本の影響なのか、どこかからの司令を感じた。「君は、シニアマン」。とはいえ、素性がばれるのも拙い。とっさに、押入れの中の加藤茶の衣装。はげ、頭の真ん中にちょこっと髪。丸メガネ。ちょび髭。腹巻、ステテコ、草履。あのお馴染みの格好。これに素早く着替え、サロンの窓から飛び立った。初めて飛んだ。要領が今一、よく分からない。平泳ぎの格好になった。

夜道に舞い降りる。三人のガキどもが、ナイフをかざして別嬪の姉さんに絡んでいた。

「なんだなんだ、てめえーは？」

「はい、わたすが変なおじさん」違う。「おれけ？ ふふふ、シニアマン、誕生」

「ぎゃははははあー」刺しちゃえ刺しちゃえ、こんな馬鹿と言って、俺は串刺し。

ではなく、三本のナイフは、ソフトクリームのようにビヨヨよおーと折れ曲がった。

ガキどもの腰が抜けていた。俺を見て、小刻みに震えていた。ターミネーター2のメタルリキッドロボの動作を真似て、右手の人差し指を左右に振った。ガキども気絶。マドマゼール、別嬪のお姉さんの住まいを聞いた。俺は、お姉さんを軽々と両腕に抱えると飛んだ。

翌日、地元の新聞に、拙い、でかでかと一面記事。「シニアマン現る」。まずいなあー、おい。モニタージュ写真まで載っている。加藤茶だ。娘さんおよび、娘さんのご両親が、是非、お礼を言いたいので、名乗り出て欲しいと書かれてあった。娘さんは、「結婚したい」とまで、談話で言っている。

俺の住んでいる町は、取り立てて物騒なところではない。治安がいいのだ、この辺は。とはいえ、毎晩、どこかで悲鳴が聞こえる。その度に、俺の正義感が奮い立ち、向かってしまう。ただし、素性がばれるとまずいので、毎回、コスプレよろしく衣装を変えないといけなくなった。変な

おじさん、ひとみ婆さん、たけちゃんマンとか。ゼブラーマンは著作権に引っ掛かりそうだし、スーパーマンの衣装は、ちょっと、この年ではねえー。覆面してないし。バットマンとかも映画会社から訴えられてもねえー。

で、ジャズメン仲間には、この話は内緒だよ。

ご近所には、ぎっくり腰が慢性化したことにしてある。

ばれるとまずいし、大体、マスコミが、なんでシニアーマンは、ooo市以外には出現しないのだ、他の町はどうでもいいのか、パリの犯罪をどうしてくれるのだ、なんだかんだと騒ぎ始めた。まずいのだよ、俺のピアノはどうなるのだよ、シニアーマンに専任。そうもいかない

よおー、だって、無料だよ。悪いけど。そんなこと、俺の口から言えるか。

そんなせこいヒーロー、いらんわって。

つづく

2012.10.09 Tue

コッシー君のその後

今回、後で、俺の演奏法について書く。一応、ジャズエッセイ(追記 この時点での紹介文が、動画連動ジャズエッセイ)と書いてあるし、俺の動画の再生回数も1600回(現在は、6000回！ えっへん！)に近付いているので。ご興味ある方も、世界に三人ぐらいいらっしゃるかも知れない。読者様が一人でもいる限り、わたくしは書く。アルピニストみたいだ。大体、フリージャズのコンサート。お客さんよりミュージシャンの数の方が多いとか、客席に座っている方々が、すべて、お店の従業員だったとか、マスターだけが会場にいたとか、こんなことは日常茶飯事。めげないね、俺は。

その前に、コッシー君。先週の金曜日にお医者さんへ、びっこを引きながら行った。骨関係のトラブルではなく、腰の筋肉の引き攣りと診断。なんか良く分からんが、筋肉をリラックスさせる薬というのを飲み始めたら、なあなんと、三日で腰の痛みがなくなった。早く行けば良かったよ。二週間、人生を無駄にしてしまった、なんてな訳ではなくて、ブログ執筆狂に専念。文章の感触が十年の空白(追記 小説断筆後、ふてくされて私信メール以外は一切書かなかっただ)を経て戻ってきたし、文体が設定された。この文体設定こそ、物を書く第一歩なのだ。文体に人あり。でも、たとえば、このブログのタイトルが「フランス物語」とか、「文学的フランス」とか、「憂愁の世界」「セーヌの辺で」「カフェオレとクロワッサン」とかだったら、この文体にはならないよね。ジャズ屋のエッセイってことになっているから、ちょっと、スイングせんと。ねえ。

で、腰の痛みがなくなって、平和が訪れたのかといえ、そうではなく、文字通り痛み分けなのだ。今度は、左足が引き攣り、痛くて歩けない。おまけに、持病の背骨神経痛様がちらちらと出番待ち。なんか、フリージャズのミュージシャンみたいで、俺が俺がと出番を待っているのだ。二週間は、御腰様のソロということで、皆、やはり、体の中枢ということで、遠慮しとったのだ。このバンマス(バンドマスター)の演奏が終了と思いきや、御左足様、御背骨様とか、諸々のご演奏が始まる。体全体が、フリージャズだよおー。御歯様は、もう、着々とその名声を勝ち得ている。マトモなのは、目だけかも。老眼鏡いらんのだよ、俺は(自慢げな追記 えー、それとね、コレステロールゼロ人間なのだよ。メタボの真逆。毎日のアルコール消毒の賜物である)。

それで、そんなことはいいとして、俺の演奏法。

絶対に、その道のプロの方からは、「戯け者っ！」と言われるのは承知。

1)まず、タモリさんの「白鍵だけのチック・コリア」。これは、ギャグとかパロディーということになっているが、実は、急所を突いているのだ。単純に、白鍵だけの調性は、皆さんご存知の通りCMとAmだ。他にもいくつかあるんだけど、ジャズ屋が多様するのがDorian(6音目が半音上

がる)。D Dorianも、すべて、白鍵盤。マイルスが初めてジャズに取り入れたと思うけれど、モード奏法と呼ばれている。D Dorianの曲が、確かに多いのだ。ソーワット、コルトレーンのインプレッションズ、処女航海とか。とはいえ、ジャズ屋はブルーノートを多用する。で、和音の構成は、1 3 4 5 6 7 9 11 13とこの辺りで組み合わせる。1はルート。3は、メジャーマイナーの判別音だから、いじれないが、5 7 9 11、この辺りを半音下げる。たとえば、D Dorianのそれを下げると黒鍵盤になる。で、また、元の調性に戻ると白鍵盤になる。ジャズは、なぜか、下がる。上がることはあまりない。キースは別だけど。まあ、根暗なのだね。で、俺だけではないが、黒鍵からスライドしながら、半音ずつ降りてくる(追記 昨日、自分の演奏分析したら、結構、上がるのも多い。根明なのかも)。このテクを良く使う。このスライド奏法は、黒鍵から白鍵への時しかピアノではできない。逆は構造的にできない。いや、無理すればできるが、スピードとスイング感がなくなってしまう。結論とすると、黒鍵の多い調性は、ピアノ(ジャズ)では弾き難い。でも、モンクは逆をやったけど。

2)やはり、リズム、スピード、ノリ。これが、当然、基調になる。そして、聴くと分かる通り、sus4を良く使う。四度和音でおしゃれなんだね、音がね。押さえ易いし。後、前に書いたルートレスの7th code。半音階。色を付けるのに、m-5とデミニッシュを入れる。基本、これは、左ですべて行い。右は、「下手隠しの煙幕早弾き」でやる。上手そうに見えるし、聴こえる。

3)俺には絶対音感はないから、メロディー楽器とはあまりやらない。パーカッション、ドラムス。このケースは、テンションコードをパーカッシブに弾いて、みつつぐらいをなんども繰り返しているうちに、お猿さん状態になり、舞い上がる。これも良くやる。

まだまだ書けるけど、ピアノ弾かない人には、つまんねえーよな、こんなの。

それに、レパトリー、僕は1千曲ございますなんていうピアノの人が読んだら、串刺しだよな。マジで、怒られるだろう。

ところで、絶対音感ある人って、

ブーって、おなら聞くと、今のはSolbとか、小鳥様の会話なんかも、ミミレレファ#とか、お姉さんと、ちゅ、なんてのも、E#、つまり異形同音のFだわ、なんてなるのかしら。

うっとうしいねえー。で、お姉さんと、なんやら、もっと、核心的行為的動作中の時も、レソドで、今、レファソドのsus4で、なんて聞こえちゃうんだ。うぜっ！

再掲追記

最後まで、お読み頂いた方、謹んでお辞儀です。お疲れ様でした。この記事、長いし、結構、専門的ではあるけれど、今、読み返してみて、この「俺の演奏法」についての記述、これって「僕は基礎のないド下手ピアニストです」と告白しているのに等しい。一年半ぐらい経った現在、ブロックコード(たとえば、六つ、七つの音を同時に押さえる技法)を多用するので、どの調性でも

構わない。結構、知らぬ間に、相当、進歩していることが分かった。削除も考えたけれど、これからジャズを始めようという方には、多少、お役に立つかも知れないので、そのままとする。この「筆トーク」は、私の動画と連動しているブログなので、音楽物が多い。しかも、このブログを完結させて、ブログは以上お仕舞いと考えていたので、気合が入っている。今、確認したら、この記事から八日後にあとがきを書いている。もうしばらく、「筆トーク」、お付き合い下さいませ。過去記事のご愛読、深謝致します。ここ近々の一日のアクセス、4。もう、粗品(裕イサオ直筆掛け軸 たらちねの かわずとびこむ みとこんどりあ こんなもん、だれがいるかってよ！

わぁー、すべてのコレステロールは脳内だった！)進呈は必至。紋付き袴正座して再度のお辞儀です。

2012.10.10 Wed

2と3が逆になってしまった。

この動画、久しぶりに見返してみた。ほとんど、俺が映っていない。ジャンリュックとミモザ「だけ」の方が、絵になっている。俺は、チビ助でもないし、そんなに不細工でもないが、この二人185cmに挟まれると、どうしてもチビの六頭身に見えてしまう。どっちにしても、近藤等則さんみたいに演奏プラスルックスでは売り込みようがないから、仕方ねえー。後で書くが、近藤さんと坂田明さんに嵌っている。フリーの人なのに、なんか、明るい。これが気に入っている。

この動画の見所。ふふふ、実はですね、わたくしのリコーダー。これは仲間内で有名なのだ。ピアノより良いなんて。じゃかあーしい！世界最高峰のジャズリコーダー奏者との噂もあるぐら이다。リコーダーのエリック・ドルフィーとか。ふふふ。小学校の頃に習った記憶はある。たんたんたぬきのたまきんとか、象さん、お鼻の下が長いよね、なんか吹けたはず。今となっては脳みそ初期化でドがどこだったのかも忘れてしまった。確か全部押さえるとドでしたっけ？しかし、天才リコーダー奏者。だから、利口だー(オジギャク)。たまにはオジサンの自然体をやりたい。

考えてみたら、ジャズ屋でリコーダー吹いたのは、確か、阿部薫しかいない気がするから(聴いたことないけど、演奏は)、少なくともランキング、最低でも二位だ。世界で二位。半端じゃない。とりあえず、リコーダーを横に銜えて、なんとなく、日本の夏祭りの竹笛風に吹いてみると、なんとなく、エリック・ドルフィーになる。ただ、これだけ。ステージではやらないから、本邦初公開の最終公開だ。

それから、俺のカカ(うんち)ペットのファンの方々。長らくのご愛顧、誠にありがとうございました。本動画にて、営業終了とさせていただきます。因みに、199euro中国製スタッグのポケットトランペットを使用して居りました。一番、安いので十分ということで。マルトリーのコンサートで、トイレいく際に、ちょっと、ジャンリュック、これ持っててと渡し、戻ってきて受け取ろうとしたら、おっことされて、朝顔がぐにゃー。トンカチで修理という歴史物。そんなことは、どうでもいいか。ファンの方々(いるのですよ、マジで)、営業終了の原因は、わたくしの唇ではなく、唇は健在ですが、その裏側にある、口腔の中にあるもの。これが、前回書いた通り、サクラダファミリア。修理をしているのか建設しているのか、どちらか分からない状態。砂上の楼閣とも言う。家にいるより、歯医者さんに行っている時間の方が長いかも知れないというぐら이다。Soイレバーになる日も、そんな遠くないだろう。女の子たちには、「マウスピース」っていうし、ないしは、「入れ歯の形をしたカスタネット」と誤魔化すから大丈夫。で、ペットは、もう吹けない体だ。酒、タバコは止めんが、ペットはすぐ止めてしまう。意思が強いのだよ、俺は。嘘。

元々、沖至師匠に、「イサオもペットやれっ!」「他の楽器の奴が、なにやっているのか理解できる」というお達しの元に始めた。一時期嵌った。リールのシャンドマルス公園(パリのと同名)の林の中で、マジな練習をしたのだ。何曲かスタンダード曲が吹けたのだよ、一応。

やはり、ペットに歯は代えられないので止めるしかない。

昨晚、近藤等則「山頭火を吹く」という動画を見た。エレクトリックトランペット。目がうるうるしてきた。また、昔から格好良かったけど、近藤さんの格好いいこと。モテモテだろうなあー。

ジャズ屋、あまりハンサム系はいないんだけど、前にも楽器別タイプの時に書いた通り、トランペットにはハンサムがいるのだ。近藤さんのペットは、昔から「すばしりおとし」として有名だった。ハイノートから、凄まじい勢いで低音部へ。それから、IMAのライブを聴いた。俺はリズムミックな音楽、大好きだから、こちらも、大変に良かった。俺も歌手デビューしてみっかあーと、二秒ぐらい考えた(ド音痴なので無理だ)。それから、どっかの山の中でペット吹いているやつ。目がうるうるした。「なんか、ファンの前で吹いたりするの、俺、あまり好きじゃないから、一人で吹いたよ」なんて、おっしゃっていた。凄い人だ。で、こういう先輩の存在は、やはり、正直、励みになる。

その後、坂田さんのCMを見た。

ミジンコの観察を四畳半みたいな感じの部屋でやっていた。これも、うるうるしたし、この二人の先輩。陰気なところがなくて、大変、俺は、尊敬している。

2012.10.10 Wed

シニアーマン2

で、俺のみつひじゃない、秘密を書いてしまった。七人ぐらいの読者の方々(本当に、ありがとうございます)と、みつひを分け合ってしまった。特権的読者。だって、この小説「シニアーマン」は、晋作じゃない、十年ぶりの新作。しかも、このブログにしか執筆していない。執筆狂、復活！ 謹んで、御礼申し上げます。

で、前からスーパーマンの映画を見て、気になっていたことがある。列記する。

1)うんこはするのか

当然、おしっこも

2)酒、タバコをやると、どうなるのか

3)食欲、味覚、そして、最大の疑問、性欲はあるのか

4)どういう風に年をとるのか

で、寿命はあるのか

お答え致します。自分が、そうなってしまったから、すべての疑問が解けた。

読者の方々の中にも、俺と同じ「素朴な疑問」を、お持ちの方、えっ？ いない？

まあ、いいや。俺って、やはり、馬鹿なんだろうか？

1)しない

なんか、体のシステムがマグマ大使になっている

2)残念ながら、なにも感じないけど、仲間にはされると拙いので、やっている

しぶしぶ酒飲んで、タバコを吸っている

全身、これマグマだから、酒なんてなんの効果もないし、ニコチンも同じ

3)これは、なぜか、ある。でも、食べないと衰弱するとか、そうではなくて、

たぶん、シニアーマンに、五十三年も経ってなった。元の味覚が残っているのだろう

うな重食いたいいー、天そば、セブンイレブンのとんかつ弁当とか、で、味覚も残った

ちょっと、ここだけ、セーフだった

ありゃ、もう一つ。性欲。これも、上記理由により、ある。ギラギラと。逆に、衰え掛けていた、それが、復活している。はっはっはあ。でもなあー、俺が、なに、ちゅーとやってしまう

と、お姉さんたち、一週間ぐらい、「寝たきり」。入院したやつもいる

とりわけ、あっ、拙いかな？ 水晶棒、興奮が、ちょっと、普通ではなく、
おわあー、拙い、これ異常は

4)ちょっと、内々で調べたら、人間の普通の寿命と同じ、らしい

安心した。嫌だよ、不死なんて。分かります？

はい、これについては、ランハイダー(ハイランダー)シリーズでね。おもしろいよおー

ところで、どうも、俺はいい人らしく、俺の耳がトラブル受信すると、最近、ぱっと着替えて、サロンの窓から飛び立ってしまう。飛ぶ要領も、少し、分かってきた。平泳ぎから背泳ぎへ。なんで、逆さで飛んでいるのか、自分でも分からない。まっ、水泳、独学で、二十三の時に、覚えたのだよ、俺は。それまで、俺は、打ち出の小槌だったのだ。その内、もう少し、格好良く、飛べる。はずだ。

最近、なんか、いろんなデザイナーが、屋上に置いとくから、是非是非、着て下さいね、なんて、テレビで言っとる。そりゃー、まあ、モデル代が入ればね、それはそれで。でも、素性がばれる。それは、拙いのだよ。本当。

2012.10.10 Wed

リール仲間 デュオ

この動画、クリスチャン・バツサールとのデュオ3。コメントに、ミュージシャンを大雑把に分けると、自己中系と繊細系に分かれると書いた。その前に、なんでこれだけブルー映像で、右に帯なの？ どうでもいいか、そんなこと。でも書く。まず、外は豪雨で、映像が暗い。我々は、明るいシニアマン。で、最後の頃に、クリスチャンの息子が、「あっ、また、イサオだっ」と、ぬうーとサロンに入ってきた。シニアマン二人、昇り掛ける寸前だった。ありや、まっ、いいかと続けてエンディング。「息子、入っちゃったよ」「いいんじゃない、別に」「でも、あんま、私生活出んのもねえー」と、俺の独断でカットした。

で、考えたらフリージャズ屋は、ほとんど全員、自己中系だ。だから、逆にフリージャズなんだろう。算数上は、そうなる。皆が、勝手なことをほざく。皆、一国の主ないし村長。俺が一番。これがないと、逆に出来ないのだろうね。とはいえ、前にも書いたが、ほざきながら聴いている。やはり、確実に会話しているところがある。なんか、本当に洋輔(山下)さんのエッセイに文体も内容も似ている。ピアノの音体も、レベルの差を差し置くと、やはり、似ているから、やはり、似ているのだろう。二番煎じ。まあ一、いいかね。それはそれで。

で、この繊細系。俺自身、意味がよく分からない。ジャズ屋でもフリー系でない人は、たぶん、ほとんどがこちらだろうし、クラシックの方は基本、ハーモニーとかアンサンブルとか自己中では出来ない。となると、このフリージャズ屋が、もっとも、「性質(たち)が悪い」ということになる。

もしかすると、音楽家は、皆、繊細。ただし、フリージャズ屋だけが、自己中。どきっ。そうになると、性格が悪いとかテクがないとか、ただし、大物ぶりたいとか、以前に書いた「弊害」の巣窟がフリージャズ。本当に、そうなのかも知れない。そういえば、あまり、人格者とか立派な方とか、いない。そして、敢えて書いてしまう。誤解されると困るのですが、逆に、俺が一番好きなところなの、ここが。で、ジャズ、とりわけ、フリージャズ。マイナーなのだ。イカしてるんだよ、ここがね。だから、恰幅のいい、お金持ちなんて、いる訳がない。人格者もいない。どこか性格が悪いんだ、皆。

あっ、それで、

デュオ1と2は、ええー！　と言われそうだが、俺なりに遠慮しているのだ。出来る限り、彼のギターの邪魔しないようにと。で、3は、やはり、ちびちび二人でビールを飲んでいたせいもあるのだろう。この遠慮とか謙虚とかに自分で段々疲れてきて、要は、少しずつ本性(悪い性格)が現われ始め(弊害の巣窟化が始まり)、「クリスチャン、ちょい待ち。次は、勝手にやるので、よろしく」。ジャズの土俵に無理やり上げてしまう。で、彼が、参るのか。超プロだ。

ひよーひよーとデュオっている。流石である。

このデュオは、デタラメじゃあ——とご批判系の方に、なにをご説明しても、猫に小判、馬耳東風なので、ノーコメントであるが、うう——む、いいんじゃない系の方が聴くと、意外と両者のバランスおよびジャズ系とクラシック系が、あまり激突せずに融合している感じは分かると思う。

本当は、弾く前に、「クリスチャン、いつも、俺のガチャガチャネアンデルタルクロマニオン野蛮ピアノのお付き合いも大変だから、なんか、調性のある曲やるっ？」と、一応、この著名なクラシックギタリストに聞いたのだ。「んなもん(調性)いらんよおー。好きにやろうおー」きっぱり。俺の偏見なのだろうか、クラシックギタリストは、普通は、こういう返事をしないと思うのだが。

2012.10.10 Wed

やはり、こんなものになるのではなかった。と言っても、俺の意思ではなかったもので、仕方がない。単にスーパーマーケットへの出入りが多いということで、俺が選ばれたとしか思えない。俺の近所のスーパーが、その世界への入り口だったのだ。単なるオジギャグで、スーパーマン、はい、その心は、スーパーの従業員。なんて言って、自分だけで受けていたという、イノセントシニアだったのに。

やはり、色々と生活のリズムが変わってしまった。大体、睡眠、食事、排泄etcetcと、半世紀以上、普通にやってきたことが、無効になってしまった。かろうじて、食欲、味覚、性欲は残ったが、前者は、生命維持のために必要といった生物学的な必要性からではなく、単なる習慣として残っただけだ。ぎょ、欲望自体は、性欲しか残らなかったのだあー。

大体、フリージャズピアニスト(53歳)。こんなおっさんが、今更、スーパーマン化したところで、何の利便性もない。まあ、急いでいる時は、飛んでしまえばいいとか(不慣れとはいえ、パリまでの35km、ゆっくり飛んで十五分)、ピアノの後ろに掃除機を掛けたい、別に片手で持ち上げれば済む。庭の芝刈り。これは趣味だからいいのだが、壁の縁の部分の芝刈りは、中腰、挟みでしんどかったが、今は、十五秒もあれば十分。半日仕事だったのだよ。おっ、結構、役に立ってんじゃん。そうだな、一応はメリットも多々あるのだな。人間、自分勝手に、デメリットばかり抽出して、しくしく文句を言う。でもなあー、生活の基本的なリズムと一日の過ごし方。おっさんらしい、ジャズピアニストらしい、この時間の使い方があるでしょって！

たとえば、朝ね、昆布茶を飲んだ後に、盆栽への水遣り、剪定とか。こういうオジサンらしい、ゆったりした時間があるでしょって。これだって、なんぼ、ゆっくりやろうとしたって、ほんの二十秒で終わってしまうのだよ。体のスピードがまったく普通の人と違うのだよ。幸い、ピアノは長年の習慣が残っているから、問題がなかった。助かったよ。

でも、ここがね一番痛い。「練習の必要がなくなった」。だって、世界最高峰のピアニストに、すでに、なっている。隠して小出しにという逆噴射しかないのだ。「日々のささやかな進歩」「ささやかな自負と満足」「三文ピアニストの、だからこそ、そこがご利益」「人間、いくつになっても勉強」「余暇の過ごし方」「定年後の暮らし」「シニアの生活」「ゆとりと音楽」「シニアから始めるバイエル」「果樹の育て方」「シニアの料理。そば打ち編」んなもんが、すべて、削除だよ。つまらんこと、甚だしい。たぶん、マウリッツィオ・ポルリーニさんが、ふと、夕日を見ながら、同じようなことを考えたりするんだろうが、俺レベルのピアノ屋は、そんな憂いなんぞ、いらなかったのにいー。泣き泣き、家泣き子だ。

クドイが、俺の基本要素は、ピアノ、料理、庭仕事と酒、タバコ。お分かりの通り、すべての要

素が、ほぼ、ちゃらだ。年相応に、衰え掛けていた性欲。男は、これが衰えると丸くなるし、第一、本人自身が楽だ。高校生の時みたいに、バスのつり革につかまっているだけで、股間がぱんぱんになったり、歩き難いのだよな、町で見かけたお姉さんのタイトスカートのお尻のラインを思い出して、夜な夜な、「あーいあい、お猿あーるさあーーんだよーー」とか、こいつによる弊害も多い。しまいには、ひとりの女を巡って「戦う」のだ、男の子は。で、なくなっちゃうと、楽だよ。大体、ピア中は、前にも書いたが、ヤマハグランドピアノGLXと全裸の別嬪の姉ちゃん。絶対に、ピアノに飛び付く。姉ちゃんには悪いけどな。ピアノは、文句言わない。もう、こっちの思い通りだ。などと言って居るが、一体化、合体ロボ状態になると、ボバリー婦人じゃないけど、ピアノは私だ。ピアノに弾かれている気がする時が、たまに、ある。愛し合っているのだわ、私たち。

大体、高校生のガキは、大の字になって寝ないのだ。木の字だって(小さい声で、だから、これだけ、戻っちゃったの、今更)。そんなことは、どうでもいい。問題は、この夜な夜な、世直しで出勤する時の衣装だ。先輩方、スーパーマン、バッドマン、スパイダーマン。と特定化の方向も検討して居るが、毎回違うというのも、ちょっと、捨てがたい。しかも、庶民の代表みたいな感じで行きたいのだよ、俺は。バッドマンは、金持ちだから、色々と小道具がいて、金が掛かり過ぎる。ホンダシビックハッチバック1997に、やはり、そぐう衣装というものがある訳だ。今のところ、やはり、気に入っているのは、ひとみ婆さん。着物は動き難いから、もんぺ版。で、多少、要領を得ない飛び方も、これだと、ご愛嬌になる。

相変わらず、談志師匠みたいに、前口上が長いが、要は、一日が長過ぎるのだよ、スーパーマンには。だから、世直しで、あっちこっち飛び回らんと、一日が長い。休憩もいらないから、誠に長い。ただね、こっちも生活があるから、ピアノを止める訳にはいかない。では、消防署員になるってのはどう？ でもな、フランス、勤務時間とかうるさいし、残業しないから、俺とすれば、弊害も出る。「えっ、遠くで叫び声？ 五時五分前ですから、今、出勤すると勤務超過ですが？ シェフ」とかなってしまうな。「いやあー、私だって、家庭が第一です」。だったら、スーパーマンだなんて名乗るな、馬鹿、となる。それじゃ、いっそのことホランド大統領に頼んで、国家保安員とかにしてもらおうかしらね。大統領と同じぐらいの給料もらえるかも。衣装代なんかも。いやいや、仰々しいし、庶民生活が台無しだ。ピアノもちゃらになるよなあー。やはり、初期のゼブラーマンぐらいが、いい感じ(ローラ)。

ところで、新聞見てたら、「ミドルウーマン、現る」。

なんだなんだ、どうも、四十前後のおば様。写真見たら、ちょっと、シックなワンダーウーマン。格好のいいのなんの。すげえー、プロポーションだっ。なにもの？

つづく

2012.10.12 Fri

あんたとどここさ

俺の郷里では、「あんたがたどここさ」だった。なんか、童謡について調べると、なんだか、印象だけど、全部、熊本がベースになっている。たぶん、識者の方に聞けば、その理由は分かるのだろう。一度、熊本に行って、その風景を見れば、多分、何かが、分かるかも知れない。それは、後の楽しみに取って置きますね。近藤等則さんみたいに、日本を旅するかも知れない。

なんか、俺が美術やっている頃、若かったせいだけではなく、「東洋と西洋」「日本と世界」「東でも西でもない国々」。こんな事を、一杯考えた。中略。今は、悪いけど、どうでも良くなった。

で、今、この年で、三分の二をフランスで過ごした日本人。

郷愁があるのか、と聞かれると、本当に、申し訳ないぐらい、ない。

前回、書いた仕事中毒、会社依存症候群の国、母国だけれど、未練はない。

でも、分からない。俺は、日本の風景。食べ物に関しては、絶句するぐらい日本食しか、今以て駄目だし、日本人なんて仰々しい表現は出来ないぐらい、日本の仲間達が愛おしい。なんでなのだろう。個々人は、大好きなのに、国という単位になると、大嫌いだ。

日本という俺の母国は、世界化(グローバルイゼーション)から、俺個人の意見では、確実に、取り残された。洋輔さん、近藤さん、坂田さん。いち早く気づき、どんどん世界化した先輩達は、数は少ないけれどいることはいる。ただし、国レベルでは、取り残されてしまった。まず、韓国のパワーは計り知れないし、中国に至っては、勝負にならない。

誤解されると困るので、きちんと書くが、個人の力量の話ではなくて、「世界の中の国力」という意味で書いています。日本の文化力は、世界最先端を行っている。物作り、テクノロジー、これも、世界一だ。国力？ 分からない、極論すると「政治力」なのではないかと推測している。これは、先進国の中で、最低だ。世界第三位の大国が、国際的な発言力が、最低レベル。この歪みから、たぶん、衰退が始まっている。

もっと分かり易く書くと、

日本の箱庭力は、絶対に、世界一位。フランスは、たぶん、知らんが、二十位とかだろう。

街作り、街並み力。これは、フランスは、たぶん、世界一位ないし二位だろう。日本は、三桁代。この街作り、これは、政治力だ。個人の自由とかとは、別レベル。フランスは、大した国だ。個人と政治をきっちり、論理化している。

本当に「上から目線」、申し訳ないです。でも、敢えて書きます。

日本は、「個人力」で「世界と勝負」。たぶん、これしかないような気がしている。国ベースでは、無理だろう。今更、鎖国をしるなんていうのは、小説的には面白いが、日本の江戸時代の爛熟振りは、とんでもなく素晴らしい。享樂的で明るい。そして、今、逆に、「開かれた鎖国」化している。

大体、お笑い芸人のご意見ご拝聴(たけしさん、すみません、尊敬してます)。フリージャズ屋の、ご意見ご拝聴。

こんなクダラナイ、最低の人間、くずな連中の、意見を「ご拝聴」。これが、そもそもの間違いだ。はっきり、じゃかあーしいって言わないと。

あれっ、すみません、最後まで、読んじゃったの？

でも、この動画の演奏に、上のぐだぐたは何も入っていない。俺の好きな曲、以上。

2012.10.12 Fri

So What

マイルス デイビスの代表作。この曲は、アコースティックピアノでも良く弾く。D Dorianの代表曲でもあるだろう。Dとドミナントの代理Eb。ただ、モードでは、ドミナントモーションは、基本的に無効になる。まあ、いいか、そんなことは。

このタイトル。日本語に訳すと「だから？」とか「だから、なに？」とか「だからなんなんだ」とか、こんな感じ。マイルスの不敵なイメージにばっちりだ。ベースソロから入るあたりも、本当にいかしている。ビル エバンスのピアノソロパートも、もう、くらくらする。

と、ジャズの名曲をへぼなりに編曲して、とか考えたら、シンセサイザーになった。中盤からのノリは悪くはないと思っています。へぼでノリなし、これがジャズのランキング、いも、さば、ジキコ(乞食)、サラリーマン。これがへぼランキング用語。これでいくと、カテゴリー「サラリーマン」となり、最悪。どうして、こういうランキングなのかは、山下洋輔さんのエッセイをご参照。で、そのサラリーマンの方々へなんの他意もなく、逆恨みというやつ。「ちょっと、イサオ、サラリーマン、やった方がいいんじゃないの」。もし、バンド仲間から、この発言。ジャズ屋にとっては、「致命的」を意味する。だから、逆恨み的ジャズメン用語なので、誤解なきよう。皆、拗ねてんだよ、金ないから。安定した生活に憧れている訳です。

「マイルス」

ジャズの帝王。強面。なんか、ちょっと、簡単にサインなんかお願いできない。というイメージは、確かにあるけど、俺にはセシル テイラーみたいな「あくの強さ」は感じない。非常に、ニュートラルでグローバルゼーションした、やはり、「音楽家」だったと思う。たぶん、俺の見地は、当たっていると思います。音に出ている。まっ、小柄でハンサムだった。会った事はないけど、ちょっと、お笑いの要素は入れ難いタイプ。ダンディー。俺の師匠の沖至もそうだ。三枚目になり難い。

今回は、ひとみ婆さんは、ちょっと、一休みで、だから、二枚目ブログにする。

「黒髪の女、パリ」

その日、俺は、レアールの著名なジャズクラブOOOに出演していた。久しぶりのクラブの仕事だった。俺の秘書の直子に、大ステージばかりも味気ないから、昔の馴染みのクラブに連絡させたのだ。もちろん、先方の返事はウイに決まっていた。入場料は跳ね上がり、クラブの新記録を更新したらしい。俺には、そんなことは、どうでもいい。

七十席のクラブはぎしぎしだった。立ち見でもというお客が、クラブの外にならんでいたらしい

。これに関しては、申し訳ないの一言だ。

一セット目を終わった。もう慣れっこになってしまった拍手。スタンディングオベーション。俺は、観客に軽く手を振り、「メルシー」と言った。喉が乾いていた。なんとなく、シャブリの白を飲みたかった。楽屋に籠るのも味気ないと思い、俺は、カウンターへ向かった。拙かった。女たちが、蠅のように集ってきたが、ガードマンにブロックしてもらった。バーマンに、頼む。俺の左側の止まり木。黒いローブを着た黒髪の女がいた。ちょっと、微笑していたが、直接、声は掛けてこなかった。なんとなく、好感を持った。節度はいる。スペイン系かなと、ちょっと、俺は思ったが、女に不自由はしていないし、面倒はごめんだなと。俺は、白を一杯口に含み、ベンソンアンドヘッジスのタバコに火を付けた(注 室内は禁煙です。ノンフィクション)。

女の熱い視線を左頬に感じた。知らん顔をしているのも、有名人気取りで嫌だなと思ったので、「ボンソワー」と一言。「とっても、素敵だった」「ありがとう」。ほんの少し、やり取りをした。俺は、シャブリを二杯飲んだ。楽屋の入り口で、直子が二セット目を始めると合図をしてきた。その時、一瞬、黒髪の女の全体を見た。胸が盛り上がり、腰の括れ、尻へのライン。肉感的な腿から、細い足首へのライン。いかしてるな、こいつのために弾こうと、ステージに上った。なんか、久しぶりに、大ステージと違い、観客が間近にいる。しかも、飛び切りのいい女が。俺は、本当に久しぶりに、ひとりの女のためにピアノを弾いた。新鮮だった。俺は消耗していたのだ。この感触こそ、ジャズの本質なのだと弾きながら思った。

二セット目が終わった。俺は、アンコールには答えない。観客も良く知っている。真っ直ぐ、楽屋に向かう。女どもが、また、屯してきた。ガードマンに、ちょっと、ウインクして楽屋に消えた。ほんのちょっと、止まり木の女を見た。彼女は、そこにいた。静かに。

直子が、なんとなく不機嫌だった。バーマンに、シャンパンとシャブリを一本ずつ、楽屋に持ってきてもらった。「直子、ありがとう。楽しかったよ、本当」「疲れたろ、お前も、いいよ、先に帰って」。ずっと、不機嫌だった。でも、俺は、なんとなく、久しぶりにパリの夜景でもと思い、諸々の諸手続きは、後でいいからと、直子を楽屋裏から、先に帰した。

マスターへ礼を言い、ホールに戻ろうとした。

止まり木に、女が座っていた。

俺は、横に掛けた。マスターが少し笑った。「裕さん、お疲れ」「あぁー、ありがとう」

「なにか、飲む?」「マティーニ」「マスター、お願い」「裕さんは?」「あっ、俺、今晚は、ずっと、シャブリだよ」「乾杯」「ありがとう、来てくれて」「うーん、素敵だった」「ありがとう」「イサオって、呼んでいい?」「もちろん」「ごめんなさい、怒らないで」「なにを?」

「あたし、ずっと、ファンだった。けど、今日みたいな演奏を聴きたかったの。それだけ。ごめんなさい、生意気言って」「うーん、俺がなぜか、一番知ってるよ。名前は」「ジェニファー」「余計なこと聞いていい?」「どうぞ」「スペイン系?」「えー、父が」「やっぱり。綺麗だよ」「ありがとう」。

「マスター、メルシー。諸々は、直子と清算しといて、この飲み代もね」俺は立ち上がった。ジェニファーも。外に出た。夜風が気持ちいい。俺は、「じゃ」と言ってレアールのパーキングに向かった。二十メートルぐらい歩いて、なんとなく、振り返った。ジェニファーが、ぽつんと、そのまま立っていた。時計の針は、午前0時を過ぎていた。俺は、そのまま立ち止まる。ジェニファーが、泣きそうな顔で走ってきた。愛おしいと、俺は思った。

2012.10.13 Sat

今、気が付いた。アナログおやじから脱出して、ブログの執筆を始めたのが、丁度、一ヶ月前。パソコン音痴には、これを始めること自体が難儀だった。まず、始める意思があるし、操作を把握しないとイケないし、大体、本質的な問題が先にある。五十三歳のフリージャズピアニスト。パリの郊外に住んでいる。なんとなく、セールスポイントは、フランスに住んでいる。これは、住んでいない人には、多少の興味の対象になるかもしれない、という程度で、単なる、シニアプータローだ。

書き始めて、二週間ぐらいかな、なんか、ランキングのサイトがある云々。多少は、読者が増えるかしらという下心と、「他のブログを発見出来るだろう」、こっちの興味の方が大きかった。登録してみたら、順位のご近所に、面白いブログを発見した。読んでみた。俺より、遥か彼方ぐらい若い女の子のブログ。絵柄が非常に見難い。テンプレートの色と同色の文字。俺は、美術家だったから、読むという目的上は、色彩的には、非常に読み難い。字がシニアには小さ過ぎる。

右側の諸々の意味が分からない(IT用語)。それ以上に、使われている単語自体が分からない。若者言葉で調べてみたら、あー、そういうことか、と。若者言葉については、後で書くが、この諸々の要素(難儀)があるにも関わらず、「核心的な何か」を感じた。これは何かある。

趣味的なブログ。当然、俺も、それ以上のものはない。なんとなく、自分の精神バランスを取るのに、自問自答している、そんな感じ。自分の位置を自分で確認するために、書いている。そんな感じだ。でも、このブログは違った。インターネットという無機質なネットワークの中に、急に、生の叫び声が入り込んできた。ジャズ屋には、新鮮だった。音として入ってきた。

稚拙な音だった。技術はない。でも、何かに触れようとしている真面目さ。音のバラつき。自分の音体には、なっていない。それでも、何かに向かって、下向いて、泣いたり笑ったりしながら、懸命に走っている。幼稚な比喻で申し訳ないが、仲里依紗のなんかのコマーシャル、鉄橋の上を走っている姿と重なった。この懸命さが、ジャズ屋の音神経に刺さってきた。世代を超えたこういうリンクがあることは、もちろん、ジャズ屋は知っている。年取ると、どんどん、こういう懸命さが消耗して行く。だから、楽になる。当然だ。体が付いていかない。でも、今、懸命に走っているやつがいる。おっさんは、細目で応援するしかない。だから、何度か、コメントを年甲斐もなく送った。確実に、次のステップに向かい始めている。がんばれな。

諸々の若者言葉をネットで調べていたら、「不愉快な若者言葉」というサイトが出てきた。俺には、分からない。どうして、不愉快なのか。若い体のリズム感を良く表していると思う。単語が極端にはしょられているケースと、逆に、わざと長くなっているケース。大雑把にみると、そ

んな感じ。ジャズに良く似ている。

白人が、黒人のブルースを聞いた。「間違っただけ」だらけだ。これが、最初の印象だ。でも、聴いている内に、何か、どこか、ソウルに触れる、何かを感じ始めた。この「間違っただけ」の重みが分かってきたのだ。

ラップは音楽じゃない、なんて、したり顔でいうおっさんがいる。聴いただけ、まだ、可愛いけど、音楽でない音楽なんかない。いい音楽も悪い音楽もない。好みだけだ。自分の好みに合わないから、「音楽ではない」「いい音楽ではない」。俺も含めて、人間、馬鹿の集団だ。俺達が、そんな判断をするのは、地球が破裂してからにして欲しい。

同じピアノで、同じ曲を、二人の違ったピアニストが弾く。まったく、違う
同じ絵を、二人の違った絵描きが模写する。やはり、どこかが違う
「恋愛」というテーマで、二人の作家が書く。まったく、違う

これが、音、絵、文、「体」。当たり前だ。みな、違う。
でも、俺達は、鳥瞰してみると、ほとんど同じに見える。でも、違う。
一緒の要素より、違う要素の方が面白い。

俺は、若い時に戻りたいなんて、まったく思わない。
しんどかった。早く年取りたかった。一生懸命過ぎた。
若気の至りではなく、しんどかっただけだ。

再掲追記

過去記事の整理、遅々として進まない。422編、気が遠くなってくる。
少し辟易してきた。でも、新規に書こうという気はまったく起きてこない。
というわけで、多少内容のあるものを抽出してみることにしました。

2012.10.14 Sun

スペース1

はい、こちらフランスのパリ郊外。今日も、雨。なんだか、毎年、四季の配分がいい加減になってきている。地球も疲れてるんだろう。メリハリがなくなってきた。今年、七月から八月中旬。雨雨。庭のミニ畑のトマト全滅。いんげんだけ、収穫。パセリ君は、毎年、引き籠もりで、今年も発芽しない。褒めても叱っても、発芽しない。ちょっと、彼には、お手上げだ(俺の思春期を思い出す)。八月中旬から二週間ぐらい真夏日。九月、秋晴れ。中旬から、今日まで、雨雨。と、大雑把な印象。このフリースタイルな変則リズムのせいで、無花果、葡萄、梨、林檎。果樹系も、全滅。なんだか、芝生だけが生き生きしている。

はい、それで、この動画。この曲は、あんたがたどこさ、ソーワットと、結構ハイになり、なんとなく、自分への労いみたいな感じで作ってしまった。もちろん、正直、マーケティングの意味もある。YouTubeへアホのように動画二十七本をアップロード(現在は、小休止)。逆に、俺のことを知っている連中には、あまり、宣伝していない。むしろ、俺の知らない方々の反応を見てみたかった。金子みすずさんシリーズの二本を除いた曲のスタイル内訳を書いてみる。

「アコースティックピアノ」

即興演奏(まあ、典型的なフリースタイル)

ジャズのスタンダード

自作および日本の童謡を編曲したメロウな曲(ちょっと、陳腐だけど、聴き易い綺麗な曲)

「シンセサイザー」

ジャズロックぽい曲

ローランドの自動アルペジオの機能を使った、ディスコ風の曲

そして、このスペース1(2が、ちっとも、できない)

こんな感じ。当初の予想とは裏腹に、カテゴリーごとの再生率は、まったく関係ないことが分かった。もう、曲ごとにまちまち。なんか検索エンジンの表示の仕方にも関係しているのか、パソコン音痴の俺には分からない。この結果は、「まったく、マーケティングにはならないことが」分かっただけとなった。でも、何週間も再生されなかった曲が、突然、どばーと再生され始めたりと、やはり、インターネット様のなさは、いまひとつ分からない。

で、ブログも同じで、俺を知っているやつには、あまり、宣伝していない。知らない方々に、どの程度、読まれるのか。それ以外に、面白いブログを発見するため、こちらの方が大きい。あっ、その前に、動画のプロモートのためというのがあったが、こちらの効果は、ほとんど、今のところはない。大体、ブログ自身、ほとんど読まれていないから、当然だ。タイトルとか紹介文が、やはり、興味の対象になり難いのだろうなあーとか思ってるけど、他に書きようがないの。や

はり、おっさん、この全体の老朽化は避けては通れないわ。まあ、順位なんて、どっちでもいいので、しこしこ、しつこく書きまくるだけだ。前に書いた通り、フリージャズ屋は、そんなことではめげない。お客様が、たとえお一人でも、手は抜かん。数の問題ではないの。

急に、「フランスというスペース」。

以前のブログと重複するが、俺の家は、パリから35km離れている。でも、丘の上に建っているので、パリのデファンス地区の高層ビル群が見える。この見晴らしが気に入り、フランスの不動産バブルが始まる前に購入した。今からでは、俺の収入では購入は不可だから、人生設計上は、当たり前。で、英語式にいうと、シティーハウスというやつで、左右がお隣りとくっついている。半地下(丘の斜面なので、入り口が一階で、庭のレベルが地上階)、一階、二階、屋根裏部屋。同じ通りの家々の基本構造は同じ。ただ、「その収入差」が、「家の幅」になる(奥行きは、増築しない限り、基本同じ)。俺の家は、同じ通り小さい家ランキング、三位だ。豪邸に挟まれた小さな家。なんかジャズ屋に相応しく、気に入って居る。俺の左側の家は、大学の先生。俺の家より、幅が1m少ない、ジャズ屋の勝ちだった。どうでもいいけど。ただ、この通りは、この町では、「高級住宅街」として知られているから、住所を言うと「金持ちと勘違い」される。お金があるならともかく、この「勘違い」は、営業妨害だって。玄関に、俺の収入を張っておこうかしらね。村八分になったりして。貧乏人は、住まないで下さいなんて、書き込みされたりして。

注 各家の母屋からの庭の奥行きは二種類

小道まで延びている家は、たぶん、100m。途中で、石垣でちょん切れている家が60m
俺の家は後者。庭の面積の算出は簡単。家の幅x奥行き。当然だけど
俺の庭は、広いというより長いのだ。家が小さいから、そうなる

で、サロンの窓から、俺の家の庭、左右のお隣りの庭。そのお隣りの庭。それから、もっと先の森。とにかく、諸々の木々が見える。ただ、おっさんのくせに、木々の名前が、ちっとも、分からない。剪定の仕方は覚えたけど(庭全体がキュビズムから、段々、シュールリアリズムになってきたので、必死で覚えた)。とりあえず分かるのは、自分の庭にある木の一部。菩提樹。ローリエ。梨の木。無花果。林檎の木。果樹は自分で植えたから、知っていて当然。後、諸々の低木。これは、半分は自分で植えたのに、良く分からん(フランス語なので忘れてしまった。あっ、山茶花がある)。桜の木は、あまりに大きくなり過ぎたので、忍びなかったけど、切った。なんか、寂しかったので、ごめんなあーといいながら。ただ、ご近所迷惑もまずい。

やはり、年のせいか、花をめ、深緑色の葉っぱを撫でる。梨の実をじっと見詰める。落ち葉を掻き集め、落ち葉とお話ししたり、落ち葉(俺)が落ち葉を掻き集めて、しまい、自分も捨ててしまったりして。ぎょ。とにかく、そこいら中に緑がある。そのせいか、俺は、今以って老眼鏡がいらない。注、若い時分に勉強をしなかったせいというのが、兄弟間の意見だ。学歴順にメガネとなった。兄貴(俺)が一番遅かったから、仮説ではないようだ。

日本人だけなのか、分らんが、自分(人間)を草木と同列に置いて刹那を感じたりする、凄い能力がある。フランス人がこの境地になるのは、修行を重ねて五十年ぐらい掛かるんじゃないの。俺なんか、草木の方が偉いなんて思っちゃうから、謙虚の権化だし、五十三歳で、悟りの境地。でも、先が長いんだな、これが。大体、梶井基次郎の桜のフレーズなんか、もう、舞い上がるぐらい素晴らしい。皆さん、ご存知の、「桜の木の下には、死体が埋まっている」。わいわい、死がどうのこうのと書き立てる若僧の詩なんか、俺は読まないけど、これは、凄い。大体、この詩っていうのが胡散臭い。これは詩ですって言われてもね。自分の内部に感応するものが、それだから、先方から、はい、詩です、どうぞ召し上がれ。なんか、胡散臭い。

文学は、人間の闇を暴くとか、本質とか、生と死とか、そりゃー、昔は俺だって考えた。今は、自明のこと。人間なんて別に大したものじゃないから、闇も本質も興味ないし、生と死が表裏一体。だから？となってしまう、楽しくやろうぜえーとしかお答えできない。

ありゃ、なんだっけ？

はい、それから、丘の下に小川。それから名前は書かないが、大動脈の川。人工湖。良く川沿いに湖まで自転車で行く。湖を一周し、帰って来る。近所のお城にも、良く行く。それから、パリ近郊で、もっとも大きな森。どれが一番広いのか分らんが、複数あるので、その時その時の気分で変える。起伏のある方がいい感じって時もあるし、鬱蒼とした木々がいいなあーという日もあるし、沼の辺の林がいい、なんて日もある。木々の形が面白いので、見とれてしまう。諸々の鳥も不思議。うさぎだの、鹿が走って行ったり。熊、猪は、出てきたら、ちょっと、怖い。

若い頃は、当然、パリの喧騒と、人口密度がしっくりしていた。

今は、コンサートしに、なんとなく、職場に行くっていうノリに変わった。

あんまり、人とか車とか建物のない空間の方が良くなった。でも、サハラ砂漠をお散歩したくはないから、そうなると、植物、川、湖。木々と水となる。後、地面の土だね。地面を忘れていた、すいません、地球に感謝。

なんか、文体が老け込んでない？

ほっといてくれっ！雨雲のせいだよって！

2012.10.14 Sun

シニアーマン4

「もしもし」、俺は、送信してみた。「はい」。日本語だ。「ミドルウーマンさんですか?」「はい」。「ありゃ、日本人なの?」「いいえ、フランス人です」「ありゃ?ありゃありゃ。で、あんたも?」「はい、三日前に」「スーパーの買出し、好きだったんだ?」「はい」「俺と一緒にだ。困ってんだろう?」「はい.....」。

俺以外に、もうひとり、スーパーウーマンが誕生してしまった。逆に、続々と登場してもらおうと、こっちも助かるのだけれど。それが、普通になっちゃえば、隠す苦勞がなくなる。けど、世界経済とかは、どうなっちゃうのだろうね?

皆、スーパーマンとスーパーウーマンになってしまうと、たとえば、日本の国技の相撲とかは、どうなっちゃうのかしらね?勝ち負けなくなっちゃう。早過ぎて見えねえーし。

考えたら、スポーツは全滅だ。そもそも、心と体を鍛える。これ自体がなくなってしまう。

「野球」

「五回表、打順は、四番落合からですが、いやー、張本さん、今年の北別府は調子がいいですねえー」「あー、大きく振りかぶり、初球」ずばっ。「おー、2221kmを記録致しましたあー」「さすがの落合も、手が出なかったですねえー、張本さん」「いや、初球。様子見でしょう」「さあ、第二投」ずばっ。「張本さん、今のはカーブですかね。1887kmとの表示が出て居ります」「まあ、打ち気を誘うスローカーブでしょうね」「落合、見逃しました。追い込まれましたあー、中日、落合」「おっ、落合、バントの構え。第三球目。あっ、大きい大きい、ホームランかあー、さすが落合」。球は、中日球場から、岩手県の千厩まで飛んで行った。

球、見えない。ベースランニング、見えない。全部、ホームランか三振。このふたつしかなくなってしまう。

「サッカー」

「いやあー、釜本さん、今の中田のゴールですが、ポールがへし折れましたね。これでは、さすがの川口も、ちょっと」「いやあー、今期中田からすれば、ゴール自体をイタリアまで飛ばすぐらい、どうってことないでしょうね」「しかし、川口も、良く、ここまでセーブ致しました。ゴール圏のシュートが、これで、本試合、1892本目でしたからねえー」

バスケットの点数みたいになるか、ゴールキーパーも半端じゃねえーから、全試合ゼロ点か、ど

っちかだ。

「卓球、テニス」

「愛ちゃん、がんばってますねえー」

延々と、応酬しているだけ。こんなもん、だれが見るのって！

大体、玉も動きも見えない応酬だよ。シュールだっ！

「水泳」

「鈴木大地、飛び込みました。ゴールイン」

水面の漣しか見えないし、勝敗がない。

「マラソン」

「アベベ、ゆっくりとスタート。一服、しましょう。はい、記録は、五分三十二秒」

種目として成り立たない。

でも、引越屋さんなんかは助かると思ったら、職業として成り立たない、考えたら。

「ちょっと、そこのピアノ持ってきて」「へっ」二秒後には、そこにある。

「俺、縦列駐車だめなんよ」別に、道の真ん中に止めて、ちょっと、「よっ」て、指ではじけばお仕舞いだ。お家の日照問題なんかもなくなってしまう。ビルごと、移動されちゃう。で、いじめなんかもなくなる。いじめようがないでしょって。それはそれで良いことだわな。飛行機会社もいらなくなっちゃうしな。「ちょっと、この書類、メルボルンまで持って行って頂戴」「へえっ」部下が、オフィスの窓から飛んで行っちゃう。仕事ははかどるところか、朝九時出社で九時十五分には、皆、終わってる。飲み屋もなくなっちゃう。酒、タバコ関係も全滅。

では、なにが残るのだ。衣類はいるわな。食べ物は、なくても良くなっちゃうから、コンビニなくなっちゃうな。あれっ、考えたら車いらぬ。交通機関自体がいらぬ。二酸化炭素はなくなって良いことだけど、皆で、飛び回って、地球のオゾン層は大丈夫なのかな？そうか、なんも排出しないから、いいのか、それは。ということは、地球にはやさしいよね。大体、暴力沙汰とか、諸々の犯罪もなくなっちゃう。スーパーマンの家に、スーパーマンの「こそ泥」。そんなこたあーねえだろうって。空中衝突、大丈夫かな？横断歩道とか信号とか、空に浮かべないといけぬいよなあー。

お家と衣類だけなの、必要なのって。じゃ、これ関係だけだ、産業で残るのは。でも、人類全体

、この業界で仕事するわけ。無理があるな。それも。じゃ、芸術、芸能だね。

考えたら、そうなると思直しもなくなっちゃうから、皆、相当、暇になっちゃうよな。やっぱ、暇潰しは、芸術、芸能だけじゃん。ジャズピアノとか。

でも、皆、めちゃくちゃ上手いから、だれも、聴きに来たりはしないよな。

早くプロット決めて、書けて！

作者が紙上で、どうしようかぐずぐず。早よーせいって！

わあちゃー！

はい、

俺は、シニアマンなので、同類を探知できる。今のところ、残念ながら、彼女だけだ。やはり、そうしないと、先に進めない。皆一緒だと、なにもかも成り立たない。

俺とまったく同じで、三日前の朝に異変に気が付いたらしい。で、やはり、ちょっともじもじ悩みつつ、正義感と良心に迫り立てられ、サロンの窓から飛び立ってしまったそう。名前は、ニコル。三十八歳。いつの間にか、婚期を逃したオールドミスと、自分で言っていた。日本語は、三日前までは、まったく話せなかったそう。

近々、お会いしましょうねって言って、その日は交信を打ち切った。文字通り、飛んで行けば、すぐにお会いできるのだが。

前から不思議に思っていた。婚期を逃したオールドミスに、飛び切りの美女が多い。あんまり、綺麗なのも、男どもには、とっつき難いのかしらね？確かに、家の中に、パメラ アンダーソンみたいなのがうろつかれると、日常が破綻してしまう。なにも、アレ以外は、手に付かなくなるし、たぶん、顔はどんどんお猿さん顔になってしまうだろう。会社に行く気なんか起きないし、上司の説教なんか耳に入るわけがない。鼻の下が、だらぁーん、目はベズリー。股間は木の字。俺のケースだと、ピアノが弾き難いことはなはだしいし、大体、コンサートは、全部、キャンセルだわな。

いったいなんの話を書いているの、あなたは？

えっ、俺のこと？

2012.10.15 Mon

朗読「金子みすず」

この動画の正式なタイトルは、和田美津代 朗読「金子みすず」ピアノ 裕イサオ Poetry Reading「Misuzu KANEKO」。1および2となっています。和田さん、和田さんの撮影、パナフィック ライフ 佐藤さんの、ご協力、ご了解のもとに制作致しました。この場を借りて、改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

Part1 私と小鳥と鈴と 積もった雪 大漁

Part2 美しい町 星とたんぽぽ 蜂と神さま

ご覧の通り、代表作六篇の朗読および、各作品への私の即興ピアノソロが収録されています。

まず、最初の私の素朴な疑問は、みすずさんの詩に音を付ける意味があるのだろうか。何日も考えてみたのですが、いつも同じ結論。「ない」。

私のような三文ピアニストがという意味もあるのですが、ピアノのレベル以前に小宇宙として完結しているみすずさんの詩に「音はいらない」。やはり、何度考えても同じ答えしか出てきませんでした。私なりのみすずさんへの敬意なのだと、自分なりに理解致しました。

後日、和田さんの素晴らしい朗読を拝聴させて頂き、気持ちが変わりました。「よし、この朗読に音を付けてみよう」と。それから、何度も何度もみすずさんの詩を読み返し、和田さんの朗読を聴き返しました。それから、それぞれの詩に幾つもの即興演奏を試みてみました。

「私」、「私のピアノ」、「自己表現」。今回は、そんなものは、すべて無効になって、みすずさんの詩、和田さんの朗読、ひたすら、「ピアノに演奏」してもらうように勤めました。私は、単なるピアノを操作している技師というイメージで、諸々を試みてみました。それなりに、技師なりの成果はあったかな、と思っています。日頃、私私私のオンパレードのような演奏をしているピアニストには、大変に難儀な作業でへとへとになりました。そして、ほんの少しだけ、みすずさんの詩に近付けたような満足感が残りました。

金子みすずさんの詩について、私のようなものが、注釈を付ける必要はまったくありません。みすずさん自身が、「私」を超えて、小鳥、鈴、積もった雪、鯛、挿絵、星、たんぽぽ、蜂と一体になっている。その目線で詩を書いた。

没我とか超自我とか、たぶん、文学用語で呼ばれるのでしょうけれど、そんな難しい解説の必要さえないでしょう。みすずさんは、世界を構成する諸々と、ひとり静かに感応していた。それだけです。そして、それが、実に平易な日本語の短い童謡として紙面に残された。

みすずさんは、二十六歳で、自ら、向こう側へ行かれてしまった。

あまりに透明な目線と、宇宙的な優しさに、良く分かりません、みすずさんの肉体が耐え切れなかったのかしら、と、私自身は呟いてみます。

この二本の動画は、「私の動画」ではなく、先出のお二人のご協力の賜物であり、みすずさんへの敬意そのものです。

ご視聴頂けますと幸甚です。

裕イサオ

2012.10.15 Mon

十代後半から、二十代前半に掛けて、せっせと詩を書いていた時期がある。

もう、三十年以上前だ。仮に、その時の俺の年齢を二十歳とすると、生物学的には、確かに同じ人間なのではあるが、俺には、なんか、知らない、赤の他人に思える。

その二十歳の彼は、新宿下落合の下宿で、酒飲んでジャズ聴いて、詩を書いていた。

その頃書いた詩。もちろん、詳細は忘れてしまったが、観念語と抽象語と外国語で、生とか性とか死とか人間とか、そういうことを書いていた。まああー、暗あーーい、あんちゃんだった。

と、年寄りの俺が、二十歳の俺に、「上から目線」だ。それはおかしい。その俺は、一生懸命書いていたのだ。年寄りの俺に、俺が、なんだかんだ、言われる筋合いはない。若い。別に悪いことではない。オジサン、ジジー、別に悪いことではない。でも、どちらも、そんなに良いことでもない。どっちなんだよって？

結局、もとは戻らんから、今の俺の方が、素敵ということにしないと、俺自身の辻褄が合わなくなる。でも、年輪を重ねた。たぶん、頭を半分コすれば、バウムクーヘン。とは残念ながらならず、「空洞化」している。はずだ。二十歳の彼の方が、絶対に、セクシーだった。あれっ？大体、シニアというジーちゃんになって、分別、年輪、重み、貫禄、他人への思いやり、渋み、恰幅etcetc。ひとつもない。お金も、ない。だからなのかしら？

その彼が、現代詩と呼ばれるものに出会ったのは、東京の国立の古本屋で購入した、田村隆一「詩人のノート」だった。田村さんの詩、その他の諸々の詩人の詩、ユリイカ、現代詩手帳。この辺りを、むさぼり読んだ。それから、今でも、ここだけ変わらんのですが、詩人の詩より、エッセイの方が面白く、こちらも、むさぼり読んだ。

「突然の追記」(割込み)

「上から目線」のもっと上は、「天から目線」

これは、だぶん、世界文学史上、深沢七郎さんしかいない。物書きとしては。

「吉岡実」。俺は、大ファン。まず、格好いい。人柄が、途轍もなく「良い人」。言葉の職人さん。はったりが、まるっきりない。で、この「良い人」が、とんでもない「暗黒詩」を書いていた。この、とんでもなく、良い人に映った世界が、グロテスクだった。だから、こちらの問題なのだ。

「富岡多恵子」。もう、ずっと、大好きで、詩に愛想をつかした詩人。彼女の影響は、俺の世界観の中樞を担っている。「詩作るなら、田んぼ、作れっ」って、はっきり、言い切った。もう、目がうるうるした。

あっ、後、番外編だけど、謎の沼ショウゾウさん。すいません、漢字、忘れた。
世界マゾ文学、間違いなく、第一位。

注 これぐらいに、しときますね。次回

で、その暗あーーい、自称詩人のあんちゃんの頭の中に、なんとなく、もわあーーんとした疑問。自分で詩を書いてみると、なんだか、一行で十分という時と、もう、原稿用紙五百枚ぐらいないと書き切れない時。要は、なんだか、真ん中がない。

たとえば、前者の例とすると、田村さんの「詩の一部である一行」(最初のは前にも書いたけど)。「時が過ぎるのではない 人が過ぎるのだ」「鳥は鳥の中で飛ぶ」。
どう考えても、これで十分という気がする。

で、後者の例。急に、どおーーん行ってしまおうが、ヘンリ ミラーの「北回帰線」。これは、俺には長大な散文詩なのだよ。

要は、なんだか、十五行とか二十行ぐらいの、いかにも詩らしい詩が、どうにも書けない。うんだば、小説かあーとなって書いてみた。これは、前に書いた通り、シジュー前半まで、無才能を理解しているくせに、しつこく書いていた。でも、どうにも違和感が取れない。なにが？たとえば、

「あれ、おかしいな」と、その時、辰男は思った。その日は、夕焼け空だった。

「おおーい」。遠くから、明子の声が聞こえた。

木々の葉脈が美しく、夕焼けの、淡いオレンジ色に透けていた。辰男は.....

と、この会話だの、登場人物の名前だの、最終、この物語(プロット)の設定。これがどうしてもできない。脳内欠陥としか思えないのだが、どうにも、皮膚感覚みたいな感覚で、おぞましいのだ。照れてしまうし、全能の神さまみたいだし、こんな、人間(富岡多恵子さんは、ヒトと書く)の鳥瞰図を、ワン ノブ ヒトの俺に書ける訳がない。なんだか、いきなり、はい、裕さんも、セーター編んでくださいねえー。編み物、いかがあー。俺は主夫だから、編み物までは、手が出ないよって！

こうなると、詩も駄目。短歌俳句も考えたが、どうもピントが合わない。小説も駄目。で、元々、へらへら体質の執筆狂、しかも、ピアノ弾きだ。この中毒体質に合体ロボできるもの、その通り！このエッセイというのがぴったりなのだね。考えたら、あんちゃんの頃から、読むのが好きだった。大体、俺の大好きな、そのヘンリ ミラー大師匠なんだけど、考えたら、彼は、エッセストだったのである。勝手に断言してしまうのだよ。「北回帰線」。まあ、散文詩のようなエ

ッセイだ。はっきり言って、もう、その日暮らしで、思い付いたことを、片っ端から書いてだけ。計画性が、まるでない。フリージャズ小説大賞は、やはり、ヘンリに差上げます。

むくつけき やつの頭は どたまかな
山茶花 山茶花 えっ、いつ咲いたの？
(短歌俳句は、代表作で、この程度だよ)

お粗末でした。

2012.10.16 Tue

サマータイム

今数えてみたら、この動画がアップロード順で、二十二番目。まあ、短期間で、よくアホのように作ったと思う。ブログを始めた最初の頃にした通り、ちょっと前まで、パソコン系は、もう、全然、豚に真珠だったから、凄い進歩ではある。

この曲の解説はいらないでしょう。ガーシュインの名曲。でも、俺はガーシュイン、あまり好きではない。この曲だけ、ちょっと、特別に愛している。もうひとつ、夏の曲の代表は、ミッシェル ルグランの「思い出の夏」。こっちも好きだけど、自分で弾こうとは思わない。

どちらも、あの「真っ赤な太陽.....恋の季節なのおー」の夏ではなくて、夏の終わり、夏と秋風が交錯する頃、恋の終わり、宴の後、ナニの後の虚無感とか、まあ、熱いものの終わりの始まりといった趣。どきいー、シニアの心境そのものではござんせんか？

なんぼ明るく振舞ったって、宴はおわつとるわいな。でも、まだ、初老という秋風は感じるけど、まだ、俺は夏の終わりにいるとか、第二の思春期みたいな年だ。でも、この名曲を聴くと、やはり、そこんところが、いかしてる。

はい、お酒は、ほとほどに。タバコは、健康を害します。すいません、でも、なんかこの曲だけ、いつもの俺の感じで弾きたかったのね。いつも、赤ワインをちびちび。時々、タバコってな感じで練習している訳。で、動画のコメントにも書いた通り、俺のピアノは、饒舌体。音数が多いのだ。で、このへらへら度を少し抑制するために、タバコを吸うと、やはり、灰が気になったりするから、手数が減る。減った分、ちょっと、洗みがでる。そうしないと、自然体では洗みがでないのだよ、おやじなのに。半分は、言い訳でした。

やはり、ジャズエッセイなので、奏法について、ちょっとだけ書く。

その道の方がお聴かれになると分かる通り、オリジナルのコード進行は遵守して居る。ただし、以前書いた、ルートレスの四和音でやっている。でも、それだけだと、初老ジャズになるので、なんのなんのとAsus4とBsus4で、リズムック、ダイナミズムを入れて、俺は、まだ、夏なのだぁーと抵抗。で、右は、いつもの、メロディーを遵守しながら、装飾音とブルーノートと下手隠し煙幕早弾き技法。以上。一ヶ所、高音部にミストーンがあるけど、日頃、「間違っただ音」はないと豪語している俺としては、あえて無視。で、演奏自身は気に入っている。夏と秋が交錯していて、おやじピアノらしい。でも、坂田明先輩のこの曲は、真夏系にアレンジされていて、やはり、脱帽。若々しい、本当に。

ところで、ピアノの練習なんだけど、それは、もちろん、する。

で、よおーし、この曲、覚えるかぁーと決めて、まず、譜面通りに弾く。で、アホのように何度

もやる。その内、なんか、指が勝手に弾いて居ります。わたくしではございません。一切の責任は、指にございますので、クレームは、そちらへ。欠陥曲の返品には、お答え致しかねます。となる。ここから、編曲というか変曲を開始する。それで、何度やっても躓く曲とかがある。どう練習しても、一ヶ所だけ、上手くいかない。ないしは、曲全体が体に入らないとかが起きる。

はい、こういう時の対処は、単純だっ。

躓く部分をカットするか、躓かないようにアレンジしてしまう。それも駄目駄目のケースは、もう、レパートリーからカットする。でも、あまり、カットばかりだと、レパートリー、はい、三曲ですとかなってしまい。たとえば、ソロピアノで一時間十五分のコンサート。これは、辛い。俺も、お客様も。とはいえ、ピアノ教室の発表会じゃねえーから、裕さんは、とにかく、一生懸命弾きました。これでは商売にならない。ジャズ屋が、「努力の後」なんて見せて、どうするの?となる。だから、ノリが、やはり、優先。まっ、努力しないと弾けない曲なんてのは、お客様の前にはだせん。でも、努力はしないとね。やはり、こういう態度だから、若者に説教だの進言なんてものが、いつまで経ってもできない。それでも、クラシックピアノをやっているお姉さんが、教えて欲しいとか来る。で、教えない。教えられないのですよ。たとえば、リズムのシンコペーションだの、出だしが半拍のさらに半拍、遅れて出るなんてのは、もともと、俺の頭がズレているだけなのね。脳内欠陥は、人には教えられないって。

ガーシュイン。あまり好きではないと書いたけれど、夏の曲を短調で書いた辺り、やはり、粋だ。名曲なのに、俺は、この曲、宴会芸で、美川憲一、美空ひばり、よく分からないおかまとかの物まねでやる。全然、この曲の粋を理解してないのかも知れない。いや、しようと故意にしてないのかもね。あんまり、相応しすぎて。

2012.10.16 Tue

ランキング

俺が、一番最初のブログを書いたのが、今見たら、今年の九月十三日。それから、毎日、しこしこ書いた。閲覧データを見ると、何人かの方が読んで下さっていることは、分かった。ありがとうございます。で、インターネットを見ていたら、ブログのランキングサイトというのがあるらしいとなった。ふむ、これは、面白そう。俺のランキングなんて、本当にどうでもいいのだけれど、他の面白いブログを発見できるなあーというのが目的で、登録してみた。

そして、困った。リンクバナー。なんのことか分からない。で、分かった。で、今度は張り方が分からない。Bloggerが、特別にややこしいのかなあー?(はい、これは本当)二日ぐらい、いや、もっとだな、調べ捲くって、やっと、貼り付けた。へとへと。今度は、アーカイブの整理の仕方が分からない。後で、やってみますね。右側に執筆狂のブローガー一覧が、どわーーーーと出ている。レイアウト上、あまり、美しくない。とにかく、これ以上、シンプルには出来ません、という方向を考えている。

大体、このブログ。動画紹介。アホエッセイ。動画紹介。アホと交互に書いているのだが、これで、四十五回。ランキングの更新率では、どうも、一位の気がしている。週平均11回とかなっている。よっぽど、本業のゴトシ(仕事)がねえーんだろうなあーと思われても仕方がない。実際、そうだな。でも、勤務時間は、夜なのね。キャバレーと一緒に。日中は、だから、主夫なの。そして、俺のブログは、毎回長い。原稿用紙換算だと、良く分かんが、150枚-200枚ぐらいは書いてるのだろうね。昔、500枚ぐらいの小説書いてたから、別に、あんまり感じないんだよね。でも、週の更新率が0.1回なんて方もいて、面白い。どうして、ブログなんか始めたのか、その最初の理由が分からない。

すっかり、ブロ中(ブログ中毒)になってしまったが、やはり、矛盾しているが、物を書くこと。暗い、湿っぽい。美術、製作時に結構体を使う。音楽、特に俺に関しては、スポーツに近いところもある。達成感があるし、お客さんが横にいるし、打ち上げで騒いで、明るいのだ、現場が。

ところで、もともとの趣旨が、YouTube動画のプロモート用のブログだから、やはり、同系列のBloggerがいいだろうと、素人なりに考えたのだけれど、本当にそうなのか、パソコン音痴には分からない。でも、Googleで、自分の名前を叩くと、動画、ブログとどばーーーーと出てくる。いいのかしら、こんなにページ使っちゃって?それから、イギリスの音楽雑誌のサイト、スタンダードジャズ、今週のお薦め、お笑い動画、裕イサオを聴けっ、いろんなサイトで、俺の動画が紹介されていた。イギリス、フランス、日本。日本語ですが、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

昨夜、寝転びながら、ブログ巡りをした。もともとのお気に入りかふたつ。昨夜、さらにふたつ

を登録。良く見たら、すべて女性。若いお姉さんx2。同世代x2。こういう配分。もともと、変な日本語だけど、女流詩人、女流作家が大好きなので、このようになった模様。別に、俺は、おかまじゃないのだけれど(マネは超上手いけど)、おばさんがおばさんの生態を書いている。おばさんが、これをするには、ちょっと、男らしい視点(作家目線)が必要だから、男の俺が読むと、そのパラドックスが面白い。そして、アホとマジと可愛らしさと年輪。やはり、ご拝読姿勢になります。作家目線おばさんは、両性具有者。諸々の要素の集合体で、可愛い。でも、おばさんそのもののブログは、読みません。オジサンも同じ。逆に、俺らは、おばさん目線を内包しなければいけないのだ。で、若組みは、今、突っ走っている最中の若い日本の娘の視点、生態、それから若々しい詩的な叫びが、おっちゃんジャズ屋の中樞神経に刺激を与えてくれる。目を細めて応援して居るのだよ。うんうん、いいよなあー。いいよなあー。あの、志村さんのいいよなあオジサン。

男どもは、すぐ、エーカッコシーするのだ。あと、どうしても、知識、博学、年輪とか、読む方の上に立とうとする。そういう生物だから、そうなんだけど、おばさんは、そんなことはしない。地上に生息しながら、じっと、見ている。こちらからは分からないのだ。その筋のおばさんが。潜みおばさんたちが。ひそみちゃんたち。

で、ブログ。やはり、匿名(ペンネーム)、プロフィールなし、写真なしが多い。

諸々のご事情が、当然、あるのだろう。それくらい俺だって分かる。で、ご覧の通り、俺のやつは、名前、写真、プロフィール。ぜえーんぶ、明記してあるので、ご安心下さい。怪しいものではございません。あっ、それで、お褒めのコメントは匿名で全然構いませんが、ご批判コメントは、お名前明記。俺は、これは、筋だと思っている。俺の動画のひとつに、「低評価マーク」が付いていた。もちろん、まったく構わない。でも、ちょっと、失礼だけれど、「なんだよおー、このピアノ」って、思う方も多々いらっしゃるはず。でも、たとえば、俺が逆の立場だと、低評価を、クリックしたりはしない。興味ないものに、そんな労力は使わない。で、わざわざ使うということは、なんらかの理由があるはずなので、当事者としては、お伺いしてみたい。やはり。あんまり、感情的だと困るけれど。あんたの顔立ちが、大嫌いだった、とかは困るわな。

それで、自分のランキングは、どうでもいいと書いた。本当にそうなんだけれど、だだ、書いているからには、「圏外」ってのも、ちょっと、寂しいねえーと思っていた。まあ、何ヶ月かして百番以内を目標ってな感じだった。ところが、予測を裏切り、なんだか、結構、上位にいる。で、このINとOUTの配分が面白い。実は、俺の周り、仲間の一部も、読んでくれている。メールだ、電話来るので、当然、分かる。閲覧回数を見ても分かる。そして、面白いのが、俺も、もちろん、ちょっと前まで知らなかった通り、このリンクバナーの意味を、俺の仲間たちは知らないのだ。だから、INポイントが、全然伸びない。でも、放置。アナログ仲間に説明する気にはなれんよって。ということは、俺のポイントはOUTで、となる。ふたつのランキングサイトのポイントを分析したら、俺のブログ。以外とOUTポイントが高いことが分かりました。ありがとうございます

います。深謝。

内容ではなく、量で勝負。ちょっと、俺のピアノの饒舌体に似ている。音数、無駄音の量で煙に巻く。んで、なにを勝負している訳？あんたは。

あっ、そうじゃない、動画の方こそ、ご視聴(専用スピーカー要)、よろしくお願い申し上げます。

俺、ブロガーじゃないんだよ。ミュージッちゃん。

ふふふふふ。段々、本末転倒。動画のプロモートだったあ！

2012.10.16 Tue

RHYTHMIX1

このシリーズは、今のところ、三本。

俺自身、気に入っている。この動画しか、自分では見ない。

若向けに作ったのか、といわれると、そんなことはない。ような、そのような.....。

おっさん(俺)が若かった、つまり、デスク(俺の郷里では、こう発音する)に行っていた頃を、思い出して作った。けど、おっさんが作ったから、本当に、若向けなのかは分からない。大体、世界の音楽市場がどうなっているのか、今ひとつ、把握できない。だから、むしろ、俺と同世代の方に聴いて欲しいの。おっさん、おっさんって、るせえー、この若僧。と、人生の先輩連からは、ご批判の嵐となる。

ところで、俺はパソ音(パソコン音痴)だ。若者言葉のはしりを使うと、こうなる。と、思いきや、俺の研究結果は、たぶん、「パソ痴」「音パソ」「パチオン」とか、結局、分からない。でも、はなもげら(ミュージック用語)化すると、「コンパソチーオン」で、最終形は、「パソチー」。あれっ、良く考えたら、若者どもが、こっちのマネしてんじゃねえーの！参ったかって！こっち(ジャズ屋)の方が、「先を行っている」のだ。たぶん、これは、本当だと思う。

大体、今のガキの大半が、とっつあんになると、絶対に、あの「俺が若かった頃は」って、ガキに説教したりする。はずだ。ないしは、発言力ゼロのアホ大人か、どっちかだろう。後者系が多いのかしらね、日本国は？そんな感じ(ローラ)。

だから、俺は「パソチー」だけど、ピアノは、一応、弾ける。ピアノとパソコン、どちらが難しいのか？自問してみる。分からない。

どっちも、叩けば、音ないし字がでる。指があれば、一応、なんかはできる。おっ、残念でした。ピアノは、ペダルがあったよ！ペダリングの方が、演奏より難しいかしらん。本当に。これは、マジでそうなんですよ、演奏の全体像が、これによって、がらっと変わってしまうのだ。ジャズ屋は、あんまり使わない傾向がある。

俺のピアノ暦は、五歳から十二歳。再開したのが三十五歳。ジャズ屋としてプロ登録したのが、シジュウで、今、五十三歳。計算すると、おおー、二十五周年。四半世紀もやっているのに、この程度。これも、なんだか、感慨深い。進歩の速度が超絶的に遅い。けど、やはり、この「常に進歩している」。これが大事ということに、勝手にしてしまう。延々と頂点が来ないから、退屈しない。あの、「参加することに.....」だ。

で、ピアノは、西洋の知が作り上げた論理としての音楽というものを、形にしたもの。もう、西

洋文化そのもの。ある意味、世界初のコンピューター。もう、複雑な音楽理論が、ぜえーんぶ、中に入っている。よく、まあ、こんなもの作り出したと思う。でも、何回か書いた(はずだ)けど、これが絶対的なものと思っ込んで駄目。ワン オブ 音楽ズ。この中に入っていない音も沢山沢山ある。これを忘れては駄目よ、っとなる。金子みすずさんの詩を借りると、三味線、尺八、太鼓、ロック、ジャズ、クラシック、演歌、童謡、民族音楽、風の音、水の音、木の葉の音、みいーな違って、みんないい。俺は、ジャズファナティックではない。今は、ガールズグループしか聴かない。

ということは、わたくしは、ピアノというコンピューター操作は、二十五年も掛かったにしても、稚拙ながらできる。のに、現代のコンピューター操作は、まともにできない。大体、パソコン買ったの、今年の五月だよ。今時、いるんだって、俺みたいの。家にあるテレビも画面が小さいけど、奥行き、50cmぐらいの、映る粗大ごみだ。二度落っことして、前後に割れている。どっちにしろ、サッカーの試合しか見ないから、十分なの。

やはり、コンピューターの方が、難しい気もする。でも、たかだか、四、五ヶ月で、一応、動画なんて作れるようになったから、やっぱり、ピアノの方が難しいかもな。どっちでもいいけど、確実なのは、パソコン叩けても、お姉さんにもてないけど、ピアノは、ふふふふふ。そのために弾いて居るのじゃ。ミュージっちゃんは。

ははは、ここまでが、前置きのね。それで、結局、何を書きたいのかといえ、いかに、俺は頭がいいのかということ、遠まわしに書きたいだけなの。そっ、泣く子も黙るRoland RD-700GX。世界最高峰のステージピアノ。ピアノおよびシンセサイザー。で、要は、ピアノとパソコンが合体したもの。算数上、相当の知能指数がいることは、お分かりになれるかと思う。で、俺は、このマシーンを使いこなせるのだよ。尋常な知能指数ではないことは、お分かりに.....。くどいっ！

半分は本当のような、半分以上は嘘。動画のコメントにも書いたけど、このシリーズの1および2は、ローランドの機能を把握して、和音が二つぐらい弾ける。そして、出来たら容姿端麗で、最後まで、俺はプロだと公の場で言い張れる人なら、だれでも作れるのです。試しに、どうぞ。ちょっと、お金は掛かりますよ。高いよおー、このステージピアノ。後、支えの足もいるし、スピーカーが内臓されてないから、かなり、高価なアンプも買わないといけないし、諸々を接続する、ハイクオリティーのコード類もいる。先行投資で、まだ、全部、回収していないのだ。

2012.10.17 Wed

その日、ニコルは、先生会議で、いつもより、帰宅が遅くなった。
なぜだっ？作者の勝手に、ニコルは、高校の数学の先生ということに、設定したのだ。
先生会議？稚拙過ぎる。

「シニアーマン。前号までのあらすじ」
面倒なので、書かない。1から、お読み下さい。ではなく、アホ小説だから、どこから読んでも構いません。ということ。「読んでも」？。失礼致しました。どこから、お読み頂いても、読者様方へのご支障はないと、僭越ながら作者ごとき分際にて、申し上げる次第でございます。日本語って、長いよ、フレーズ。へりくだりって言うのだけね？はなもげらに音が似ている。

で、ニコル。面倒臭いね。だから、スーパーウーマンなんだけど、やっぱ、1から読んでクレヨン(このオジギャグは、町田康です)。

ところで、俺は、小説書いている頃、「前号までのあらすじ」という小説を書いたことがある。出版社の野郎っ、失礼、致しました。出版社の方々のご見識に寄りますると、駄目駄目、あんた。というお達しでございました。それで、じゃあー、ブログは、御社を経由せずに、戯言を述べられる。すべての、アホ責任は、わたしくめにございます。はい。
どうだっ、ゲリラ戦法だよ。
すげえー、ブロガーたちが、一杯いるのだ。覚悟せいっ！

大体、プロの物書きが、「今日はネタがなく、なかなか、書けない」なんてことを、堂々と、金もらって書いていた。昔は、だけど。今は、いないよね？知らんが。こんなのは駄目。ネタなんて、そこいら中にあるんだって。それが、プロって、もんだろう。書くことが難儀です。辞表出して下さい。そんな物書きは。書き物中毒、この筆力は、いるよ。本当に。

じゃ、まあーいいや。ぎっくり腰で、二日酔いで、背骨神経痛で、諸々の社会的な諸々が、諸々ある。それは、俺だって、同じだ。書かないけど。で、ネタが、テレビの泉のように、この「ように」っていう安直比喻は、俺、駄目なの。陳腐で。あっ、だから、のように出てこない。こういう日も、そりゃ、人間だからあるだろう。じゃ、書かなきゃ、いいじゃん。となるけど、プロの物書きは、これが仕事だ。書かないといけない。そりゃ、そうだろ。で、ピアノ弾きが乗らないから、弾けない。串刺しだって、そんな野郎。こっちはね、お客さん(読者)が、その場にいるのだ。

小説家、物書き、良い仕事だよ。自分では、一切、動かない。寝椅子に横たわり、主人公の名前だ、見てくれだ、社長だよ、勝手に決めて、むふふふふふ。自分では、一切、動かずに、

「いやあー、最近の若い者は、細菌です」とか「今日は、僕、体調が悪くて、いや、なに、インテリは体も僭越じゃない、繊細なのです」「書けないですねえー、世界が、醜悪過ぎる」。なんて、言ったらギャラが入る。

たとえば、すべての木々が逆さに生えている。これは、現代美術家の一人が、本当に、作品化した。名前、失念。それから、村ぐらいかな、これが、一軒の家だったら、どうなるのだろう。畑の真ん中に、一軒の家。ありゃ、昔の城塞都市じゃ。やはり、昔(年寄り)の方が、進んでいたのだ。

ありゃ、紙枚が尽きた。全然、前に進まない。

談志師匠と、同じ。

「次回のあらすじ」

ニコル、別嬪、キュートな姉ちゃん、スーパーのパーキングで襲われるが、バットマンライジングの本物の、衣装を着た、シニアマン(おっ、俺だよ、俺っ)が現われる。スーパー界での、男女バランスは？
だれか、続き、書いてくれない？
(衣装代がね、出ちゃうんだよ。儲かるよ、これは。しかも、ギャラが凄い)。

企業小説っての、どう？

企業の話じゃないの、だから、ネタがなくなるのって！

一本の小説を、仕事として書くわけ。会社員として。

2012.10.18 Thu

RHYTHMIX2

この動画の説明は、1に順ずる。以上。

動画紹介、アホエッセイと交互に書いていると、すでに、書いた。

考えたら、RHYTHMIX3で、動画紹介はお仕舞いなので、ほとんど、このブログの初期の目的は、間もなく達成。そろそろ、あとがきの準備でもするかしら。やはり、キャンディーズのように、惜しまれて去りたい。一挙に書き捲くって、一挙にブロガーの最盛期を向かえ、消えてしまう。これはこれで、格好いい(かも)。読者の皆さん、ありがとお一、なんて、泣きながら。ただ、一度、点火した執筆狂。治まるかしら？伝説のブロガーとして、歴史に名を刻む。これも手だな。なに、ごちゃごちゃ言ってるのって！増刷、増刷、100万部っ、てな人なら分かるけど。伝説のブロガーの憂いの横顔。ちょっと、プロ画変えようかしらねえ。

当初、ちまちまと更新して(週二回とか)、家事の合間に、ちょっと、頭の体操。なんて考えていたら、思わぬ洗顔中の軽い咳。で、結構、重症のぎっくり腰。二週間、寝たきり、座りきり、これがブロ中を悪化させた。俺が、最後に、公の場で物を書いたのが、2001年だから、十一年の個人的断筆宣言が、一挙に解除。で、解除されると、この通り。週間更新率11.6回。村一番の元気者。しかも、関西方面の異星人と時空を超えて感応してしまった。どんどん、ピアノが疎かになり、コンサートのプロモートもほっぽり投げ(あんた、拙いよお一、これ)、この様だ。コメント狂も併発しそうなので、ちょっと、自制致しました(ご返信、恐縮です)。原稿用紙200枚のコメントなんて、ブログの乗っ取りだよって！俺は、アホなので、やりかねないのだよ。善意のつもりで送っていたら、ブロガーさんの分より、コメントの方が長かったりして、近所迷惑甚だしい。奥さん、このおはぎ、奥さん、このぼたもち、このチョコ、美味しいのよお一、じゃかーしい！俺は、甘いものは食わないのって！厳しい辛口の間人なの。文体に現われているでしょって！

たぶん、一ヶ月で原稿用紙換算枚数200枚ぐらいになっているはずだ。これでは、有難味がなくなる。でしょ？でもねえ一、俺の世代、および上。ガキの頃に、「男の子は無口」という教育受けたわけね。で、この状態でフランスに来ると、「自分の意見のない馬鹿」。こうなってしまうわけ。だから、三十年以上もいると、へらへらになる。自己防衛。攻撃あるのみ。弱肉強食。「細やかな気遣い」。これをじーと、三万年ぐらい待つて待つて切れる。「おめえーらあ一、気がきかねえ一」。裕一徹。ちゃぶ台をひっくり返す。で、「あっ、これ取って欲しかったの？ちゃんと、いいなさいよ、取ってって」と、こういうご返信が返って来る。分かりますか？

ところで、頭の中にアホネタが山積している。筆トークの後は、こっちを放出しようかしらね。それか、だれか、代わりに書いてクレヨン。以下、アホネタ列記しますので、ご遠慮なく、お書き下さいませ。印税は半分でもいいよ。

「ハイランダー(不死の超人たち)のパロディー」

俺、やだよ、800年も生きるの。天保二十三年に、江戸の女郎屋で揉めた女と、ぼったり。おー、怖っ。

「村全体が一軒の家」

昔のフランスの城塞都市だけど、シュールだ。これは、結構、マジな文学作品に、その気になればなるだろう。

「海の水がなくなってしまった風景」

お笑い小説として書こうなんて思って、たぶん、書いている内に、絶対にマジになるだろう。山昇りではなく、今日は、天気がいいから、海下りに行ってきまあーす。なんていうブログもできちゃう。でも、こう書いてるけど、ちょっと、マックス エルンスト、イブ タンギーの絵を思い出して、怖い。

「逆さに生えた木々」

これは、昨日、書いたけど、根っこを観賞するわけだ。

で、現代美術家が、逆さじゃないけど、浮遊する森という作品を作っている。実際に、俺は、北フランスのアラスという町の大広場に浮かぶ人工の森を見ている。小鳥が勘違いして、群がっていた。

「突然、日本とイギリスの位置が入れ替わる」

考えただけで、面白い。でしょ？これはお笑い系でもいけると思う。

「フランス料理が、日本食だったら」

これは、マジで良かったんだけど。

「企業小説」

おい、君、(課長が)、これは、純文一課の町田に回して。これは、かなりエロイなあー、これはH第二課。このアホ小説は、アホ第三課の裕に書かせろ。会社として小説書くわけ。

延々と書いていても仕方がない。

急に、おじさんらしい文体になる。

今年のフランスの秋は、例年に較べると、日照時間が25%少ないとテレビでやっていた。

確かに、雨ばかり降っている。雨、曇り、ほんとに、たまに、日差しがちょっと、で、雨雨。

ヨーロッパの国々は、南ヨーロッパは別だけれど、夏が短い。一年の三分の二ぐらいが、秋と冬という感じ。これは、前に書いたパリ症候群のお姉さんたちにはシビアな季節だろう。明るいシニアマンの俺でさえ、気持ちが純文になってくる。で、暗くなるのかということ、アルキヘンデスの定理と同じで、明るくなる。なんだか、真夏に、同じことだけど、夏のだ真ん中辺りに、カンカン照りの日差しの中で、妙な寂寥感がやってきたりする。ガルシア マルケスの百年の孤独とか、深沢七郎さんの笛吹川といった小説が、頭の中に浮かんできたりする。

やはり、おっさんには、なんだか、夏という季節は相応しくないのかもしれん。

今、思い出した。マイケル ジャクソンのマネというのが、俺の宴会芸のひとつだった。最後に、ムーンウォークやったのいつだったかしら？ダンサーの友達の家での大晦日だったはず。で、ダンサーの家だから、飲めや歌えやではなく、飲めや踊れやになる。元、デスコ狂だから、ロボットダンスだ、マイケルの踊りマネだ、最後に、前衛舞踏のモノマネ。と、こうなる。一時期、マジで、舞踏ダンサーになろうかと思ったぐらいだ。

とにかく、自分でやってみないと気が済まない。芸術芸能の自給自足だ。

一時期なんか、家にある絵だのオブジェだのは、皆、自分の作品。別に、飾ってあるのではなく、散乱しているだけ。夜、ベッドの中で読むのは、自作の小説。で、ステレオから流れるのは、俺のピアノだ。そして、楽器も、パーカッション、トランペット、リコーダー、ギター、サクソと齧った。ピアノの右下にトランペットで、右側にパーカッションなんて時期もあった。ピアノの高音部に駆け上がり、そのまま、パーカッションなんてやって居ったのだ。

あれっ、だから、マイケルのマネだったね。十五年前ぐらいかしらね。今やったら、たぶん、一週間ぐらい入院だ。やはり、肉体的な選択肢が狭まってるから、ピアノとブログぐらいでいいよね。

2012.10.18 Thu

自己陶醉お自慢ブログ

おーし、チャーハン食ったし、そろそろ、コンサートのプロモート。あっちこっちにメールはせんといかんし、結構、いろいろとあるのですよ、ミュージッちゃんも。

お客さんこないと、ジャズクラブから、即、解雇通知だし、こっちだって生活掛かってんだっ。と、パソコンの前に座った。

結果、すでに、これを書き始めている。拙いなあー、拙いなあーと、言いながら、結局、書いている。関西方面のバルタン星人に操られているような気もする。遠い日本から、「ほおーほっほっほっ」という声が聞こえる。その内、うなされるかもしれない。午前三時ぐらいに、がばっと起きて、半分寝ながらブログ書き始めたり。謝りながら(だれに?)書いていたり(汗)。

この(汗)とか、絵文字([- +])(やり方がわからん)。最近まで知らなかった。(笑)、これだけ。絵文字、可愛い。これだけで、小説書けないかなあーと、すぐアホは考える。大体、漢字自体が絵文字だから、可能なはずだ。

本来なら、シニアマン6、RHYTHMIX3、筆トークあとがき。あと三回で終了なのだ。そして、惜しまれて去る。こういうシナリオだった。39km地点で、そろそろ国立競技場の歓声が聞こえ始めている。

シニアマン6、なんか飽きちゃったよ。すぐ、止める。あと三回、三回。勝手に、ひとりで締め切りに追われる職業作家をやっている。でも、このあと何回とか勘定始めると、なんか、急いでやろうとする。宿題じゃないんだけど。人間心理、面白い。フランス人の勤務態度にそっくりだ。毎日、春(一週間)、夏(三週間)、冬(一週間)のバカンスまで、あと何日。定年まで、あと何日。カレンダーにバツテン付けていくわけ。

でも、ブロ中のジャズピアニスト。あまり、絵にならんから、一旦はゴールインしようと思っっている。で、あとがき書いて、一服して、二十二分後に、「裕イサオ新ブログ アホ小説集」なんて書き出ししたりする。もう、こうなると金勘定に走りたくなってくる。月給制にしてもらえない。この吹き零れる馬鹿頭。パトロンいませんか？もう、仕事にしまえばいいわけだ。こうなると。セコイかな？一文字いくらとやると、俺は、儲かるはずだ。ページでいくらとやられると、損だ。流行推理小説作家のページになるしかない。

「えっ」

「いや」

その時、鹿島は呟いた。

空は、晴れていた。

バツバァー――。

遠くで、銃声が響いた。

これで、原稿用紙の半分ぐらいいける。

ところで、真摯なブロガーさんたちに、こんなことを言っていると、串刺しになってしまうので、突然、自慢話。先に、断ってしまうと、嫌味にならないでしょ？結果は同じ？

俺は、小学校六年生(十二歳)の時、学校で一番ないし二番だった。身長は、学校で二番目に背が高かった。100mおよび走り高跳び、県下で二位だった。そして、そして、今となっては、くくくくくっ、痴脳指数は、県下一位という記録を持って居るのだ。で、町中の優秀な中学へ、越境入学して、伝統ある男子高校へと進学。卒業する時は、ビリだった。たぶん、俺だけ、学年全体の生徒数を覚えているはずだ。とはいえ、俺がいた学年は、その高校で「伝説の学年」と呼ばれるくらい憂愁だった。第一、俺の右側で、いつも寝ていた親友のひとは、いまや、盗聴大学の教授だよ。半端じゃないよね。低賃金で泣いてたけど、フランス来た時。俺の地元の改行医は、皆、同級生だ。憂愁なやつが多いのだ。

五年前だ。なんと三十年振りに、皆に会った。

ホテルのロビーの右奥に受付らしきもの。おやじが二人座っている。年配のおじさん。

会場を、ちらっと覗いた。七十人ぐらいの、年配のおじさんたちが座っていた。

ありゃ、会場間違えたなと思い、レセプションへ。

「すみません、ooo高校の同窓会の会場は？」

「はい、あちらでございます」

「はぁ――？」

これ以上は書かない。

で、身長は、十二歳でストップ。痴脳指数だけアップ。学年の順位は、憂愁過ぎて、一位を追い越してしまい、先頭の前を走っていた。メビュウス君。で、俺の後ろを走っていたやつが、盗聴大学だ。

俺は、元々、イケメンなのだが、年とともに「似ている俳優さん」が、微妙に違っている。

「二十代」松田勇作。ただし、身長差は加味されていない。たぶん、顔の長さは同じだろうが、俺の方が15cmも小さいから、六頭身の松田勇作。やはり、俳優さんは、顔だけでは駄目だということが分かった。

「三十代」田村正和。この頃が絶頂期だったのかも知れない。
日本から、遊びに来た知り合いの知り合いの娘さんなんか、裕さんって、日本でモデルとかしてたんですかぁ？マジで、何回か聞かれたのだぞ。「まっ、まあね」なんて返事しちゃったりして。あと5cm身長が高ければねえーって女友達に言ったら、あの野郎、身長っていうかぁー、足がね。だって。ちきしょうめっ！

「四十代」役所広司。

「五十代」ジャッキー チェン。

俺はファンだから、ちょっと、嬉しいけど、イケメン度の低下は、もはや、明白。

俺は、二枚目で苦労したのだよ、皆さん、お分かり？

これは、意外と辛いのだよ、当事者(俺、俺っ)には。

しかし、俺は頭脳名跡だから、三枚目へと華麗なる後退をしたのじゃ。

三枚目のおっさん。いやぁー、楽チン楽チン。

自意識なんてもんは、肥えたごの中へ、ほかしてしまった(なぜか関西弁。バルタン星人の呪いだ)。だから、人前で上がったたりしないのだ。

そして、ここが大切。

今の方が、女にもてるのだ。

女心って分かんないわ。

あと、二回、あと、二回。

注 編集部、大変に誤字が多いですが、作者の意向により、そのままとさせて頂きました
2012.10.18 Thu

RHYTHMIX3

RHYTHMIX

この英語、ありそうで、辞書で調べるとない。

ユーリズミックスというイギリスのポップグループ(男女の二人組み)があったけど。

リズム ちょっと、字足らず

リズムカル なんか、字余り

で、これにした。音が、なんか、しゃきっとしている。

極論してしまうと、「はい、裕先生にとって音楽とは?」「はい、リズムです」と答える。

やはり、太鼓系が好きだ。昔、クラシックピアニストに嫌味を言われたことがある。「ピアノを打楽器のように弾く人には堪えられません」。俺のことじゃなくて、山下洋輔先輩の話。

もちろん、その意見、俺には良く分かる。メロディー楽器、和声の楽器でもあるから、当然、そういう意見もでる。山下先輩エッセイだと「なんのなんの、持ってこいっー、ピアノっー、叩きをワッたるうー」。こういう人もいる。俺は、どちらにも賛成。いい加減な立場だよな、毎回。

で、別に、謙虚とか謙遜ではなくて、このシリーズの1と2は、だれでも作れますよ、と書いた。それは、本当。でも、この動画のコメントにも書いたけど、3は、ちょっと、だれでもは難しい。いや、そうじゃないと、こっちも商売上がったたりだ。

この曲を、試しに、大音響でお聴かれになると、Isao YU先生のノリノリ振りが、よく分かると思う。一日中、ローランドを弄っていたから、もう、これ全身リズムミックスと化していたので、唸りながら立って弾いた。踊りながら。考えたら、マイケル ジャクソンと、俺はおない年だ。おっさん、おっさんって老け込んでらんねんだっ、芸能人は。

しかし、俺みたいな売れない芸人は、気が楽だけど、有名人は大変なんだろうなあー。坂本龍一さんなんて、ちょっと、コンビニにおにぎり買いに、なんて、いかねえんだろうな?

フランスの女優さんたちも、デビューの頃は、ころころしてたのに、今、みんなガリガリだ。多少は、老けたにしても、高級クリーム、ヘアーサロンだ、高級美容室だに行っていることが、逆にばればれの素肌だ。俺からすると、別に自然体で老ければいいのになあーと思う。まあ、お金、有り余ってるから、使い道がないとはいえ、女優だったって、そんなにしなくてもねえー。しまいには、リフトアップで、「顔だけが、びしーっ」。で、腕の下。そっ、脇の下の向かえ側。こっちは、ぷるぷるなんていう不思議な人工生物が出来上がる。

で、この人工生物みたいな女優さん(男優さんもいるけど)ばかりの、映画。アメリカのアクション

ンものは、こっちの方がいいような気もするんだけど、文芸物だの、貧乏な下町の話なんてのに、この人造人間ばかりも興ざめ。普通にしてた方が、役者生命長いと思うんだけどね。

そして、今でもそうなんだけど、女の人の容姿云々が多過ぎる。

男は、年取ると、渋みが出てとか言うけど、女の人だってそうだ。

俺は、主義主張上のフェミニストではないけれど、どちらかというところ、その傾向があんだらうね。

自然体で年取ってる、たとえば、俺と同年代の女性。そっちの方が綺麗に見えるし、別に美女である必要はない。普通の顔だちで、綺麗な人は一杯いる。

たぶん、女優さんって、良くも悪くも、商売だけど、自意識過剰の化け物かもしれん。

やはり、他人に見られていると、二十四時間、緊張して、警戒してないといけないのかしらね。家庭生活とか、大変だっ。ずっと、化粧してないといけないし、おならなんか出来ないし、大変だわな、これも。凄い巨大なうんこしちゃって、便座が真っ二つになったあー、拙いよな、女優さんではな。旦那も疲れちゃうよな。

でも、富岡多恵子さん風に言うと、役者ってのは、舞台=夢の国の人間なんで、私生活なんて見せてはいけない。日常の人間ではないとなる。そして、昔は、役者になる=勘当される。みたいなシビアーな世界。要は一種の出家みたいな感じ。そうすると、俺も、やはり、孤高のピアニスト然としていないと本当はいけない。ブログでへらへらなんて、拙い。しかも、コメント狂なんて論外。と算数上はなるけど、手遅れだ。今更。

神秘的、謎めいている、近寄りがたい、庶民には手の届かない、孤高、本来は、こうでなければいかんかった。親しみやすい、手の届く、癒し系のジャズピアニスト。マーケティングの間違いに連載50回目にて、気付いた。もう、遅い。

2012.10.19 Fri

筆トーク あとがき

親愛なる読者の方々へ。

一ヶ月と五日に渡る、長期間のご愛読、誠にありがとうございました。

謹んで、御礼申し上げますと共に、親愛なるブロガーさんたち、および、ご家族のご健康、および、今後のご活躍、心より、お祈り申し上げます。

ありがとうー、皆あー、幸せでしたあー、ありがとうー。

裕イサオ

2012年10月18日。フランス現地時間17h37。

2012.10.19 Fri

俺は、二日前、筆トークのあとがきを書き終え、和服姿でサマータイムを弾いていた。

それなりの達成感があった。十一年振りの新作といえはいえるのだ。

その晩は、養命酒をちびちびやりながら、久しぶりに金子光春の「ねむれ巴里」を読んだ。

金子さんまで行くと、「僕」という一人称が、逆にしっくりするなあー。俺は、まだいいや、若僧だから、俺で、などと考えながら、眠りに付いた。

翌朝、なんだか外が騒がしい。

いつもは、小鳥の声しか聞こえない。二階の寝室のカーテンを15cmぐらい捲る。

ぎよ。俺の家の前に、群集。横断幕。

「愛してるうー」「お願いっ！書いてっ！」「裕さあーん」「ハートマーク」「唇マーク」
なんだか、時々、「なに、もったいぶってんだっ、三文文士！」「無内容は許したるっ、量で勝負ゆうたやんかあー」「悪口が言えなくなるから、書けっ、馬鹿っ」

どうも、機動隊まで出ている様子。怖くて見れない。暫くすると、電話が鳴りっぱなし。ご近所からだ。「子供の送り迎えが出来ない」「通行不能」「主人が家まで、辿り着けない」。ひたすら、お詫び。いやあー、参った。二日前に紙テープの嵐の中で、惜しまれて去った。つもりだった。

とうとう、女性ファンが、俺の家の入り口にテントを張ってしまった。書くまで梃子でも動かんと。俺は、監禁されてしまった。

幸い、スーパーの買出し後の翌朝。酒、タバコのストックも多少あり、不自由はして居らん。

林家三平の口調で、「こまっちゃったなあー、もー」と呟いていたら、電話。

「もしもし、裕先生ですか？」

「はいはい」

「大阪のバルタン音楽出版の榎田です」

どきっ。「原稿、まだですかねえー、今日で、一ヶ月と七日経つのですがねえー。先生も、お忙しい。はい、重々、承知して居りますが.....」

「いや、君、タイトルは、とっくに送っとるよ。私とジョン コルトレーンはエントロピーって」

「先生、また、悪いご冗談を。本文を送って下さいよおー」

「なんだ、君、水臭いね。最初から、そう言いなさい。本文も必要だったのね？」

「えっ？」

「君、僕はねえー、フランス人だよ。きちんと、ご指示を頂かないとねえー」

「先生、また、悪いご冗談を」

「まあ、いい、近々に」

「お願いしますよ」

「君も知っとるだろう。私は、筆が遅いし、ねえー、頭も老朽化しているから、そうそう、ネタは出てこないよお」

「先生、お言葉ですが、先生のブログ」

「むむ」

「拝読させて頂きましたが.....」

「いや、まあ、君、その、それは園アヤコ」

「零れ出るネタの嵐。週間更新率最大11.8回」

「いや、あれは、仕事の合間に.....」

「合間に？」その時だ。榎田の声が一オクターブ下がった。(汗)

「じゃかぁーしいい、出版社を舐めとんのかいな、おんどりゃー！」

関西系が怒ると、東北人には超怖い。で、俺は、泣きながら原稿を書いた。

と、すべて嘘。長い前置き。例によって。

「筆トーク あとがき追記」

はい、閉店理由は、

1) YouTube動画のプロモートブログとして完結したこと

2) 一ヶ月と五日に渡り、ぎっくり腰も含めて、我が愛しのシークレットガーデンを放置していたこと

昨日、ミニ畑の崩れ落ちた石壁を修復。なんせ、俺の家は、1900年築なのだ

と、あっけらかぁーんとした理由。なんの利害も営利も外圧もない。書く時間も、十分ある。

で、3)があるのだ。もちろん、1)が理由なのではあるが、ちょっと、やはり、芸能人として、記者会見に臨まなければならない。

もともとが、動画のプロモートだったから、当然、ミュージッシャンのエッセイという形を取った。

やや、非日常、おちゃらけスイング文体を採用した。一人称も、俺にした。で、それなりの自分なりの書き物としての成果はあった。ところが、書き進む内に、俺の脳内シンコペーションが始まった。途中から、確実に、「ミュージッシャンの」エッセイ。この括弧部分が必要ではなくなってきた。目線が、どんどん物書き目線に移行し始めた。

俺は、もと引き籠もり、自閉症(十代後半)で、万年、鬱病(だれも信じてくれないが、本当)。
で、二十代後半からシジューニまで、十三年間、サハラ砂漠(読者皆無の比喩)のみかん箱の上で、
小説を書いていた。で、シジューニの時に、これが再発、悪化し始めた。で、止めた。ピアノに
専念した。物を書くこと。湿っぽいし、暗い。再発、悪化を恐れ、十一年間、一切なにも書か
なかった。で、ブログに出会った。サハラ砂漠の三文文士トラウマとご相談しつつ、ちょっと、
書き始めてみた。怯えながら。書き進む内に、むらむらと執筆欲が沸いてきた。時々、トラウマ
が近付いてくる。「じゃかあーしい、あっちいってろっ」と、蹴散らした。心配した鬱はやって
こなかった。ありゃ、俺も、ちょっとは、大人になったのかしら、と、当然、調子付いた。し
かも、ブログの執筆を始めてから、ピアノも絶好調だ。一挙両得だ。

シニア世代の鬱は、半端ではないので、恐れていたのだ。俺の年で、自分の内奥に深く佇む。な
にもない。空洞だ。当然、生きてきた時間が問われる。この文学のメカニズムを恐れていたのだ
。でも、開き直る。多少は。いいじゃん、空洞で。しかし、とか、これを恐れていた。「いいじ
ゃん」と「しかし」を繰り返していたら、「いいじゃん」で、止まった。いい感じ(ローラ)。

しかも、ウェブの海は、開かれていた。十一年前のサハラ砂漠とは違っていた。
他のブロガーさんとの交信があった。熱烈なメッセージまで頂いてしまった。恐縮です。本当に
。
ありがとうございます。深謝。

はい、これが実情でした。お騒がせ致しました。

ところで、一旦、文士魂に点火してしまうと、これは、こちとら、(かっば)エビせん体質。
もう、止まらない。まず、ペンネームを国木田潤一郎と改名。これぞ、随筆の本道。フランス昆
布茶日記(仮題)。昨日から和服。丸メガネ。火鉢の横でキセルを吹かしながら、ネタを考えて居る
のだ。昭和初期の文士そのものだ。

ふふふふふ、I'll be back. James YU
Coming soon.....

「裕イサオ 脳内シンコペーション」
フランスより愛を込めて！流麗饒舌スイング文学エッセイ！

「本日の、裕イサオ先生の記者会見は、この辺りで。では、写真タイムに参ります。裕先生、よ
ろしくお願い致します」「ふむ」。俺は、隣の優香ちゃんと一緒に立ち上がった(嘘)。

今、なんとか、シニアイケメン風の写真を捏造(撮影ではない)できないかやってるわけ。面倒だ

から、役所広司さんの写真、拝借しようかとも思ったが、なんか、これも、癪だ。これが出来次第、開始するね。チャオー。アビアント！エ アンコー メルシーx1000！。ピンカートン。

2012.10.20 Sat

楽しんで頂けましたか？

ブログ「脳内シンコペーション」へと続いて行きますので、乞うご期待？

ご愛読、深謝致します。

裕イサオ 5月22日2014年。

追記として

Bloggerにて執筆。後日、FC2へ引越し。その際に、改行位置のズレ=禁則文字等の不備が発生してしまいました。公開するならきちんとしなさいとお叱りを受けてしまいますが、525記事(原稿用紙換算枚数推定1,000枚以上)の再読再編集は、正直、手に余るのが現状です。当初は、書籍化の予定はなく、今回、いつまで経っても完結しないブログに区切りをつけるために、急遽の書籍化となりました。ご容赦頂けますと幸甚です。

表紙写真by Yoshiyuki TAKACHI。

最後に、私の人生設計まで変わってしまう、このような素敵なサイトを提供して下さるブログ・パブー社へ、厚く御礼申し上げます。ブラボー！ 心から拍手をお送り致します。